刑事訴訟法論卷之中目錄

第二編　裁判所　四四七
第一章　裁判所ノ管轄　四六七
第一款　法定ノ管轄　四六七
第二款　管轄ノ指定　四九三
第三款　管轄ノ移轉　五〇二
第二章　裁判所職員ノ除斥及忌避、回避　五一〇
第三編　犯罪ノ搜査起訴及ヒ豫審　五二五
第一章　搜査　五二五
第一節　告訴及告發　五三四
第二節　現行犯　五六六
第三節　搜査處　五七九

第二章　起訴　五八八
第三章　豫審　五九三
第一節　令狀　五九七
第二節　密室監禁　六三三
第三節　保釋　六三六
第四節　證據　六四七
第五節　被告人ノ訊問及ヒ對質　六五三
第六節　檢證搜索及ヒ物件差押　六六九
第七節　證人訊問　六八七
第八節　鑑定　七二三
第九節　囑託　七三三
第十節　現行犯ノ豫審　七四一
第十一節　豫審終結　七五七

刑事訴訟法論卷之中目錄終

刑事訴訟法論卷之二

法律學士　龜山貞義著

第三編　裁判所

裁判所ノ構成權限

（一六四）裁判所ハ天皇ノ御名ニ於テ司法權ヲ行フ處ニシテ其構成及ヒ權限ハ裁判所構成法ニ之ヲ規定ス今其刑事ニ關スル部分ノ大要ヲ說示ス併セテ司法權ノ作用ニ關係スル他ノ官吏即チ檢事、裁判所書記、司法警察官及ヒ執行官吏ノ事ニ付キ一言ヲ費ス所アラントス

普通刑事ノ裁判所ヲ別テ四種ト爲ス區裁判所、地方裁判所、控訴院及ヒ大審院是ナリ

第一、區裁判所　此裁判所ハ最下級ノ裁判所ニシテ單獨判事ニテ裁判

ヲ爲ス其權限ハ左ノ事件ニ付キ第一審ノ裁判ヲ與フルニ在リ

(イ)違警罪

(ロ)本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

(ハ)刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情(ロ)ニ擧ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタル輕罪

右(イ)(ロ)ニ記載シタル輕罪、違警罪ハ當然此裁判所ノ權限ニ屬スルモ(ハ)ニ記載シタル輕罪ハ檢事ノ移付ニ因リ始メテ其權限ニ屬ス可シ即チ檢事ノ見込如何ニ依リ或ハ此裁判所ニ於テ裁判ヲ爲シ或ハ地方裁判

所ニ於テ裁判ヲ爲ス等權限不定ノ嫌ナキニ非ス然レトモ其本性質トシテハ地方裁判所ノ權限ニ屬スルモノトス唯檢事ノ移付アリタル場合ニ限リ便宜上變則トシテ此裁判所之カ裁判ヲ爲スニ過キサルノミ」

右ノ如ク(ハ)ニ記載シタル事件ハ固ト便宜上其權限ヲ此裁判所ニ屬シタルモノナルヲ以テ實際此裁判所ニ裁判セシムルコトヲ不便ナリトスル場合ニ於テハ檢事ハ其犯罪ノ情狀如何ニ拘ハラス此裁判所ニ移付スルコトナキヲ要ス例ヘハ小田原ノ犯罪ニシテ其被告人横濱ニ住居スルトキハ横濱地方裁判所檢事ハ之ヲ直チニ其裁判所ニ訴フ可シ殊更ニ小田原區裁判所ニ移付スルニ於テハ被告人ヲ小田原ニ護送スルカ又ハ同地ニ之ヲ召喚スル爲メ時日ト手數トヲ要スルノミナラス同區裁判所ノ裁判ニ對シ控訴スル者アルトキハ更ニ之ヲ横濱ニ護送シ若クハ召喚セサル可カラス此ノ如クナレハ事件ノ移付ハ寸益ナク

シテ大不利アリ決シテ之ヲ苟クモスルコトナカル可シ前例小田原ノ犯罪ニシテ被告人亦小田原ニ在ル場合ノ如キハ即チ同地區裁判所ニ裁判セシムルヲ便利ナリトスルカ故ニ此ノ如キ場合ニ限リ移付ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

地方裁判所

第二、地方裁判所　此裁判所ハ合議裁判所ノ最下級ニ位スルモノニシテ其中ニ一若クハ二以上ノ刑事部ヲ置キ區裁判所ノ權限及ヒ大審院ノ特別權限ニ屬セサル重罪、輕罪ニ付キ第一審ノ裁判ヲ爲シ又區裁判所ノ判決ニ對スル控訴及ヒ同裁判所ノ決定ニ對スル抗告ヲ裁判スルヲ以テ其權限ト爲ス即チ第一審裁判所ニシテ控訴裁判所抗告裁判所ヲ兼ヌルモノナリ

控訴院

第三、控訴院　此裁判所ハ中級ノ合議裁判所ニシテ一若クハ二以上ノ刑事部ヲ其中ニ置ク其權限ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴及ヒ其決定ニ對スル抗告ヲ裁判スルニ在リ是レ控訴院ノ名稱アル所以ナリ然レトモ右ノ外此裁判所ハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ地方裁判所ノ爲シタル判決ニ對スル上告ヲモ裁判スルカ故ニ此場合ニ於テハ上告裁判所ト爲ル可ク隨テ名實相適セサルノ結果ヲ生ス可シ啻ニ此不都合アルノミナラス大審院ノ外數箇ノ上告裁判所(現今ハ七箇所)アルニ依リ彼此ノ判決區々ニ出テ法律ノ解釋其統一ヲ得難ク甚シキハ控訴院カ上告ニ付キ法律ノ意ハ云々ナリト解釋シ以テ其下級裁判所ヲ羈束スルニ拘ハラス他ノ控訴ニ付テ同一ノ解釋ヲ取リタル判決ハ大審院ノ爲メニ破毀セラルヽノ奇觀ヲ呈スルニ至ラン余ハ此裁判所ニ上告ヲ判決スルノ權ヲ與ヘタル立法者ノ意ハ果シテ何レニ在ルカヲ知ルコト能ハス

大審院

第四、大審院　此裁判所ハ最上級ノ合議裁判所ニシテ亦一若クハ二以

上ノ刑事部ヲ其中ニ置ク其權限ハ控訴院ノ第二審判決ニ對スル上告及ヒ其決定ニ對スル抗告ヲ裁判シ又特別權限トシテ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪及ヒ皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ第一審トシテ終審トシテ裁判スルニ在リ

(一六五)以上裁判所構成法ニ規定シタル裁判所ノ外尚ホ裁判權ヲ行フ官署アリ左ノ如シ

第一、東京地方裁判所管内小笠原島及ヒ伊豆七島ニ於テハ區裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱ヒ而シテ其訴訟手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ許ス(裁判所構成法施行條例第十二條)

第二、樺戸、空知、釧路ノ三集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ルモノハ裁判ハ司獄官吏之ヲ行フ(同條例第十四條明治十五年第十六號第四十一號明治十八年第四十二號布告)

特別ノ裁判所

第三、清國及ヒ朝鮮國ニ於テハ駐在領事ハ輕罪、違警罪ノ裁判ヲ爲シ及ヒ重罪ノ豫審ヲ行フ其重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所ニ於テ之ヲ開ク(同條例第十五條明治二十一年勅令第七十一號)

(一六七)右ノ如ク普通ノ犯罪ヲ裁判ス可キ官廳ヲ設置シタルモ元來裁判官廳ハ自ラ事件ヲ取テ裁判ス可キモノニ非サルヲ以テ別ニ其官廳ニ向テ訴訟ヲ提起シ且ツ隨時公益上必要ナル處分ヲ請求スル所ノ官吏ヲ置カサル可カラス是レ各裁判所ニ檢事局ヲ附置シ檢事ヲシテ訴求處分ヲ擔當セシムル所以ナリ

檢事ノ職ハ大審院ノ檢事總長、檢事、控訴院ノ檢事長、檢事、地方裁判所ノ檢事正、檢事及ヒ區裁判所ノ檢事ノ數者ニ區別シ各〻其附置セラレタル裁判所ノ權限ニ屬スル事件ニ付キ訴求ノ職務ヲ執行セシム而シテ區裁判所檢事ノ職務ニ限リ其裁判所管轄内ノ警察官、憲兵將校、下士又ハ

林務官ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘク又司法大臣ハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村長ニ檢事代理ヲ命シ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノトス

清國及ヒ朝鮮國駐在領事裁判所ニ付テハ副領事、警察官若クハ書記生ヲシテ檢事ノ職務ヲ行ハシムル旨明治二十一年勅令第七十一號第二條ニ明文アルモ小笠原島伊豆七島及樺戸、空知、釧路ノ集治監ニ於ケル裁判ニ付テハ何人ヲシテ檢事ノ職務ヲ行ハシム可キ乎法律命令ノ之ヲ規定シタルモノナシ尤モ小笠原島ニ付テハ明治二十二年勅令第三十五號ニ島廳官吏ヲシテ檢事ノ職務ヲ行ハシムル旨規定シアリタルモ裁判所構成法施行條例ハ復タ此ノ如キノ明文ヲ置カス故ニ今日ハ伊豆七島等ニ於ケルト同シク此點不分明ナルニ至レリ左レハ是等ノ地ニ於テハ檢事ノ職務ヲ行フ者ナクシテ可ナル乎島吏及ヒ司獄官吏

ハ自ラ事件ヲ取テ裁判スルコトヲ得ヘキ乎余ハ其島吏及ヒ司獄官吏ノ中ニ就キ檢事ノ職務ヲ行フ可キ者ヲ定メ之ヲシテ訴求處分ヲ行ハシムル方穩當ナリト信ス然レトモ是レ固ト法律命令ノ規定スル所ニ非サルヲ以テ島吏及ヒ司獄官吏カ自ラ事件ヲ取テ裁判シ又其裁判ニ付キ檢事ノ職務ヲ行フ可キ者ノ立會ナキモ之ヲ違法ノ裁判ト爲スコトヲ得サルヤ勿論ナリトス

(一六八)檢事公訴ヲ提起シ而シテ判事之ヲ裁判スルニ於テハ以テ刑事訴訟ノ目的ヲ達ス可ク因テ裁判所中此他ノ官吏ヲ置クノ必要ナキカ如シ然ルニ法律ハ各裁判所ニ裁判所書記ヲ置キ而カモ之ヲ裁判所構成ニ必要ナル職員ト爲セリ

裁判所書記ノ職務中往復、會計其他ノ庶務ハ裁判ニ關係ヲ有セサルヲ以テ茲ニ之ヲ說クコトヲ止メ其職務ノ一タル記錄殊ニ訴訟記錄ヲ作

ル點ニ付テ一言ス可シ

凡ソ訴訟手續ニ付テハ其豫審ニ關スルト公判ニ關スルトヲ問ハス一々之カ記錄ヲ作ラサル可カラス豫審ニ於テ被告人及ヒ證人ヲ訊問スルモ其問答ノ次第ヲ記錄ニ留メ置カサルトキハ他日其被告人ノ陳述證人ノ證言ヲ證據ト爲スニ由ナカラン臨檢、搜索等ニ因テ發見シタル犯罪ノ情況等ニ付テモ亦同シ是レ第九十二條ニ於テ「豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ云々」ト規定シタル所以ナリ

又公判ニ於テモ其法廷ニ現ハレタル陳述、辯論其他百般ノ手續ヲ錄取シ置カサルトキハ他日上訴アリタル場合ニ於テ上訴裁判所ハ是等ノ事ヲ知ルコト能ハス隨テ上訴ノ當否ヲ判スルコト能ハサルノ不都合

ヲ生セン此他再審ノ訴又ハ特赦ノ申立アリタル場合ニ於テモ原訴訟手續ヲ審査スルノ必要アリ故ニ第百七十六條ヲ以テ「公判ハ判事、檢事、裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトス」ト規定シ又第二百八條ヲ以テ裁判所書記ハ公判始末書ヲ作リ左ノ事項其他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ云々」ト規定シタル所以ナリ

書記ノ裁判所構成ニ必要ナルハ前述ノ如シト雖モ法律ハ豫審ニ付テ例外ヲ設ケ「裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ」(第九十二條第二項)ト規定シ以テ書記ノ立會ナキモ通常人二名ノ立會若クハ監獄ノ官吏一名ノ立會アレハ足レリト爲シタリ是レ必シモ書記ノ立會ヲ要ストスルトキハ急遽ノ際處分ニ着手スルコト能ハス集取シ得ヘキ證憑モ之ヲ集

取セスシテ徒ニ其湮滅スルニ任セ逮捕シ得ヘキ被告人モ之ヲ逮捕セスシテ隨意ニ逃走スルコトヲ得セシムル等ノ不都合ナカラシメンカ爲メニシタルモノナリ此例外ノ場合ヲ除クノ外書記ノ立會ナクシテ爲シタル豫審公判ノ處分ハ共ニ違法ナルヲ以テ決シテ其効力ヲ生スルコトナシトス

清國及ヒ朝鮮國領事裁判所ニ付テハ前掲勅令第三條ニ「書記ノ職務ハ領事館書記生若クハ其他ノ館員之ヲ行フ」ノ明文アルモ小笠原島伊豆七島及ヒ樺戸、空知、釧路ノ集治監ニ於ケル裁判ニ付テハ何人カ書記ノ職務ヲ行フ可キ乎ノ規定ナシ左レハ前段檢事ノ職務ニ關シテ說示シタル如ク訴訟記錄ヲ作ル者ナキモ違法トスルノ限ニ在ラサル乎余ハ若ク信スルコト能ハス何トナレハ右ノ特別裁判所ノ裁判ニ對シテ被告人ヨリ上訴ヲ爲スコトナシトセス若シ上訴ヲ爲シタル場合ニ於テ

訴訟記錄ノ見ル可キモノナキトキハ何ニ由テ其上訴ノ當否ヲ判定スルコトヲ得ヘキ乎故ニ其官署附屬ノ吏員ヲシテ書記ノ職務ヲ執ラシメサル可カラスト信ス

(一六九)檢事ハ前已ニ述ヘタル如ク訴求處分ヲ擔當スルモノナレハ其公訴ヲ提起スルノ前ニ在テハ殊ニ綿密ナル搜査ヲ遂クルヲ要ス然ルニ檢事ノ員數固ヨリ限リアリ普ク之ヲ全國各地ニ配置スルコトヲ得ス是ニ於テ乎其耳目ト爲リ其手足ト爲リ以テ搜査ノ職務ヲ補助スル者アルヲ必要トス是レ司法警察官ノ設アル所以ナリ

裁判所構成法第八十四條ニ「司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及ヒ其檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ○司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受

ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム」ト.アリ今此條ニノミ依ルトキハ司法警察官ト爲ル可キ者ハ司法省ト內務省ト又ハ檢事局ト地方官廳ト協議シテ定メタル者ニ限ル可ク又其者ハ必ス行政警察官中ヨリ撰擇ス可キモノヽ如シ果シテ然ランカ其員數自然夥多ナルコト能ハスシテ搜査普及ノ目的ヲ達スルコト能ハス因テ本法ニ於テハ特ニ司法省ト內務省ト又檢事局ト地方官廳トノ協議ヲ要セス法律上當然司法警察官トシテ搜査ノ事ニ任ス可キ者ヲ定メタリ(第四十七條)左レハ本法ハ此規定ヲ以テ構成法ヲ無用ニ歸セシメタルノ觀ナキニ非サルモ其意ハ決シテ然ルニ非ス構成法ハ專ラ檢事ニ附屬シ常ニ主トシテ搜査ニ從事ス可キ司法警察官ノ事ヲ定メ本法ハ之ニ異ナリテ本務ノ傍ラ臨時事ニ從フ可キ司法警察官ノ事ヲ定メタルモノニ過キス此二法並行ハレテ相悖ラサルモノト解セサル可カラス

○本法ニ於テ司法警察官ト爲ス者ニ二種アリ一ハ檢事ト同一ノ權ヲ有スル者一ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ク可キ者是ナリ

甲種ニ屬スル者ハ東京ニ於テハ警視總監他ノ地方ニ於テハ其行政長官トス是等ノ官吏ハ一般行政警察ニ付テハ內務大臣ノ指揮ヲ受クルモ地方行政警察ニ付テハ其長官ト爲ルノ地位ニ立ツモノナレハ假令行政警察ノ力豫防スルコト能ハスシテ犯罪ヲ生シタルニ因リ便宜上直チニ司法處分ニ移ルコトヲ得セシムルモ其ノ身自ラ輕微ナル事件ニ干涉シテ處分ヲ爲ス可キモノニ非ス國事犯、兇徒聚衆等一地方ノ安寧秩序ヲ害スル犯罪ニ付テノミ司法警察ノ處分ヲ爲スヲ適當トス法律ノ意モ亦蓋シコヽニ在リテ存ス

乙種ニ屬スル者ハ左ノ如シ

一、警視、警部長、警部　是等ノ官吏ハ元ト警察事務ノ爲メニ設ケタルモ

ノナレハ行政警察ト共ニ司法警察ノ事ニ任スルハ當然ニシテ實際上又最モ便宜トスル所ナリ

二、憲兵將校、下士　是等ノ官吏ハ主トシテ軍事警察ノ爲メニ設ケタルモノナルモ今日ノ法制ニ於テハ前掲ノ官吏ト共ニ行政司法ノ兩警察ニ與ラシム是レ亦便宜ヲ計リタルニ外ナラス

以上ノ官吏ハ警察專任ノモノナレハ司法警察ニ付テモ主トシテ其事ニ當ラサル可カラス

三、島司

四、郡長

島司ハ離島中重要ナル場所ニ置キ郡長ハ一郡若クハ數郡ニ置キ各其地方長官ノ次位ニ立テ行政事務ヲ分掌セシム乃チ是等ノ官吏ハ其嶋内郡内ノ安寧秩序ヲ保持ス可キ責任アルモノナレハ安寧秩序ヲ妨害

スル犯罪アルニ當リ臨機ノ處分ヲ爲サシムルヲ相當トス是レ之ヲ司法警察官ト爲シタル所以ナリ

五、林務官　茲ニ所謂ル林務官トハ總テ林務ニ關スル官吏ヲ指シタルモノニシテ彼ノ官名ナル林務官ノミヲ指シタルモノニ非ス而シテ之ヲ司法警察官ト爲シタルハ山林ニ關スル犯罪即チ官林盜伐ノ如キモノニ付キ其處分ヲ爲サシムルヲ便利トシ且必要トスルニ由ル故ニ法文ニ依レハ林務官ハ一般ノ犯罪ニ付テモ亦司法警察官ト爲リ搜査及ヒ假豫審ノ處分ヲ行フコトヲ得ヘキカ如クナルモ右立法ノ精神ヲ酌ミ以テ其處分ヲ爲スハ山林ニ關スル犯罪ニ限ルモノト解釋スルヲ相當トス

六、市町村長　是レ自治市町村ノ吏員ニシテ其職務トスル所ハ恰モ郡長ノ郡ニ於ケルト同シク唯大小輕重ノ區別アルノミ乃チ市制第七十

四條町村制第六十九條ニ於テ是等ノ公吏ハ「法律命令ニ從ヒ司法警察補助官タルノ職務ヲ管掌ス」ト定メ以テ其市町村ノ安寧秩序ヲ妨害スル犯罪ニ付キ臨機ノ處分ヲ爲サシメンコトヲ望ミ本法其意ヲ承ケテ茲ニ之ヲ司法警察官ノ中ニ列シタル所以ナリ

右ノ外官吏、公吏ニ非スシテ司法警察ノ職務ヲ行フ可キ者アリ船長是ナリ第四十八條ニ曰ク「海船內ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ」ト蓋シ海船內ニハ常ニ司法警察官ノ乘込居ルモノナキヲ以テ第一現行犯罪アルモ急速ニ處分ヲ爲スコトヲ得サル等ノ不都合アリ左レハ此不都合ヲ除キ以テ事ノ急ニ應セシメンカ爲メ船長ヲ以テ假ニ司法警察官ノ地位ニ立タシム船長ハ船內ノ安寧秩序ヲ保持スルノ責任アルモノナレハナリ

朝鮮國領事館ニハ警部ヲ附置ス故ニ警部ニ於テ專ラ司法警察ノ職務

ニ任ス可シ清國領事館ニハ警部ノ設ナシ此他小笠原島伊豆七島及ヒ樺戸、空地、釧路ノ三集治監ニ於ケルモ特ニ警察官ヲ置カス故ニ是等ノ場所ニ於テハ館員、島吏又ハ司獄官吏適宜ニ司法警察ノ職務ヲ行フ可キモノトス

(一七〇)檢事及ヒ司法警察官犯罪ヲ搜査シタル上ニテ檢事ヨリ公訴ヲ提起スルヤ裁判所ハ之ヲ受ケテ審理ヲ盡シ書記ハ其處分手續ニ付テ記錄ヲ作リ而シテ裁判所カ終局ノ裁判ヲ下シ各審理ヲ經若クハ經スシテ其裁判確定スルヤコヽニ刑事訴訟ノ手續全ク其終ヲ告ク可シ然レトモ刑事訴訟ノ大目的ハ其裁判ヲ實地ニ執行スルニ在リ左レハ特ニ執行官吏ヲ設ケ以テ其事ニ任セシメサル可カラス

執行官吏ハ其執行ス可キ裁判ノ種類ニ從ヒ常ニ同一ナラサルモ每ニ主トシテ其執行ノ事ニ干涉ス可キモノヲ檢事トス裁判所構成法第六

條檢事ノ職務ヲ畧示シタル中ニ「判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ云々」トアリ又本法第三百二十條ニ「刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ。罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徵金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス可シ。破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可シ」トアリ左レハ刑ノ執行ハ檢事之ヲ指揮シ之ヲ監視ス可シ而シテ實地ニ執行ヲ掌ル者ハ死刑以下自由刑ニ付テハ司獄官吏、財産刑ニ付テハ執達吏、監視ニ付テハ警察官トス（刑法附則、監獄則、執達吏規則參看）

又無罪免訴ノ場合ニ於テ未決勾留ヲ受ケタル被告人ヲ放免スルニハ檢事ヨリ監獄ニ指揮シテ其執行ヲ爲サシム可シ

又裁判所ノ決定命令ニシテ執行スヘキモノハ檢事之カ指揮ヲ爲スヲ

管轄ノ區別

相當トス令狀ニ付テハ本法第七十六條ニ召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀、勾留狀ハ巡査、憲兵卒ヲシテ執行セシムルノ明文アリ即チ執達吏、巡査、憲兵卒ハ實地令狀ヲ執行スルノ職ニ任スルモノナリトス

第一章　裁判所ノ管轄

第一款　法定ノ管轄

（一七一）法律ハ裁判所ノ管轄ヲ別テ事物ニ因ル管轄、人ノ身分ニ因ル管轄、土地ニ因ル管轄ノ三トス事物ニ因ル管轄トハ犯罪ノ種類ニ關スル管轄ニシテ本編ノ首ニ辯シタルカ如ク違警罪及ヒ二月以下ノ禁錮百圓以下ノ罰金ニ該ル可キ犯罪ハ區裁判所ノ管轄トシ此餘ノ輕罪重罪ハ地方裁判所ノ管轄トシ又刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪ハ大審院ノ管轄トシタルモノ是ナリ人ノ身分ニ因ル管轄トハ禁錮

事物ニ因ル管轄

以上ノ刑ニ該ル可キ罪ニシテ皇族ノ犯シタルモノハ大審院ノ管轄トシタルモノ是ナリ此二種ノ管轄ハ裁判所構成法ニ之ヲ規定シ本法ハ土地ニ因ル管轄ヲ規定シタルニ過キス

第二十五條ニハ

犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

トアリ此第一項ニ付テハ別ニ說示ス可キコトナシ但前述ノ如ク人ノ身分ニ因ル管轄モ亦固ヨリ裁判所構成法ノ規定ニ從フ可キモノナルニ因リ法文犯罪ノ種類ノ下及ヒ人ノ身分ノ六字ヲ加フルヲ以テ立法上其當ヲ得タリト爲ス尤モ此增補ナキモ實際上不都合ナキカ如クナルモ第二項ノ規定ハ身分ニ因ル管轄ニ付テモ適用ス可ク之ヲ取除ク

事件ノ併合

可キノ理由ナシ是レ後ノ立法者ノ爲メニ一言ヲ附スル所以ナリ」

法律已ニ犯罪ノ種類ニ應シ各〻其管轄裁判所ヲ定メタル上ハ裁判所ハ各〻其管轄ヲ恪守シ決シテ他ノ裁判所ノ管轄ヲ侵スコトアル可カラス假令上級ノ裁判所ト雖モ初メヨリ下級裁判所ノ管轄ニ屬スルコト判然タル事件ニ付テハ之ヲ受理シ之ヲ管轄スルノ權ナシトス然ルニ法律ハ此本則ニ付キ例外ヲ設ケ同一ノ被告人ニ對シ同時ニ訴アリタル場合ニ限リ下級裁判所管轄ノ事件ヲ上級裁判所管轄ノ事件ニ併合シ裁判スルコトヲ許シ否寧ロ併合裁判ス可キモノト爲シタリ

此例外法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テノミ適用セラル可シ例ヘハ氏名詐稱ノ罪ト强盜罪ト俱ニ發覺シ而シテ甲罪ニ對シテハ其管轄ナル區裁判所ニ公訴起リ乙罪ニ對シテハ其管轄ナル地方裁判所ニ公訴起リタル場合ノ如キ若シ偏ニ本則ニ從ハシメンカ同一ノ被告人ニ對シ同時

ニ區裁判所ト地方裁判所トニ於テ審理ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ勢ヒ一方ノ審理ヲ前ニシ其裁判ノ落着スルヲ待テ更ニ他ノ一方ニ於テ審理裁判ヲ爲サヽルヲ得ス然ルトキハ徒ニ手數ト費用トヲ增スノミナラス自然裁判ノ延滯ヲ來タシ而カモ結局ハ甲乙二罪ノ中一ノ重キ刑ヲ執行スルニ止マル得ル所毫モ之ナクシテ失フ所極メテ多シ因テ法律ハ此不都合ヲ避ケンカ爲メ其數罪ノ管轄ヲ上級裁判所ニ併合セシメタルナリ但公訴カ時ヲ異ニシテ提起セラレタルトキハ是等ノ不都合ヲ生セサルヲ以テ各〻其管轄裁判所ニ於テ裁判ス可シ法文ニ同時ニトアルハ即チ此意ヲ示シタルモノナリ

事件ノ併合ハ一審裁判ノ場合ニ限ル

(一七二)然レトモ上級裁判所カ下級裁判所ノ事件ヲ併合スルハ兩裁判所孰レモ第一審裁判所トシテ公訴ヲ受ケタル場合ニ限ラサル可カラス前例强盜罪ニ付キ已ニ地方裁判所ノ裁判アリ其裁判ニ對シ控訴ヲ爲ス者アリテ事件現ニ控訴院ニ繫屬スルニ際シ氏名詐稱罪ノ公訴區裁判所ニ起ルモ控訴院ハ此區裁判所ニ繫屬スル事件ヲ併合スルコトヲ得ス是レ他ナシ控訴院之ヲ併合スルコトヲ得ルトセハ氏名詐稱罪ニ付テハ一審ノ裁判ヲ經スシテ直チニ二審ノ裁判ヲ受クルコトト爲リ法律カ一般ニ事實覆審ノ路ヲ開キタル旨趣ニ反スルニ至レハナリ

又區裁判所ノ與ヘタル氏名詐稱罪ノ裁判ニ對シ地方裁判所ニ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ同裁判所ニ强盜罪ノ公訴起ルトキモ亦此二事件ヲ併合スルコトヲ得ス一ハ前裁判ニ對スル不服ノ訴ニシテ一ハ全ク新ナル訴ナレハ性質上之ヲ併合スルニ由ナキノミナラス强テ之ヲ併合センカ其裁判ハ一面ニ於テハ二審ノ裁判ト爲リ一面ニ於テハ一審ノ裁判ト爲ル等枘鑿相容レサルノ結果ヲ生ス可シ故ニ此例外法ハ一審ノ事件ニ限リ適用セラル可キモノト爲サヽル可カラス

上級裁判所ハ下級裁判所ニ對シテハ第二審ノ裁判所ナルモ事件併合ノ場合ニ於テハ下級裁判所管轄ノ事件ニ付テハ一審トシテ裁判ヲ爲ス可ク決シテ二審トシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ス是レ前ニ述ヘタル如ク覆審ノ路ヲ塞クニ至レハナリ且ツ第二百四十條ニ「裁判所(地方裁判所)ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス可シ」トアリテ彼此其場合ヲ異ニスルモ法律ノ意ハ下級裁判所管轄ノ事件ニ付キ直チニ二審ノ裁判ヲ爲スコトヲ許サヽルニ在ルヤ明瞭ナリトス

事件併合ニ付テノ手續

偖上級裁判所カ下級裁判所管轄ノ事件ヲ併合スルニ付テハ如何ナル手續ヲ爲ス可キ乎法律ハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲモ爲サスト雖モ已ニ上級裁判所ニ於テ重キ事件ノ公訴起リタルカ爲メ下級裁判所ニ於ケル輕キ事件モ上級裁判所ノ管轄ニ歸ス可キモノト爲リタル上ハ即チ下級裁判所ハ其受ケタル輕キ事件ニ付テ管轄權ヲ失ヒタルモノト云ハサル可カラス左レハ下級裁判所ハ右ノ理由ヲ以テ或ハ檢事、被告人ノ申立ニ因リ或ハ職權ニ因リ管轄ニ非サルノ裁判ヲ爲シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可ク檢事ハ之ヲ上級裁判所ノ檢事ニ移シ該檢事ニ於テ併合ノ手續ヲ爲サヽル可カラス

土地ニ因ル管轄

(一七三)右例外ノ場合ヲ除キ本則トシテハ重罪及ヒ重キ輕罪ハ常ニ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ輕キ輕罪及ヒ違警罪ハ常ニ區裁判所ノ管轄ニ屬スルコト已ニ前ニ說示シタル所ノ如シ然ルニ地方裁判所ト云ヒ區裁判所ト云ヒ其數或ハ數十或ハ數百ニ上ルヲ以テ其中ニ就テ特ニ管轄權ヲ有スルモノヲ定メサル可カラス若シ之ヲ定メサルニ於テハ數十數百ノ裁判所互ニ管轄ヲ爭フカ否ラサレハ自己ノ專屬ニ非サルヲ口實トシ管轄ヲ否認スルノ不都合ヲ生ス可シ是レ別ニ土地ニ因ル管

轄ノ規定アル所以ナリ

第二十六條ハ此管轄ヲ規定シテ曰ク

同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

ト故ニ土地ニ因ル管轄ハ犯罪ノ地ト被告人所在ノ地トノ二アルコトヲ知ル可シ

第一犯罪ノ地ニハ證憑物件存在スルコト他ノ地ノ比ニ非ス又證人モ多ク存在ス可キカ故ニ此地ヲ以テ豫審公判ノ管轄ト爲スハ審理上極メテ便利トスル所ナリ加之此地ニ於テ裁判ヲ爲シ其地人民ノ面前ニ於テ刑罰ヲ言渡サンカ其效用最モ著大ナル可シ是レ此地ヲ以テ管轄ト定メタル所以ナリ

然レトモ管轄ハ必ス犯罪ノ地ニ限ルモノト定ムルトキハ實際上種々ノ不便アルヲ免カレス若シ犯罪ノ地不分明ナランカ假令犯罪アリタルコトノ確證アルモ檢事ハ公訴ヲ起スニ由ナク隨テ裁判所モ處分ヲ爲スコト能ハス空ク袖手傍觀シ犯人ヲシテ法網ヲ免カレシムルニ至ル可シ又犯罪ノ地分明ナルニモセヨ必ス其地ニ於テ審判ス可シトスルトキハ遠ク數十百里ノ外ニ遁逃シ若クハ居住スル被告人ヲ召喚シ又ハ護送セシメサル可カラス其被告人ノ爲メニ不利益ナルハ勿論官モ亦爲メニ手數ト費用トヲ要スルニ至ル故ニ重大ナル犯罪ニ付テハ格別輕微ナル犯罪ニ付テハ便宜ニ從ヒ處分スルコトヲ得ルノ方法ヲ設ケサル可カラス是レ犯罪ノ地ノ外被告人所在ノ地モ亦管轄ナリト爲シタル所以ナリ

人或ハ曰ハン舊治罪法ハ犯罪ノ地ノミヲ以テ管轄ト定メ而シテ犯罪ノ地分明ナラサルトキニ限リ被告人逮捕ノ地ヲ以テ管轄ト定メタリ

蓋シ管轄ノ地數个所アルトキハ數个ノ裁判所同一事件ニ付キ共ニ訴ヲ受クル而カモ互ニ其訴ヲ他ニ起リタルコトヲ知ラサルヨリ各別ニ裁判ヲ爲シ甚シキハ甲裁判所ハ有罪トシ乙裁判所ハ無罪トスル等其裁判相牴觸スルノ不都合アルヲ免カレス故ニ管轄ハ何レノ場合ニ於ケルモ之ヲ一个所ニ限レリ畢竟裁判ノ信用ヲ失墜セサラシメンカ爲メナリ然ルニ新法ハ管轄ヲ二个所ト爲シ犯罪ノ地ノ裁判所モ被告人所在ノ地ノ裁判所モ等シク管轄權ヲ有シ其間其優劣ナシトスルヲ以テ舊立法者カ顧慮シタル二个裁判牴觸ノ不都合ヲ生ス可シト此言一應其理アルカ如シ然レトモ是等ノ不都合ハ實際容易ニ生スルモノニ非ス今被告人所在ノ地ニ於テ檢事カ公訴ヲ提起セントスルヤ搜査上ノ必要ヨリ必ス犯罪ノ地ノ檢事ニ照會スル所アル可シ而シテ犯罪ノ地ニ於テ已ニ公訴起リタル場合ハ勿論同地ニ於テ公訴ヲ提起スルヲ便利ナリトスルトキハ同地ノ檢事ヨリ被告人所在ノ地ノ檢事ニ其旨ヲ回答ス可シ然ルトキハ被告人所在ノ地ニ於テ公訴ノ起ルコトアル可カラス假令双方ノ檢事豫メ照會等ヲ爲サヽルヨリシテ双方ニ公訴起リタリトスルモ犯罪ノ地ニハ臨檢ス可キ場所、訊問ス可キ證人又ハ差押フ可キ物件等多クハ存在ス可キヲ以テ被告人所在ノ地ノ裁判所ハ是等ノ處分ヲ犯罪ノ地ノ裁判所ニ囑託ス可ク又犯罪ノ地ノ裁判所ヨリハ被告人ニ對スル令狀ノ執行、呼出狀ノ送達等ヲ被告人所在ノ地ノ裁判所ニ囑託ス可キニ因リ互ニ他ノ一方ニ公訴ノ起リタルコトヲ知ルニ至ルヤ必然ナリ左レハ何レカ一方ノ裁判所ハ第二十七條ニ依リ管轄權ヲ專有シ他ノ一方ハ之ヲ喪失スルコトヽ爲ルカ故ニ双方共ニ裁判ヲ爲スコト決シテ之ナカル可シ畢竟舊法ノ規定ハ杞憂ニ過キタルモノニシテ而カモ前述ノ如キ不便アリ故ニ新法ノ規定ヲ以テ其當

犯罪ノ地及ビ被告人所在ノ地トハ如何

ヲ得タルモノト爲ス可シ況ヤ犯罪ノ地ハ同時ニ被告人所在ノ地ナルコト最モ多キニ居ルニ於テオヤ

(一七四)犯罪ノ地ト稱スルハ犯罪カ實行セラレタル地ヲ謂フ其豫備ヲ爲シタル地ノ如キハ此名稱中ニ包含セス又被告人所在ノ地ト稱スルハ其戸籍ノ在ルト否トニ拘ハラス現ニ被告人カ居住スル所ノ地ヲ謂フ彼ノ旅行ノ爲メ一時通過スル地ノ如キハ法律ノ所謂ル所在ノ地ニ非ス隨テ其地ノ裁判所ハ管轄權ヲ有セサルナリ人或ハ疑ハン通過ノ地モ亦所在ノ地ニ相違ナシ唯其一時ニ止マルト多少永久ニ渉ルトノ差アルノミ此差アルノ故ヲ以テ彼ト此トヲ別ツハ如何ト余ハ之ニ答ヘテ曰ハン法律カ被告人所在ノ地ヲ以テ管轄ト定メタルハ前已ニ說示シタル如ク偏ニ事ノ便宜ヲ計リタルニ基ク然ルニ今一時通過ノ地ヲ以テ管轄ト爲ストキハ果シテ法律カ期シタル便宜ヲ得ヘキ乎恐ク

ハ反テ不便ヲ招クノ根元タラシ例ヘハ東京ニ於テ罪ヲ犯シタル者其身ヲ大阪ニ匿サンカ爲メ路ヲ東海道ニ取リテ遁走シ昨日ハ神奈川ニ宿シ今日ハ靜岡ニ泊シ明日ハ宮ニ在リト假想セヨ昨日ニ在テハ神奈川ハ被告人所在ノ地ナリシモ今日ハ否ラス今日靜岡ハ被告人所在ノ地ナルモ明日ハ否ラス宮ハ明日被告人所在ノ地ナルモ明後日ハ復タ其如何ヲ知ル可カラス然ルニ被告人カ一時其地ヲ通過シタルヲ以テ各地ノ裁判所管轄權ヲ得タリトセハ横濱、靜岡、名古屋ノ各地方裁判所ニ公訴ヲ起シ裁判所其審理ニ著手スルモ之ヲ相當ノ處置ナリト認メサル可カラス此ノ如ク數个所ニ於テ同一ノ事件ニ付キ起訴審判ノ手續ヲ爲スハ果シテ如何ノ便利アル乎横濱及ヒ靜岡ノ地方裁判所カ被告人其地ヲ通過スルノ日ニ於テ各〻公訴ヲ受ケ直チニ其被告人ニ對シ召喚狀又ハ呼出狀ヲ發スルモ其送達ノ時被告人已ニ其地ヲ去リタル

管轄裁判所數个アル場合

ヲ奈何セン名古屋地方裁判所カ公訴ヲ受クルノ日ハ被告人最早大阪ニ到着シ居レルモ亦計ル可カラス然ルニ猶ホ是等ノ裁判所ニ管轄權アリトスルハ徒ニ無用ノ手續ト費用トヲ增サシメ加之裁判上ノ紛議(管轄爭ノ如キ)ヲ生セシメントスルモノニシテ毫モ事ニ益スル所ナシ故ニ此例示ノ場合ニ於テハ被告人未タ居ヲ大阪ニ定メサル以前ニ於テハ東京ノミヲ管轄ト爲シ已ニ大阪ニト居シタル片ハ大阪モ亦管轄ト爲ルモノト解ス可キナリ

(一七五)右述ヘ來リタル如ク一罪ニ付テモ被告人犯罪ノ地ヲ去リテ他ノ地ニ居住スルトキハ双方ノ地ノ裁判所共ニ管轄權ヲ有スルコトト爲ル可シ又被告人假令犯罪ノ地ヲ去ラサルモ繼續犯ノ如キハ初メヨリ其犯罪ノ地二个以上ノ裁判所ノ轄管ニ渉ルコトアル可シ又數罪俱發ノ場合ノ如キモ甲裁判所ノ管轄地內ニテ一罪ヲ犯シ乙裁判所ノ管轄地內ニ移リテ更ニ一罪ヲ犯ストキハ甲乙共ニ管轄權ヲ有ス可シ此ノ如ク管轄裁判所數个アル場合ニ於テ萬一双方ニ公訴起リタルトキハ孰レカ一方ヲシテ他ノ一方ニ管轄權ヲ讓ラシメサル可カラス若シ相互ニ管轄セシムルニ於テハ一罪ニ付テ二个ノ裁判アルカ否ラサルモ被告人ヲ双方ニ交〻呼出ス等ノ不便アリ因テ法律ハ第二十七條ヲ以テ

數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

ト規定シ以テ豫審公判孰レニテモ最初ニ取調ニ着手シタル裁判所ヲ管轄トシ審理著手ノ後レタル裁判所ノ管轄權ヲ失ハシム是レ甲裁判所ノ審理著手、乙ノ前ニ在ル上ハ事實ヲ知ルコト最モ詳密ナル可ク隨テ裁判ノ落著ヲ速ナラシムルノ望アレハナリ

（一七六以上ハ一人ニテ罪ヲ犯シタル場合ニ付テノ管轄ヲ說示シタルノミ若シ數人共謀シテ一罪ヲ犯シタル場合ハ何レノ裁判所之ヲ管轄ス可キ乎法律ハ第二十八條ニ之ヲ規定ス曰ク

從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

從犯ハ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ニシテ其罪ハ幇助ノ所爲ニ因テ成立セス正犯カ其犯罪ヲ實行スルニ因テ始メテ成立スルモノトス左レハ犯罪ノ地ハ正犯ニ付テモ又從犯ニ付テモ常ニ同一ナリト雖モ其所在ノ地ハ彼此相異ナルコト固ヨリ之

アル可シ在東京ノ者正犯ト爲リ在横濱ノ者從犯ト爲リ浦和ニ於テ罪ヲ犯シタリトセンニ前數條ノ規定ニ從ヘハ正犯ノ裁判管轄ハ東京又ハ浦和ニシテ從犯ノ裁判管轄ハ横濱又ハ浦和ナリトス若シ正犯ニ對シ前ニ浦和ニ於テ審理ノ著手アルトキハ從犯ヲモ浦和ニ併合スルコトヲ得ヘキモ東京ノ審理著手浦和ノ審理ニ先ンスルトキハ從犯ヲコヽニ併合スルコト能ハス東京ハ犯罪ノ地ニ非ス又從犯所在ノ地ニ非サレハナリ抑共犯ナルモノハ犯人ノ員數如何ニ多キモ其犯ス所ノ罪ハ惟一ニシテ二ナシ故ニ其審判ハ一个所ニ於テスルヲ必要トス若シ之ヲ分割シ各所ニ於テ審判セシメンカ事實發見ニ大不便アリ隨テ一方ノ裁判所ハ甲ヲ正犯、乙ヲ從犯ト認メ他ノ一方ノ裁判所ハ之ニ反スル認定ヲ下スコトナキヲ保チ難シ因テ法律ハ一ハ事實ノ發見ヲ便利ニシ一ハ裁判ノ牴觸ヲ防止センカ爲メ從犯ハ其所在ノ如何ヲ問ハス

現ニ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メタリ

正犯ハ孰レモ犯罪ノ實行ニ干與シ又ハ他ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタルモノニシテ其間正犯ノ從犯ニ於ケルカ如キ主從ノ別ナシ故ニ審理上之カ併合ヲ必要トスルモ前述正犯、從犯ニ付テノ規定ニ依ラシムルコト能ハス因テ第二十七條ノ旨趣ニ依リ最初審判ニ著手シタル裁判所ヲシテ併セテ正犯全員ヲ管轄セシム

然レトモ右ノ規定ハ常ニ一般ノ共犯ニ適用スルコトヲ得ス大審院ノ特別權限ニ屬スル皇族ノ犯罪ニシテ常人正犯、皇族從犯ナルトキ右ノ規定ニ依ラシメンカ皇族ハ常人ト同シク區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬セサル可カラス若シ然ラハ法律カ皇族ノ身分ヲ重ンシ特ニ大審院ニ管轄セシメタルノ旨趣ヲ貫徹スルコト能ハス又皇族、常人共ニ正犯ナル場合ニ於テモ區裁判所又ハ地方裁判所最初ニ審判ニ著手

共犯併合ハ同時ニ起訴アリタル場合ニ限ル

シタルトキハ右ト同一ノ不都合アルヲ免カレス左リトテ皇族ト常人ト其管轄ヲ異ニセシムルニ於テハ事實發見上不便アルハ前已ニ說示シタル所ノ如シ因テ皇族、常人共犯ノ場合ニ於テハ皇族ノ正犯タルト否トヲ問ハス皇族ト同シク常人ヲモ大審院ノ管轄ニ屬セシム

(一七七)共犯ハ之ヲ一个所ニ併合スルヲ以テ原則トスルモ是レ唯共犯ニ對シ同時ニ公訴ノ起リタル場合ニ限ル若シ其中ノ或ル者ニ對シ已ニ裁判アリタル後其共犯アルコトヲ發見シタルトキハ必シモ前ニ或ル者ヲ裁判シタル裁判所ヲシテ審判セシムルコトヲ要セス通常ノ管轄タル犯罪ノ地又ハ後ニ發見シタル被告人所在ノ地ニ於テ管轄スルヲ相當ナリトス若シ徒ニ法文ニ拘泥シ此原則ヲ墨守センカ寧ロ寸毫ノ便利ナクシテ反テ許多ノ不都合ヲ生ス可シ例ヘハ正犯甲、從犯乙ト共ニ東京ニ於テ罪ヲ犯シ甲ハ長崎ニ潛匿シ乙ハ札幌ニ逃走シタリ甲

ノ罪長崎ニ於テ發覺シ同地ニ於テ已ニ裁判ヲ受ケ確定シタリ後乙カ甲ノ從犯タリシコト發覺スルニ長崎地方裁判所ハ嘗テ正犯甲ヲ管轄シタルニ由リ乙モ亦同裁判所ノ管轄ニ屬ス可シトセンカ犯罪ノ地ニモ非ス乙ノ所在地ニモ非ス即チ乙ニ對シテハ何等ノ因緣モナキ地ニ於テ管轄スルノ奇觀アルノミナラス遠ク札幌ヨリ長崎マテ召喚シ護送スル等ノ大不便ヲ忍ハサル可カラス而カモ得ル所ノ便利ハ毫モ之アルコトナシ畢竟共犯ヲ併合スルハ兩々相對セシメテ之ヲ審理スルトキハ最モ事實ヲ發見スルニ便利ナルニ由ル然ルニ甲ハ已ニ裁判ヲ受ケ終リ復タ之ヲシテ乙ノ共同被告人ト爲スコト能ハス左レハ乙ノ審判ハ長崎ニ於テスルノ必要ナク犯罪ノ地タル東京又ハ乙所在ノ地タル札幌ニ於テ管轄セシムル方最モ便利ナル可シ殊ニ皇族ト常人トノ關係ニ付テ之ヲ觀ルニ已ニ大審院ニ於テ皇族ノ犯罪ヲ裁判シタル

海船內ニ於ケル犯罪ノ管轄

後其共犯ノ疑アル常人ヲ大審院ニ管轄セシムルノ必要何クニカ在ル故ニ曰ク共犯ヲ併合スルハ其共犯ニ對シ同時ニ公訴ノ起リタル場合ニ限ルト

(一七八)犯罪ノ場所陸地ニ非スシテ海船內ナル場合ニ於テハ以上說示シタル所ノ規定ヲ適用スルコト能ハス犯罪ノ場所ナル海船內ニハ裁判所ノ設アラザレハナリ乃チ法律ハ第三十六條ヲ以テ

海船內ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

ト規定シタリ蓋シ海船內ノ犯罪ニ付テハ前已ニ說示シタル如ク船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フカ故ニ現行犯ヲ發見シタル場合ナレハ假豫審ヲ行ヒ非現行犯ナレハ搜査ヲ爲シ而シテ其船定繫港ニ在レハ直チニ同港ノ檢事ニ事件ヲ送致シ又航海中ニ係レハ最初ニ着船シタ

犯人乘陸後其犯罪發覺シタル場合

ル港ノ檢事ニ之ヲ送致ス可キモノトス左レハ定繫港又ハ最初着船ノ港ニ於テ其事件ヲ管轄セシムルヲ便利ナリトス是レ此特別ノ規定アル所以ナリ

海船內ノ犯罪ト雖モ必シモ其船內ニ於テ發覺セス隨テ船長カ何等ノ處分ヲ爲スコトナク犯人ヲシテ乘陸セシメタル後ニ至リ通常ノ官署ニ其犯罪發覺スルコトアラン此場合ニ於テハ定繫港等ヲ以テ管轄ト爲スノ理由ナキニ似タリ然レトモ定繫港及ヒ最初着船ノ地ハ殆ト犯罪ノ地ト同一視ス可キモノニシテ是等ノ場所ニハ證人其他犯罪ノ證憑多クハ存在ス可キノ望アルヲ以テ法律ハ仍ホ其地ヲ以テ裁判管轄ト定メタルモノナリ

前述ノ如ク定繫港及ヒ最初着船ノ地ハ犯罪ノ地ト同一視ス可キモノナルカ故ニ其地ヲ以テ裁判管轄ト定メタリトセハ單ニ其地ノミナラス被告人所在ノ地モ亦管轄權ヲ有セサル可カラス陸地ノ犯罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ外被告人所在ノ地ニモ管轄權ヲ與ヘナカラ海船內ノ犯罪ニ付テハ其管轄ヲ犯罪ノ地ニ匹敵ス可キ定繫港等ニ限ル可キノ理ナケレハナリ因テ本條ハ犯罪ノ地ニ代ル可キ管轄ヲ定メタルニ過キスト解釋スルモ決シテ失當ニ非スト信ス

外國ニ於ケル犯罪ノ管轄

(一七九)以上ハ內地ノ犯罪ニ關スル裁判管轄ニ付キ法律ノ規定ヲ觀察說明シタルモノナリ此法律ノ規定ハ內地ト同視ス可キ外國ノ土地即チ我カ治外法權ヲ及ホス淸國及ヒ朝鮮國ニ於ケル犯罪ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ乃チ例ヘハ朝鮮國京城ニ於ケル犯罪ニシテ其被告人同國元山ニ居住シ又ハ遁レテ內地ノ某所ニ歸リ來リタルトキハ京城駐在ノ領事モ元山駐在ノ領事又ハ內地某所ノ裁判所モ共ニ裁判權ヲ有ス可シ一ハ犯罪ノ地一ハ被告人所在ノ地ナレハナリ但被告人內地ニ

歸リ來リタル場合ノ如キハ內地ノ裁判所專ラ之ヲ管轄スルヲ穩當ナリトス特別變則ノ裁判所タル領事廳ニ遠ク之ヲ召喚シ若クハ護送スルノ必要ナク且ツ其召喚護送ハ實際上種々ノ不便アレハナリ[illegible]清國朝鮮國ヲ除キ他ノ外國ニ在テ罪ヲ犯シタル者ノ裁判管轄ハ何レノ裁判所ニ屬ス可キ乎犯罪ノ地ハ外國ナルヲ以テ其地ヲ管轄ト爲ス可カラサルハ勿論被告人所在ノ地ヲ管轄トスルモ渠レ依然外國ニ在ルトキハ之ヲ奈何トモスルコト能ハス因テ別ニ之カ裁判管轄ヲ定メサル可カラス第二十九條ハ即チ之ヲ規定シテ曰ク

外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

左レハ內地ニテ被告人ヲ逮捕シタルトキハ其逮捕ノ地ニテ管轄ス是レ其地ハ即チ被告人現在ノ地ニシテ審理上最モ便宜ナレハナリ又外國政府ノ引渡ヲ受クルカ若クハ外國駐在公使領事ヨリ其被告人ヲ送致シ來リタルトキハ其送致ノ目的タル地ニテ管轄ス又闕席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人依然外國ニ在ルカ又ハ其所在不分明ナルニ因ルモノナルヲ以テ此場合ニハ被告人最後ノ住所ノ地即チ外國渡航前ニ居住シタル地ニテ管轄ス是レ其地ハ犯罪ニ關係ナク又被告人現在ノ地ニ非サルハ勿論ナルモ被告人其者ニ對シテハ幾分カ緣故ヲ有スルカ故ニ他ノ地ヨリ寧ロ此地ヲ管轄ト爲ス方適當ナリト認メタルニ由ルナラン

逮捕トアルノ解釋

○

(一八〇)法律ハ前述ノ如ク內地ニ於ケル逮捕ノ地ヲ以テ裁判管轄ト定メタルモ被告人ヲ逮捕スルハ現行犯ノ場合ノ外必ス豫審判事又ハ裁判所ノ令狀ニ依ラサル可カラス而シテ其令狀ヲ發スルハ公訴ヲ受ケタル管轄豫審判事又ハ管轄裁判所ニ非サレハ之ヲ爲スコト能ハス然ルニ裁判管轄定マラス隨テ令狀ヲ發スルモノナキニ令狀ニ因リ被告人ヲ逮捕シタル地ヲ以テ管轄ナリト定メタルハ甚タ解ス可カラサルコトヽ謂フ可シ若シ强テ其逮捕ノ場合ヲ想像スレハ准現行犯ノ場合アルハミ然レトモ是レ希有ノ場合ニシテ立法者ハ此場合ノミヲ想像シタルニ非サル可シ因テ按スルニ本條モ亦海船內ノ犯罪ニ付キ其裁判管轄ヲ定メタル第三十條ト同シク法文ニ拘泥シテ解釋ヲ下サス須ラク立法者ノ眞意ヲ探リ適當ノ解釋ヲ下サンコトヲ要ス抑本條ノ場合ハ犯罪ノ地外國ニ在リ而シテ之ニ匹敵ス可キ地ヲ內地ニ求ムルモ

管轄ノ指定

管轄ヲ指定ス可キ場合

一モ適當ノ地アルコトナシ乃チ已ムヲ得ス被告人所在ノ地ノミヲ以テ其裁判管轄ノ地ト爲シ而シテ其所在ノ地ノ意義ヲ擴張シ送致ノ地及ヒ最後ノ住所ノ地ヲモ之ニ包含セシメタルニ過キサル可シ果シテ然ラハ逮捕云々トアルハ被告人內地ニ在ルトキトアルト其意義同一ニシテ必シモ其身體ノ自由ヲ拘束シタル場合ノミヲ指スモノニ非スト解釋セサル可カラス此解釋ハ蓋シ立法ノ旨趣ニ適合スルナランカ

第二款　管轄ノ指定

(一八一)前節ニ說示シタルカ如ク法律ハ事物及ヒ土地ニ付キ裁判管轄ヲ定メタリト雖モ其定マリタル管轄裁判所ニ於テ裁判權ヲ行フコトヲ得サル場合アリ又其管轄裁判所ノ甲ナリヤ乙ナリヤヲ實際判別シ難キ場合モ亦之ナキニ非ス總テ是等ノ場合ニ於テハ其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ヲ指定セサル可カラス

裁判所構成法第十條ニ依ルニ管轄ヲ指定ス可キ場合ヲ別テ左ノ四箇ト爲ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且同法第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

例ヘハ甲區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付キ同裁判所ニ起訴セントスルモ同裁判所ノ判事被害者ナルカ又ハ被告人ノ親屬ナル等法律上其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可キ者ナルトキハ到底同裁判所ニ於テ其事件ヲ裁判スルコト能ハス(法律上ノ理由)又ハ此ノ如キ法律上ノ支障アラサルモ兵亂洪水ノ如キ不可抗力ニ遭遇スルトキハ甲區裁判所ニ於テ事務ヲ取扱フコトヲ得ス(特別ノ事情)左リトテ構成法第十三條ニ依リ之ニ代ル可キコトヲ定メラレタル乙區裁判所ニ起訴セントスルモ是レ亦法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ同裁判所ニ於テモ裁判スルコトヲ得サル場合ニ於テハ檢事如何ニ起訴セント欲スルモ之ヲ奈何トモスルコト能ハス判事ノ轉免又ハ不可抗力ノ消散ヲ待タンカ其間ニ公訴ノ時效ニ罹リ消滅ニ歸スルノ結果ヲ生スルヲ免カレス故ニ他ノ裁判所ヲシテ特ニ其事件ヲ管轄セシメサル可カラス

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

此場合ハ實際數〻生ス可キモノニ非サル可シ何トナレハ裁判所管轄區域ハ必シモ行政區劃タル府縣郡及ヒ市町村ノ區域ト同シカラサルモ多クハ彼ノ一部分ト此ノ一部分トヲ合シ其區域ト爲ス而シテ府縣郡市町村ノ境界ハ今日ニ於テ明確ヲ欠クモノ殆ト之アルヲ見サレハナリ然レトモ北海道ノ如キ土地ノ測量未タ普カラサル場所アル可ク又

内地ニ於ケルモ深山ヲ以テ境界ト爲セルモノヽ如キハ實際某ノ地ハ果シテ何府縣郡市町村ノ部分ナリヤ否ヤ判然タラサルモノ絶テ之ナシト云フ可カラス隨テ犯罪ノ地ハ甲裁判所ノ管轄地内ナリヤ將タ乙裁判所ノ管轄地内ナリヤ明確ナラサルヲ以テ檢事起訴ヲ爲スニ躊躇スルコトアラン此場合ニ於テハ管轄權ニ疑アル一方ノ裁判所ニ起訴スルモ管轄ニ非ストノ裁判ヲ受クルヤ知ル可カラス故ニ寧ロ起訴前ニ於テ管轄指定ノ申請ヲ爲シ以テ先ツ何レノ裁判所カ管轄ナリヤヲ決定セシムルヲ必要且ツ便宜ナリトス

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

法律ハ第二十七條ニ於テ數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メ

タルモ若シ甲乙二裁判所ニ於テ同時ニ豫審又ハ公判ニ着手シタルトキハ時ニ前後ナキヲ以テ甲乙裁判所共ニ法律ニ從ヒ裁判權ヲ有スルモノト云ハサル可カラス又甲裁判所ハ乙裁判所ヨリ先ニ豫審又ハ公判ニ着手シタルニモセヨ乙裁判所モ又公訴ヲ受ケ而カモ管轄違ノ申立ニ對シ自ラ管轄ナリト判決シ且ツ甲裁判所モ同樣ナル判決ヲ爲シ其双方ノ判決確定シタルトキハ一事件ニ付キ二箇ノ裁判所裁判權ヲ行フコトヽ爲リ其極相牴觸スル二箇ノ判決ヲ下スノ恐アルノミナラス二重ニ訴訟手續ヲ行ヒ徒ニ日時ト費用トヲ要スルニ至ル故ニ何レカ一方ノ裁判所ヲ指定シ管轄セシメサル可カラス

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

前號末段ニ反シ甲乙兩裁判所各〻公訴ヲ受ケナカラ共ニ管轄ニ非ストノ判決ヲ爲シ其判決共ニ確定シタルモ法律上其甲裁判所又ハ乙裁判所ニ於テ管轄ス可キ事件ナルトキハ假令他ノ裁判所ニ向テ更ニ起訴スルモ到底其效ナカル可シ又甲乙兩裁判所各〻管轄ナリト判決シタルモ上訴裁判所ニ於テ甲乙裁判所共ニ管轄ニ非スト判決シ其判決確定シタルモ其實上訴裁判所ノ判決不當ニシテ甲裁判所又ハ乙裁判所ニ於テ管轄ス可キ事件ナルトキハ亦更ニ他ノ裁判所ニ向テ有効ニ起訴スルコトヲ得ス故ニ眞實裁判權ヲ有スル一方ノ裁判所ヲシテ管轄セしメサル可カラス

指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者

(一八二)要スルニ以上四箇ノ場合ニ於テ其儘空シク捨置クトキハ或ハ牴觸スル數箇ノ裁判ヲ下スカ或ハ全ク裁判ヲ爲サヽルコトヽ爲リ公私ノ利益ヲ害スルニ至ルヤ必然ナリ故ニ檢事又ハ他ノ訴訟關係人ヨリ管轄指定ノ申請ヲ爲スコトヲ許シタリ

檢事ハ公益ノ代表者ナリ而シテ以上四箇ノ場合ハ何レモ公益ニ關係アルヲ以テ檢事ハ常ニ管轄指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ被告人ハ第一、第三ノ場合ヲ除キ他ノ場合ニ於テハ自己ノ利害ニ直接ノ關係ナシ否却テ公訴ヲ受ケサル方自己ノ利益ニシテ自ラ進ンテ公訴ヲ受ケント主張ス可キノ理ナシ故ニ第二、第四ノ場合ニ於テ管轄指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

民事原告人ハ管轄指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル乎法文ニハ檢事其他訴訟關係人トアルヲ以テ民事原告人ニモ此申請ヲ爲スノ權アルカ如シ然レトモ私訴ハ必ス已ニ起リタル公訴ニ附帶ス可ク獨立シテ私訴ヲ刑事裁判所ニ爲スコトヲ得サル點ヨリ之ヲ推論スルトキハ民事原告人ニ此權ナシト解釋セサル可カラス此ノ如ク解釋スルモ民事原告

申請ヲ裁判スル裁判所

人ハ普通法ニ從ヒ民事裁判所ニ起訴スルノ路ヲ有スルヲ以テ毫モ其利益ヲ害セラルヽコトナシトス

(一八三)管轄指定ノ申請ニ付キ決定ヲ爲ス可キ裁判所ハ裁判所構成法ニ依レハ其各關係ノ裁判所ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所トス故ニ例ヘハ麹町區裁判所ト下谷區裁判所ト管轄ヲ爭フ場合ニハ東京地方裁判所其申請ヲ決定ス可ク東京地方裁判所ト横濱地方裁判所トノ間ニ管轄ノ爭アルトキハ東京控訴院ヲ以テ其決定ヲ爲ス可キ裁判所トス若シ東京地方裁判所又ハ其管轄内ナル區裁判所ト名古屋地方裁判所又ハ其管轄内ナル區裁判所ト管轄ヲ爭フトキハ東京控訴院及ヒ名古屋控訴院ハ共ニ雙方ノ上級裁判所ニ非サルヲ以テ此場合ニ於テハ大審院ニ於テ決定ヲ爲サヽル可カラス

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ハ必シモ重大ナル事件ニ

申請及ヒ裁判ノ手續

關スルモノニ非サル可シト雖モ事件ニ控訴院若クハ其管轄内ナル二裁判所ノ間ニ關係スルヲ以テ自然司法大臣又ハ檢事總長ノ聞知スル所ト爲ルコト多カル可シ因テ此場合ニ於テハ當該檢事等ノ申請アルヲ待タス檢事總長ハ或ハ司法大臣ノ命ニ因リ或ハ職權ヲ以テ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノト定ム是レ一日モ速ニ管轄ヲ定メ有効ノ判決ヲ爲サシムルノ便利ヲ謀リタルモノナリ

(一八四)管轄指定ノ申請及ヒ其裁判ニ付テノ手續ハ極メテ簡單ニシテ第三十三條ノ規定アルニ過キス同條ニ曰ク

管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

故ニ申請者ハ前掲第一乃至第四ノ場合中其一ニ該當スルヲ以テ管轄

指定ヲ申請ストノ趣意書ヲ差出スヲ以テ足レリトス但其場合ノ一ニ該當スル事實ハ之ヲ疏明スルヲ必要トス例ヘハ第三第四中ノ二以上ノ確定判決アル場合ハ其判決ノ謄本等ヲ差出スノ類ナリ

右申請ノ決定ハ所謂ル書類裁判ニシテ訴訟關係人ヲ呼出スコトナク隨テ口頭辯論ヲ用ヰス單ニ趣意書ニ依テ裁判ス尤モ場合ニ依リ關係アル裁判所ヨリ訴訟記錄等ヲ取寄セルコトヲ妨ケス此ノ如ク書類ニ依リ裁判ヲ爲スモノハ畢竟訊問辯論ヲ爲サヽルモ容易ニ申請ノ理由アルヤ否ヤヲ判知スルコトヲ得ヘク且ツ何レノ裁判所ニ管轄セシムルモ訴訟關係人ノ利害ニ關係セサルニ由ル

決定ハ一ノ裁判ナレハ之ヲ爲スニ付テ檢事ノ意見ヲ聽クヲ相當トス法文此事ヲ定メサルハ缺點タルコトヲ免カレサルナリ

管轄ノ移轉

第三款　管轄ノ移轉

管轄ヲ移轉ス可キ場合

(一八五)法律已ニ裁判所ノ管轄ヲ定メタル上ハ裁判所又ハ訴訟關係人ノ都合等ヲ理由トシ之ヲ變更スルコトヲ許ス可カラス然レトモ法律ハ或ル場合ニ限リ之ヲ變更シ甲裁判所ヨリ乙裁判所ニ其管轄ヲ移轉スルコトヲ許セリ此場合ヲ別テ二ト爲ス

公安ノ爲メ管轄ヲ移轉ス

(一八六)第一ハ公安ノ爲メ管轄ヲ移轉スルモノニシテ第三十四條ニ之ヲ規定ス曰ク

犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

例ヘハ犯罪ノ性質國事ニ關スルカ又ハ否ラサルモ其被告人タル者一地方ニ大勢力ヲ有スルニ因リ其地方ニ於テ裁判ヲ爲サシムルニ於テハ其黨類若クハ一般人民ノ奮激ヲ惹起シ其極裁判所ヲ襲擊シ又ハ裁

申請ヲ爲スコトヲ得ル者及ヒ其裁判ヲ爲ス裁判所

判官ヲ脅迫スル等ノ虞アリトセンカ兵力若クハ警察ノ力ヲ以テ鎮壓スルニ難カラサルモ是レ決シテ事ノ宜シキヲ得タルモノト謂フ可カラス寧ロ他ノ關係ナキ地方ニ移シテ裁判セシメ以テ其一地方ノ公安ヲ保持スルノ優レルニ若カス是レ此特例ノ設ケアル所以ナリ

(一八七)此管轄ノ移轉ハ訴訟關係人ノ爲メニスルモノニ非スシテ偏ニ公安ノ爲メニスルモノナリ故ニ訴訟關係人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ許サス公安保持ノ上ニモ幾分ノ責任ヲ有スル司法行政ノ長官タル司法大臣ヨリ大審院檢事總長ニ命令シ檢事總長ヲシテ大審院ニ其申請ヲ爲サシム可キモノトス

大審院ニ於テ此申請ヲ受ケタルトキハ果シテ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アリヤ否ヤヲ判斷シ決定ヲ與フ可シ而シテ法律上ニ於テハ此申請ヲ許否スルハ大審院ノ權內ニ在ルヤ勿論ナルモ已ニ司法大臣ニ於テ紛擾危險ノ恐アリト認メタルモノナレハ實際上ニ於テハ必ス其申請ニ應シ管轄移轉ノ決定ヲ與フルナラン

大審院カ決定ヲ與フルニ付テハ訴訟關係人ニ辯論ヲ爲サシメサルハ勿論其申立ヲモ聽カサルモノトス是レ其利害ニ關係セサレハナリ

此管轄移轉ノ申請ハ前款ニ說示シタル管轄指定ノ申請ト同シク直近上級ノ裁判所ヲシテ之ヲ決定セシムル方最モ便利ナルカ如シ然ルニ法律ハ必ス大審院ニ於テ決定スルモノト定メタルハ他ナシ此第一ノ場合ハ一控訴院又ハ一地方裁判所管內ニテ甲ヨリ乙ニ其管轄ヲ移轉スルモ到底裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルヲ免カレサルコトアレハナリ例ヘハ九州中何レノ地ニテ裁判セシムルモ此危險ヲ免カレストスルトキハ寧ロ大坂等遠隔ノ地ニ移轉スルヲ可トス而シテ大坂等ニ移轉スルハ長崎控訴院ノ決定シ得ヘキ所ニ非ス是レ大審院ニ此決定ノ

嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移轉ス

權ヲ與ヘタル所以ナリ

(一八八)第二ハ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移轉スルモノニシテ第三十六條ニ之ヲ規定ス曰ク

被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ摸樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スルコトヲ得

人或ハ疑ハン第四十一條ニ依レハ判事カ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ許セリ左レハ此忌避ノ方法ニ依リ嫌疑アル判事ヲシテ其事件ニ關係セシメサルハ可ナリ何ソ其事件ノ管轄ヲ他ノ裁判所ニ移轉スルヲ要センヤト此言一應其理アルカ如シ然レトモ法律カ特ニ此管轄移轉ノ事ヲ定メタルハ一二ノ判事ニ對シ嫌疑アルニ非スシテ判事全員ニ對シ嫌疑アル場合ヲ慮リタルニ由ル若シ此場合ニ於テ仍ホ忌避ノ方法ニ依ランカ本法第四十二條民事訴訟法第三十六條第二項第三項ニ從ヒ上級ノ裁判所其裁判ヲ爲シ而シテ忌避ノ申請ヲ正當ナリトスルトキハ結局裁判所構成法第十條第一號(前欵參看)ニ依リ更ニ管轄指定ノ申請ヲ爲スコトヽ爲ラン此ノ如ク繁冗ナル手續ニ依ラシムルヨリハ寧ロ一直線ニ上級裁判所ニ對シ管轄移轉ノ申請ヲ爲サシムル方最モ簡便ナリトス是レ此特別ノ規定アル所以ナリ

申請ヲ爲スコトヲ得ル者

(一八九)此管轄ノ移轉ハ前第一ノ場合ニ反シ單ニ訴訟關係人ノ爲メニシタルモノナレハ其申請ヲ爲ス可キ者ハ管轄裁判所ノ檢事其他ノ訴訟關係人ニシテ大審院檢事總長ハ固ヨリ之ニ與カルコトヲ得ス而シテ其申請ヲ裁判スヘキ裁判所ハ直近上級ノ裁判所ナリトス

申請ヲ裁判スル裁判所

然レトモ訴訟關係人必シモ常ニ此申請ヲ爲スノ權ヲ有セス法律ハ或

ル特別ノ場合ニ限リ此權ヲ與ヘス即チ第三十七條第二項ニ民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付テ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス」トアル是ナリ蓋シ民事原告人其裁判所ニ私訴ヲ爲シタルトキハ初メヨリ其裁判所ニ信用ヲ置キタルモノト看做サヽル可カラス偏頗ノ嫌疑アル者ノ裁判ヲ請フノ謂ハレナケレハナリ已ニ信用シテ私訴ヲ爲シナカラ中途ニシテ嫌疑アリト稱シ其裁判管轄ヲ移轉セシトス是レ實ニ專恣自儘ノ行爲ナレハ法律カ之ヲ許サヽルハ固ヨリ其所ナリトス但民事原告人ノ所爲ニ非スシテ其裁判所ノ管轄ト爲リタル場合例ヘハ上告裁判所ノ判決ニ因リ移送セラレタル場合ノ如キハ常ニ此申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ又被告人異議ノ申立ヲ爲サス甘ンシテ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ是レ亦其裁判所ニ信用ヲ置キタルモノト

申請及ヒ裁判ノ手續

看做ス可キヲ以テ同シク此申請ヲ爲スコトヲ許サヽルナリ

(一九〇)此申請ノ手續及ヒ裁判ニ付テハ

第三十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

第三十九條　前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

トアリ其相手方ニ答辯書ヲ差出スコトヲ許シタルハ管轄ノ移轉ハ其利害ニ關係スレハナリ又書類ニ依リ裁判スルモノトシタルハ口頭辯

除斥及ヒ忌避回避
除斥忌避回避ノ區別

論ヲ用ユル程ノ必要ナケレハナリ

第二章　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避

(一九一)除斥トハ或ル人カ或ル事件ニ關係シ職務ヲ執行スルコトノ禁制ヲ謂ヒ忌避トハ訴訟關係人ヨリ其人カ事件ニ關係スルヲ拒否スルコトヲ謂ヒ回避トハ其人カ自ラ其事件ニ關係スルヲ拒否スルコトヲ謂フ第一ノ禁制ハ法律ヨリ來ルモノニシテ絶對的ナリ第二第三ハ相對的ノ拒否ニシテ前者ハ他動ニ出テ後者ハ自動ニ出ツ其性質原因各〻相同シカラサルモ其人カ事件ニ關係セサル點ハ彼此異ナル所ナシ」

(一九二)第四十條ハ判事除斥ノ場合ヲ定メテ左ノ四箇ト爲セリ

第一、判事被害者ナルトキ　被害者ハ犯人ニ對シ決シテ好意ヲ懷クモノニ非ス其私情ノ激スルヤ成ル可ク犯人ヲ嚴罰センコトヲ望ムヲ普通トス左レハ判事如何ニ公平ヲ保タントスルモ不知不識普通ノ人情ニ制セラレ自然私意ヲ裁判ニ交フルコトナシトセス果シテ然ラハ被告人ノ不利益之ニ過クルモノアラス縱令判事ニ此憂ナシトスルモ世人ハ其裁判ニ疑ヲ容ルルヲ免カレサル可シ是レ被害者タル判事ヲ除斥シ其事件ニ干與スルコトヲ許サヽル所以ナリ

第二、判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

判事又ハ其配偶者ト被害者又ハ其配偶者ト親屬ナル場合ニ於テ判事ヲ除斥スルハ判事自ラ被害者ナル場合ニ於テ之ヲ除斥スルト同一ノ理由ニ基ク其被告人又ハ其配偶者ト親屬ナル場合ニ於テ之ヲ除斥スルハ全ク前ニ反シ親屬タル者ハ道德上互ニ相容隱スルノ義務アリ且ツ人情トシテ互ニ其窮厄ヲ救ヒ利益ヲ相計ルヲ常トス此ノ如キ者ヲシテ裁判ヲ爲サシム勢ヒ被告人ニ利益ナル裁判ヲ爲スヲ免カレス否

ラサルモ世人ハ必スヤ疑ヲ其間ニ容レン又他ノ一方ヨリ觀レハ判事ヲシテ進退維谷マルノ苦境ニ陷ラシムルモノト謂フ可シ是レ其親屬又ハ其配偶者ノ被告事件ニ干與スルコトヲ禁シタル所以ナリ

婚姻ニ因テ身分上ノ關係ヲ生シタル者其婚姻ノ解除スルトキハ最早何等ノ關係ナク全ク婚姻以前ニ復シ他人ト爲リタルモノナレハ此場合ニ於テハ除斥スルノ理由ナキカ如シ然レトモ婚姻ノ解除シタルニ拘ハラス仍ホ双方間ニ關係ヲ遺存スルヲ常トス例ヘハ妻死去シ婚姻之カ爲メニ解除スルモ其生子アルニ於テハ我ト亡妻ノ生家トノ關係ヲ絶ツコト能ハス我子ヨリ觀レハ亡妻ノ父母ハ即チ其外祖父母タルコト依然タレハナリ故ニ亡妻ノ父母被害者又ハ被告人タルトキハ勢ヒ偏頗ニ渉ルコトヲ免カレサル可シ縱令亡妻ニ生子ナカリシトスルモ其忌辰ニ當リテハ其父母兄弟等ヲ招キ共ニ祭典ヲ擧クル等ノ風俗アリテ其生家トノ關係ヲ全然斷絶スルコト稀ナリ因テ法律ハ前ノ姻族ニ付テモ仍ホ現在ノ姻族ト同シク除斥ス可キモノト定メタリ

第三、判事其事件ニ付キ證人鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

前ニ本案被告事件ニ付キ證人又ハ鑑定人ト爲リ供述又ハ鑑定ヲ爲シタル者ハ其供述鑑定シタル點ニ付テハ必スヤ前言ヲ固執ス可ク假令反證出ルモ容易ニ之ヲ飜ヘスコトナカル可シ果シテ然ラハ其者ヲシテ裁判ヲ爲サシムルモ到底公明正大ナルヲ望ミ難シ殊ニ判事其人ニ於テハ一方ニテ證人鑑定人ト爲リナカラ他ノ一方ニテハ裁判官ト爲リ自身カ供述鑑定シタル所ノモノヲ心證ノ資料ニ供スルハ理ニ於テ許ス可カラサル事ナリトス左リトテ此場合ニ於テハ自身ノ供述鑑定ヲ採用ス可カラストセンカ必要ナル證據ノ現存スルニ拘ハラス故ナ

ク之ヲ捨去リ遂ニ公益若クハ被告人ノ利益ヲ害スルニ至ル是レ前ニ證人鑑定人ト爲リタル者ヲシテ裁判ニ干與セシメサル所以ナリ

又判事カ被告人又ハ被害者ノ法律上代理人ナルトキハ假令彼此ノ間親屬ノ關係ナキモ元來交際信用等離ル可カラサルノ關係アリテ法律上代理人ト爲リタルモノニシテ殆ト親族ト相擇フ所ナシ故ニ親屬ノ關係アル場合ト同シク其判事ヲ除斥ス

第四、判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

先入主ト爲ルハ人ノ免カルコト能ハサル所ニシテ最初被告人ヲ有罪ナリト斷定シタル者ハ後日反證ヲ發見スルモ仍ホ多クハ前說ヲ固持ス可シ乃チ豫審終結ニ於テ被告人ニ對シ犯罪ノ證憑十分ナリトシ其事件ヲ公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタル者公判ニ干與セハ更ニ又有罪

ノ認定ヲ下スコト殆ト必然ナリト謂フモ可ナリ第一審ノ公判ニ干與シタル者第二審ノ裁判ニ干與スル場合モ亦同シタ第一審ノ判決ヲ維持スルコトヲ勉ム可ク結局覆審ノ利益ヲ見サルニ至ル可シ是レ前ニ其事件ノ裁判ヲ爲シタル者ヲシテ後ノ裁判ニ干與セシメサル所以ナリ

法律ハ豫審終結ニ干與シト記シテ豫審ニ干與シト言ハス蓋シ一旦豫審ニ於テ單ニ一部ノ處分ヲ爲シタル者ハ豫審終結ノ決定ヲ爲シタル者ト異ナリテ其事件ニ深キ關係ヲ有セス隨テ被告人ニ對シ不利益ナル心證ヲ形成シ容易ニ動カサル者ト認ムルコトヲ得ス故ニ此者ヲシテ其公判ニ干與セシムルコトヲ妨クルノ理ナシ是レ故ラニ豫審終結云々ト記シタル所以ナリ

此除斥ノ原由ハ上告裁判所ノ判事ニモ亦之ヲ適用ス可キ乎論者或ハ

曰ハン上告裁判所ハ法律適用ノ當否ヲ鑑査スル所ニシテ事實ノ點ニ立入ルコトナシ已ニ事實ノ點ニ立入ルコトナシトセハ假令前ニ事實ノ裁判ヲ爲シタルコトアルモ之ヲシテ更ニ法律ノ裁判ヲ爲サシムルモ何ノ不可カ之アラン事實ハ或ハ枉クルコトヲ得ヘキモ法律ハ決シテ枉クルコト能ハス故ニ此法律ノ規定ハ事實裁判所ノ判事ニ限リ適用スルモノナリト解釋ス可シト此言一應其理アルカ如シ然レトモ事實ノ問題法律ノ問題ト混合シ上告裁判所ト共ニ之ヲ裁判スル場合ナキニ非ス殊ニ法律ハ一般ニ規定ヲ爲シ上告裁判所ノ判事ヲ例外ニ置カス故ニ此規定ハ總テノ裁判所ニ適用ス可キモノナリト解釋セサル可カラス且ツ法律ノ問題ニ付テモ前ニ裁判ヲ爲シタル者ハ勢ヒ其前説ヲ固執ス可ク若シ然ルトキハ新ニ五名又ハ七名ニテ裁判ヲ爲ス可キニ其實四名又ハ六名ノ新判事ニ一名ノ舊判事ヲ加ヘ裁判セシムル

判事忌避ノ場合

申請ヲ爲スコトヲ得ル者

コトハ爲リ構成法ノ精神ニ背クヲ免カレス因テ論者ノ言ハ到底採用ス可キモノニ非ストス

(一九三)除斥ノ原因アル判事ハ固ヨリ其事件ニ干與ス可カラサルハ勿論ナルモ萬一之ニ干與スルトキハ如何其裁判ハ法律ニ違背スルモノナルヲ以テ後日上訴ニ依テ取消若クハ破毀セラルヽヲ免カレス然ラハ訴訟關係人ハ上訴ニ依ルノ外其違法ノ點ヲ申立ルヲ得サル乎否々其裁判ノ無効ニ歸ス可キヤ明白ナルニ拘ハラス其下ルヲ待タサル可カラサルノ理ナシ故ニ法律ハ此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ其除斥ノ原由アル判事ヲ忌避スルコトヲ許セリ

除斥ノ原由ナシト雖トモ判事カ被告人又ハ被害者等ト信友タリ若クハ深怨等アリテ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ場合ナシトセス法律ハ此場合ニ於テモ檢事其他訴訟關係人ヨリ其判事ヲ忌避

スルコトヲ許セリ是レ法律自ラ其判事ヲ疑フニ非サルモ苟クモ當事者ノ疑ヲ受ケタル者ナレハ之ヲシテ其事件ニ干與セシメス以テ裁判ノ信用ヲ維持スルコトヲ得策トスレハナリ

前述ノ如ク除斥ノ原由アル場合ト否トヲ問ハス忌避ノ申請ヲ爲スコトヲ許スモ其申請ヲ爲ス可キ時期ニ付テハ場合ニ依リ同一ナラス除斥ノ原由アル場合ニ於テハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得ルモ偏頗ノ恐アル場合ニ於テハ當事者其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其判事ヲ忌避スルコトヲ得サルモノトス(民事訴訟法第三十四條)是レ一ハ法律ノ推定ニテ常ニ疑アリトスル場合ナルモ一ハ否ラサルニ因ル且ツ當事者一旦甘ンシテ申立若クハ陳述ヲ爲シナカラ後日ニ至リ忌避ノ申請ヲ爲スカ如キハ實ニ專恣

申請及ヒ裁判ノ手續

ノ所爲ニシテ道理上決シテ許容ス可キモノニ非ス是レ此區別アル所以ナリ

(一九四)忌避ノ申請及ヒ其裁判ノ手續ニ付テハ法律ハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス可キモノト定メタリ(第四十二條)是レ此種ノ手續ハ訴訟ノ民事タルト刑事タルトニ依テ區別ノ生ス可キモノニ非サレハナリ今左ニ民事訴訟法ノ規定ヲ擧示セン

第三十五條　忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得

原告若クハ被告カ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後其判事ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲ストキ

ハ忌避ノ原因其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明スル可シ

第三十六條　忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルトキハ其裁判所忌避ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス

若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス

區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事カ忌避ノ申請ヲ正當ナリト爲ストキハ裁判ヲ要セス

第三十七條　忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得忌避セラレタル判事ハ先ツ申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述フ可シ

第三十八條　忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右法文明晰ニシテ別ニ說明ヲ要スルモノナシ而シテ此法律ハ別ニ第四十三條ヲ以テ左ノ規定ヲ爲セリ

忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

蓋シ公判ノ辯論ヲ中止スルハ其判事疑ヲ受ケタルニ拘ハラス仍ホ其手續ヲ繼續セシムルハ事理穩當ナラサルノミナラス若シ忌避ノ申請正當ナリト決スルトキハ前ニ爲シタル手續總テ無用ニ歸スルヲ以テ

判事回避ノ場合

ナリ之ニ反シ豫審ノ處分ヲ繼續セシムルヲ本則ト爲シタルハ證據集取ノ處分ハ一日後レハ一日ノ害アリ急速ニ其處分ヲ爲スヲ必要トスレハナリ但實際急速ヲ要セサル場合ハ之ヲ中止スルモ妨ナシトス

(一九五)忌避ノ外回避ナルモノアリ是レ當事者ヨリ忌避ノ申請ヲ爲サヽルモ判事ニ於テ自ラ忌避セラル可キ原因アルコトヲ認ムルカ又ハ特別ノ事情アリテ其事件ニ干與スルニ忍ヒサルトキ忌避申請ヲ管轄裁判所ニ申立テ以テ其事件ノ關係ヲ免カルヽモノトス此回避ノ申立ニ付テハ右裁判所之ヲ裁判スヽ是レ其判事カ名ヲ回避ニ藉リ難ヲ去テ易ニ就ク等ノ不都合ナカラシメンカ爲メナリ而シテ此裁判ハ固ヨリ訴訟關係人ノ申請ニ基クモノニ非サレハ其辯論ヲ聽クノ必要ナキハ勿論之ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ許サヽルハ言フ俟タサル所ナリトス

裁判所書記ノ除斥等

(一九六)以上ハ判事ニ對スル法律上ノ除斥及ヒ其忌避回避ノ事ヲ述ヘタルモノナリ總テ是等ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用スルモノトス是レ裁判所書記ハ有罪無罪ノ證據ト爲ル可キ調書ヲ主トシ其他必要ナル記錄ヲ作ルモノナレハ其作製上或ハ私意ヲ交ヘ故ラニ事實ニ相違スル記載ヲ爲スノ恐レアリ又少クトモ此嫌アルヲ免カレサレハナリ

茲ニ注意ス可キハ判事ニ付テハ除斥ノ原由四箇アルモ其中第四ノ原由即チ其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタリトノコトハ裁判所書記ニ適用ス可カラサルコト是ナリ蓋シ書記ハ裁判ヲ爲ス者ニ非サレハ前ノ意見ヲ固執スルナラントノ嫌疑アル可キ謂レナシ且ツ法文ニモ干與トアリテ立會トアラスシテ書記ハ豫審公判ニ立會フニ過キサレハ此第四ノ原由ヲ書記ニ

申請ヲ裁判スル裁判所

適用ス可カラサルヤ益〻分明ナリトス

書記ニ對スル忌避ノ申請及ヒ其回避ノ申立ニ付テハ書記所屬ノ裁判所之ヲ裁判ス是レ判事ニ於ケルカ如ク上級裁判所ヲシテ裁判セシムルノ必要ナケレハナリ

検事ニハ除斥忌避回避ナシ

(一九七)検事ニ付テハ其被告人又ハ被害者ト如何ナル關係ヲ有スルモ又他ニ如何ナル事情アルモ法律ハ之ヲ除斥スルコトナク又訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ許サス是レ検事ハ裁判所ニ對シ訴求ヲ爲スニ過キサルモノナレハ如何ニ被告人ニ利益若クハ不利益ナル請求ヲ爲スモ裁判所ハ決シテ之ニ羈束セラルヽコトナク隨テ偏頗ノ處置アルモ之カ爲メ實害ヲ生スルコトナキニ由ル又忌避ヲ許ストセハ被告人タル者常ニ必ス其申請ヲ爲スニ至ル可シ訴訟關係人相互ニ忌避スルカ如キハ道理上決シテ許容ス可キモノニ非ス是レ検事ニ付テハ除斥ナク又忌避ノ申請ヲ爲サヽル所以ナリ

然レトモ検事モ亦是レ普通ノ人ナレハ或ハ其父子兄弟等近キ親屬カ被告人タル場合ノ如キニ在リテハ其身其訴訟ニ關係シ有罪ノ論告等ヲ爲スニ忍ヒサルコトアラン故ニ回避ノ申立ハ之ヲ許容スルヲ至當ナリトス然ルニ法律此點ニ付テモ何等ノ規定ヲ爲サヽルハ敢テ其回避ヲ禁止スルノ意ニ非ス検事ハ一體ナリトノ原則ニ依リ検事中ニテ相互ニ交代スルコトヲ得ヘク而シテ其交代ニ付キ監督官ノ許可ヲ經ルハ格別特ニ裁判所ノ裁判ヲ受クルヲ必要トセス是レ法律カ其回避ニ付キ何等ノ規定ヲ爲サヽル所以ナリ

第三編　犯罪ノ搜査、起訴及ヒ豫審

第一章　搜査

搜査起訴豫審

搜査

搜査ノ目的

(一九八)我法律ハ下調處分ヲ別テ二ト爲ス搜査ト豫審ト是ナリ搜査ト

ハ犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ景狀、多寡、被告人ノ氏名、年齡、職業、住所、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人其他證據物件ノ所在等總テ犯罪ニ關係アル事物ヲ取調フルヲ以テ其目的ト爲スモノニシテ之ヲ司法警察ノ處分ト稱ス此處分ハ要スルニ檢事ノ公訴ヲ提起實行スルノ資料ヲ得ル爲メニスルモノナレハ此權ハ公訴權ト終始相伴ヒ公訴權ノ生スルヤ捜査權モ共ニ生シ公訴權ノ消滅スルヤ捜査權モ共ニ消滅ス其關係恰モ影ノ形ニ於ケルカ如クナル可シ然ルニ佛國ノ法ニ於テハ司法警察ハ犯罪ヲ捜査シ其證憑ヲ集取シ以テ其犯人ヲ刑罰ヲ掌ル裁判所ニ交付スルモノナリトノ定義ヲ下シ苟クモ被告事件ヲ公判ニ付シタル上司法警察ハ復タ之ニ干渉スルコトナキカ如ク規定シタルニ依リ我法律ノ所謂司法警察即チ捜査ノ權モ亦彼ト同シク證憑ヲ集取シ被告人ヲ公判ニ付スルヲ以テ其限度ト爲シ爾後其處分權消滅

ニ歸ス可シト解釋スル者ナシトセス是レ我司法警察ト彼司法警察トヲ同視スルニ由テ生スル誤謬ニシテ固ヨリ採ルニ足ラサルモノトス

抑佛國ノ法タル捜査ト豫審トヲ區別セス下調處分ニ屬スルモノヲ總括シテ之ニ司法警察ノ名稱ヲ下セリ即チ彼司法警察中ニハ我司法警察ノ一分ト豫審トヲ包含スフオーストン、エリー氏曰ク司法警察ハ裁判官ノ審理ニ先ツモノニシテ此警察ハ犯罪發覺ノ時ニ始マリ裁判官カ公訴ヲ受理シ自ラ其處分ニ着手スル時ニ至リテ終ルモノナリ(中略)又司法警察ノ全權ヲ有スル者ハ豫審判事ニシテ其他ハ檢事ト雖モ或ル場合ニ限リ且ツ或ル制限ニ從フニ非サレハ司法警察ヲ行フコトヲ得ス云々オルトラン氏モ亦同一ノ旨趣ヲ開說セリ以テ彼司法警察ト稱スルモノヽ如何ヲ知ル可シ

我法律ハ彼ニ反シ司法警察ヲ以テ判然豫審ト區別シ而カモ司法警察ハ公訴ノ提起實行ノ資料ヲ得ルヲ其主眼ト爲ストノ旨趣ニ依リ檢事ヲ以テ其本務官トシ豫審判事ノ如キハ此處分ニ與カラサルモノトス而シテ豫審ノ處分ハ豫審判事專ラ之ニ任シ有力ナル方法ヲ以テ證憑ヲ集取スルコトヽ爲セリ左レハ我法律ニ於テハ捜査即チ司法警察ノ處分ハ公力ヲ用ヰスシテ之ヲ執行シ其公力ヲ用ユルハ豫審ノ處分ニ限レリ此ノ如ク彼我ノ法律其精神ヲ異ニスルカ故ニ彼法ヲ以テ我法ヲ解スルノ根據ト爲スコトヲ得ス乃チ公訴已ニ起リ裁判官自ラ其事件ノ審理ニ着手スルニ至レハ司法警察復タ之ニ干渉スルコトヲ得ス ト解ス可カラス

或ハ曰ク捜査ノ必要ハ公訴提起前ニ在リ一旦公訴ノ提起アリタル上ハ裁判官其職權ヲ以テ總テノ證憑ヲ集取ス可キニ因リ司法警察ハ其

捜査ニ任スルヲ要セス故ニ公訴ノ提起ヲ以テ司法警察終了ノ期ト爲スモ不當ニ非スト然リ裁判官ハ其職權ヲ以テ證憑ヲ集取スルコトヲ得ルハ勿論ナリ然レトモ裁判官ニ此權アルヲ憑ミ檢事タル者袖手傍觀ス可キニ非ス豫審ト公判トヲ問ハス公訴提起後ト雖モ尚ホ十分ニ捜査ヲ盡シ新ナル證憑ヲ發見セハ之ヲ集取シテ裁判所ニ提出シ或ハ其集取ヲ裁判所ニ請求シ以テ公訴ノ維持ヲ勉メサル可カラス故ニ余ハ斷言ス曰ク我捜査即チ司法警察ハ佛法ト異ナリテ事件公判ニ移ルモ尚ホ其處分權消滅スルコトナシ又佛法ト異ナリテ此處分ニ付キ公力ヲ用ユルコトヲ得ス苟クモ人ノ權利ヲ侵害セサル限リハ公訴權消滅スルニ至ルマテ之ヲ執行スルコトヲ得ヘシト然レトモ第二審ノ裁判アリタル上ハ復タ事實ノ點ヲ以テ其裁判ヲ左右スルコト能ハサルカ故ニ最早捜査ヲ爲スヲ必要ナク又捜査ヲ爲スモ其效用ナキニ因リ

公訴停止ノ場合ニ於テ捜査ヲ停止ス可キ乎

此裁判以後ニ於テ捜査ヲ爲ス可キモノニ非サルハ勿論ナリトス

(一九九)前述ノ如ク捜査ノ權ハ公訴ノ權ニ伴フ可キモノナリトスル止ハ公訴ノ權生シタルトキハ捜査ノ權コハニ生シ乃チ其處分ニ着手ス可シ然ルニ犯罪アリテ公訴ノ權同時ニ生シタルモ當該官吏其犯罪アリタルコトヲ覺知セサルニ於テハ此權ヲ實行スルコト能ハサルト同シク捜査ノ權モ亦當該官吏犯罪アリタルコトヲ覺知シタルトキニ非サレハ實際之ヲ執行スルコト能ハサルヤ勿論ナリ此點ハ別ニ細論スルノ要ナキモコハニ一疑問トシテ研究セサル可カラサルモノアリ所ハ公訴權停止ノ場合ニ於テハ捜査權モ亦隨テ停止ス可キ乎將タ捜査權ニ限リ之ヲ執行ス可キ乎ノ疑問ナリトス

第一編ニ於テ説示シタル如ク公訴權停止ノ場合ニ三アリ今其第一ノ場合即チ被害者ノ告訴ヲ要スル場合ニ付テ之ヲ考フルニ此場合ニ於テハ捜査權ヲモ停止セサル可カラス蓋シ猥褻姦淫ノ罪及ヒ幼者ヲ略取誘拐スル罪ノ如キハ孰レモ一家内ノ隱微ニ係ルモノニシテ之ヲ摘發セハ爲メニ一家内ノ和合ヲ破リ被害者ニ對シテ其損害ヲ重ヌルノミナラス一般ノ風俗ヲ壞ルノ基ト爲ルノ恐レアリ此ヲ以テ被害者等ノ告訴ナキ上ハ公訴權ヲ實行セスト定メナカラ捜査ノ處分ハ之ヲ行フヲ妨ケストスルトキハ自然其事ヲ世ニ公ケニシ法律カ被害者ヲ保護シ其事ヲ秘密ニセントスル旨趣ニ反ス又脅迫ノ罪ノ如キ牛馬以外ノ家畜ヲ殺シタル罪ノ如キ其損害ノ生シタリヤ否ヤ知ルコト能ハサルニ定メテ損害ヲ生シタルナラント憶測シ捜査ニ着手スルモ到底徒勞無益ニ屬ス可キノミナラス或ハ爲メニ人民ヲ煩ハスコトナシトセス故ニ告訴ヲ要スル事件ニ付テハ其犯罪ノ性質如何ヲ問ハス被害者ノ告訴アルマテハ捜査ノ處分ヲ停止セサル可カラス

第二ノ原由即チ勅奏任官華族帯勲有位者ノ犯罪ニ付テハ上奏裁可アルマテ公訴權ヲ停止セサル可カラサルモ捜査ノ處分ハ之ヲ停止スルヲ要セス否必ス之ヲ實行セサル可カラス抑是等ノ者ノ犯罪ニシテ現行犯ナランニハ上奏ノ手續ヲ經スシテ直チニ處分ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ之ヲ逮捕シ訊問スル等嚴格ナル處分モ亦尚ホ之ヲ行フコトヲ得ヘシ左レハ捜査處分ノ如キ嚴格ナラサルモノハ之ヲ行フコトヲ得ルヤ勿論ナリ而シテ其非現行犯ノ場合ニ於ケルモ公訴權實行ノ爲メ上奏ノ手續ヲ爲スニハ先ツ其事件ノ犯罪タルコト右勅奏任官等カ被告人ナルコト等ヲ確メサル可カラス之ヲ確ムル爲メ諸般ノ取調ヲ爲スハ即チ捜査ノ處分ニ外ナラス以テ捜査ノ停止ス可カラサルコトヲ知ル可シ然レトモ元來上奏裁可ヲ要スルモノハ勅奏任官等其人ノ身分ヲ重ンスルノ旨趣ニ出テタルモノナレハ捜査處分ヲ公ケニシ未タ

裁可アラサルニ其人ノ品位ヲ傷クルカ如キ事ナキヲ要ス乃チ其捜査ハ秘密ニセサル可カラス

第三ノ原因即チ税關又ハ間税本分署ニ於テ犯則者ノ處分ニ着手シタルトキハ捜査ノ處分ハ之ヲ行フノ必要ナシ犯則者通告ノ旨ニ服從シタルトキハ公訴權消滅シ前ニ爲シタル捜査ハ一切無用ノ事ト爲ル可シ故ニ税關又ハ間税本分署ヨリ告發アルマテハ此處分ヲ停止ス可キモノナリトス

右第一第三ノ公訴權停止ノ場合ヲ除クノ外檢事及ヒ司法警察官ニ於テ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ直チニ捜査ニ着手ス可シ而シテ其犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料スルハ告訴告發ヲ受ケタル場合又ハ現行犯准現行犯ヲ目擊シタル場合最モ多キニ居ル可シ且ツ是等ノ場合ニ付テハ法律ノ規定ヲ要スル

事項ナキニ非ス因テ法律ハ本章ヲ二節ニ別チ第一節ニ告訴告發ニ關スル規定ヲ爲シ第二節ニ現行犯ノ事ヲ規定シタリ

第一節　告訴及ヒ告發

告訴告發

告訴告發ノ區別

(二〇〇)告訴ハ被害者之ヲ爲シ告發ハ被害者以外ノ者之ヲ爲スノ別アリト雖モ犯罪事件ヲ官ニ申告シ以テ公訴ノ提起ヲ促スニ至リテハ二者ノ間殆ト差異アルコトナシ故ニ法律ハ概シテ此二者ニ付キ同一ノ規定ヲ爲シタリ

告訴告發ヲ禁ス可キ乎命ス可キ乎ノ論

先ツ此告訴告發ニ付キ古來學者ノ論スル所ヲ觀ルニ其說三種ニ岐レタリ甲說ハ之ヲ禁止ス可シト云ヒ乙說ハ之ヲ命令ス可シト云ヒ丙說ハ之ヲ聽許スルニ止ム可シト云ヘリ我法律ハ本則トシテ丙說ヲ採用シ而シテ或ル者又ハ或ル場合ニ付キ乙說ヲ例外トシテ採用シタリ

禁止說

(二〇一)甲說ニ曰ク古昔希臘、羅馬等ノ諸國ニ行ハレタル如ク公訴權人民ノ手ニ存スルモノトセハ被害者タルト否トヲ問ハス苟クモ犯罪事件ヲ申告スル者ハ身自ラ原告ト爲リテ其訴旨ヲ陳辯シ常ニ審理ニ干與シ犯罪ノ證憑ヲ提出セサル可カラス其責ヤ重且ツ大ナリ隨テ不實ノ申告ヲ爲ス者極メテ少ク弊害ノ生スルコト稀ナリシ然ルニ今公訴ノ權ヲ官吏ノ手ニ移シ人民ノ告訴告發ヲ爲ス者ハ密ニ犯罪事件ヲ申告スルノミニシテ其人ハ證憑ヲ提出シ申告ノ事由ヲ辯明シ常ニ審理ニ與カル等ノ事ナク決シテ原告タル大任ヲ負フコトナシ而カモ其申告ハ起訴ノ原由ト爲リ又多クハ犯罪ノ證憑ト爲ル是ニ於テ乎姦猾ノ徒ハ此ヲ以テ公安ヲ害シ私利ヲ營ムノ具ト爲シ誣告頻ニ起リ良民其休安ヲ保ツコト能ハサルニ至ル危險ノ極ナリト謂フ可シ故ニ法律ハ須ラク告訴告發ヲ禁止スヘシト蓋シ此說タル頗ル一方ニ偏スルモノ

ニシテ其當ヲ得サルハ深ク辯セスシテ明ナリ若シ告訴告發アレハ檢事必ス公訴ヲ起サヽル可カラストセハ弊害ノ生スルコトアル可シト雖モ檢事ハ告訴告發ヲ取捨スルノ權ヲ有シ公訴ヲ起スト否トハ其公平ナル意見ニ任スモノトシ且ツ他ノ一方ニ於テ萬一其告訴告發ノ惡意若クハ重過失ニ出タルモノハ刑事上若クハ民事上ノ責ヲ免カレスト定ムル上ハ決シテ弊害ノ生スル虞ナカル可シ畢竟此說ハ杞憂ニ過キタルモノト謂フ可シモンテスキウ已ニ此說ヲ駁シテ言ヘルコトアリ曰ク法官ニ於テ一ハ告訴人告發人ノ品行及ヒ其告訴告發ヲ爲スニ付テ如何ナル利益ヲ有スルヤヲ視察シ一ハ其申告ノ材料タル證憑ヲ取調ヘ然ル後之ヲ取捨スレハ則チ可ナリ何ソ告訴告發ヲ禁止ス可ケシヤト

命令說

(三)〇(二)乙說ハ全ク第一說ニ正反對ナルモノニシテ其說ニ曰ク犯罪ノ發覺ハ現行犯ニ原由スルモノ少クシテ告訴告發ニ基クモノ多カル可キ筈ナリ然ルニ實際未タ必シモ然ラサルモノハ告訴告發ヲ以テ法律上ノ義務ト爲サス一ニ人民ノ自由ニ任セタルニ職由セスンハアラス抑〻人民ハ公益ノ爲メニ飽マテ力ヲ盡シ之ヲ害スル者アレハ相奮フテ之ヲ除去ス可キ道德上ノ義務アルニ拘ハラス現ニ公安ヲ攪亂スル者アルコトヲ認知シナカラ之ヲ官ニ申告セス官亦之ヲ責ムルコトナシトセハ終ニ一人ノ告訴告發ヲ爲ス者ナキニ至ルモ知ル可カラス蓋シ道德ノ命セサル所ナルモ法律ハ公益ノ爲メニ之ヲ命スルコトアリ況ヤ告訴告發ヲ爲シ以テ公益ヲ計ルハ道德ノ命スル所ナリ法律之ヲ命スル何ノ不可ナルコトカアラン反對論者輒モスレハ曰ク告訴告發ヲ以テ法律上ノ義務ト爲ス上ハ其制裁ヲ設ケ此義務ヲ盡サヽル者ヲ罰セサルヲ得ス僅ニ告訴告發ヲ爲サヽルノ故ヲ以テ人ヲ刑罰ニ致スハ

酷ナリト此說果シテ當ヲ得タリトセンカ何故法律ハ證人鑑定人等ノ呼出ニ應シテ出廷セス又宣誓供述ヲ肯セサル者ヲ罰スル乎同シク是レ犯罪事件ニ付キ我カ知ル所ヲ官ニ申立ル者ナルニ一ハ法律上ノ義務トシテ之ヲ缺ク者ヲ罰シ一ハ義務トセスシテ制裁ヲ設ケス是レ如何ナル區別アリテ然ル乎實ニ解ス可カラサルナリト此說モ亦極端ニ奔ルノ譏ヲ免カレス蓋シ情ト理トハ人類社會ニ欠ク可カラサルモノニシテ決シテ偏廢ス可キニ非ス告訴告發ハ有罪ヲ罰シ公安ヲ保ツノ基ト爲ルカ故ニ人民タル者必ス之ヲ爲ス可シト云フハ理ナリ人間誰カ過ナカラン萬一過テ法律ニ觸ルヽモ訐テ以テ直ト爲スハ我カ忍ヒサル所ナリト云フハ情ナリ思フニ道德ハ情理二者ノ間ニ處シテ宜シキヲ得ルヲコソ命令スルモ其一方ニ偏シテ他人ノ罪過ヲ訐ク可シト命令スルモノニ非サル可シ左レハ告訴告發ハ道德上ノ義務ナリト斷定ス可カラス今道德上ノ議論ハ姑ク舍キ專ハラ公益ノ點ニ付テ之ヲ觀察スルニ告訴告發ヲ命令スルハ必シモ公益ト爲ラス反テ之ヲ害スルニ至ルコトナシトセス例ヘハ甲者アリ乙者ノ罪ヲ訐ク乙者何ソ甲者ノ所爲ヲ快シトセンヤ是ニ於テ乎報復トシテ甲者ノ罪ヲ訐ク曰ク是レ法律ノ命令ニ從フナリト此ノ如ク人々互ニ其罪ヲ訐ク之ヲ公益ヲ計ルモノナリト謂フ可ケンヤ、且ツ告訴告發ヲ爲サヽル者制裁トシテ刑罰ヲ科スルトキハ一罪ノ爲メニ數罪ヲ生スルニ至ルヤ必然ナリ例ヘハ劇場等多衆集會ノ場所ニ於テ一罪ヲ犯ス者アリ之ヲ目擊スル者幾千百人必シモ皆擧テ告發スルヲ期ス可カラス若シ幾百十人告發ヲ怠リタルトキハ悉ク之ヲ犯罪人トシテ處罰セサル可カラス加之告訴告發ノ怠慢ヲ以テ一ノ犯罪ト爲ス上ハ他人ノ怠慢ヲ知テ告發セサル者亦之ヲ犯罪人トセサル可カラス此ノ如ク一犯罪ノ爲メ續々連及

聽許說本法ハ此說ヲ採用シタルコト

者ヲ生スルハ豈之ヲ公益ノ爲メニ利アリト謂フ可ケンヤ論者ハ證人鑑定人ニ對スル法律ノ規定ヲ畧ケテ告訴告發ヲ命令ス可キノ例證トスモ是レ其當ヲ得タルモノニ非ス何トナレハ證言鑑定ノ義務ハ法律カ常ニ必ス命令スルモノニ非ス即チ犯罪ヲ見聞シタル者ハ進ンテ證言ス可シ特別ノ識能アル者ハ進ンテ鑑定ス可シト命令シタルニ非スシテ裁判所ヨリ特ニ命セラレタル場合ニ於テ之ニ應ス可シト命令シタルニ過キス故ニ犯罪アルコトヲ知リタル者進ンテ告訴告發ス可シト一般ニ命令スルモノト同視スルコトヲ得サルナリ

(三〇三)甲乙二說共ニ採ルニ足ラス其中間ニ在ルモノ即チ禁止モ爲サス命令モ爲サス一ニ人々ノ意ニ任ス可シト云ヘル丙說ハ最モ當ヲ得タルモノニシテ此說ニ付テハ非難ノ容ル可キモノナシ是レ我法律カ本則トシテ之ヲ採用シタル所以ナリ

舊律ニ依ルニ于名犯義ト稱スル一種ノ犯罪ヲ規定シ子孫カ父母祖父母ノ犯罪ヲ訴ヘ妻カ夫ノ犯罪ヲ訴フルカ如キ皆之ヲ罰シタリ即チ當時ニ在リテハ或ル身分上ノ關係アル者ニ付テ告訴告發ヲ爲スコトヲ嚴禁シ幾分カ甲說ヲ採用シタルモノヽ如シ然ルニ刑法ニ於テハ復タ是等ノ犯罪ヲ規定セサルノミナラス此法律ニ於テ全ク甲說ヲ排斥シ一般ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ子トシテ其父母ノ犯罪ヲ告訴告發スルモ妨ケナキコトヽ爲レリ今專ラ道德ノ一點ヨリ觀察スルトキハ舊律ノ規定寧ロ新法ノ規定ニ優レルカ如クナルモ新法ノ意ハ强チ子タル者ヲシテ其父母ノ犯罪ヲ告訴告發セシメントスルニ在ラス之ヲ爲スト否トヲ子タル者ノ眞心カ指定スル所ニ任セタルニ過キス左レハ新法ハ道德法ノ範圍內ニ侵入セサルマテニシテ決シテ道德法ヲ蹂躪シタルモノト謂フ可カラス

本法乙說ヲモ採用シタルコト

第一ノ場合

(三〇四)甲說ハ本法全ク之ヲ排斥シタルモ乙說ハ幾分カ之ヲ採用シタリ今其場合ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一ノ場合ハ第五十二條ニ之ヲ規定ス曰ク

官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

此ノ如ク官吏、公吏ニ對シ告發ノ義務ヲ負ハシメタルノ理由如何思フニ官吏、公吏タル者ハ其主管ノ事務ニ付テ一切ノ責ニ任シ專心以テ其事務ノ擧ランコトヲ勉メサル可カラス然ルニ其職務ヲ行フニ當リ其職務ニ密着ノ關係アル犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シナカラ之ヲ告發シテ檢事ノ起訴ヲ促スコトナク或ハ故意ヲ以テ或ハ

怠慢ニ因リ之ヲ默過スルニ於テハ縱令其事務一旦局ヲ結フモ到底其職務ヲ行フノ旨趣ヲ達スルコト能ハサル可シ例ヘハ民事裁判官ニ於テ民事訴訟ノ審理中當事者ノ提出シタル證書ハ其僞造變造ニ係ルコト顯然タリト認知シナカラ告發ヲ爲スコトナク仍ホ其僞造變造ノ證書ヲ有效ノ證據ナリトシ之ニ依テ裁判ヲ下スモ可ナリトセンカ直者ヲ害シ曲者ヲ利スルノ惡結果ヲ生ス登記官吏カ登記ノ事務ヲ取扱フニ當リ登記請求者カ冒認販賣等ノ罪ヲ犯スニ相違ナシト思料シナカラ告發ヲ爲サス其儘登記ヲ爲スカ如キモ亦然リ故ニ是等ノ場合ニ於テハ義務トシテ必ス告發ヲ爲ス可キモノト定メタルモノナリ

然レトモ告發ノ義務ハ官吏公吏ノ身分ニ附着スルモノニ非スシテ其職務ニ附着スルモノナリ故ニ官吏、公吏ニモセヨ又其職務執行ノ際ニモセヨ其職務ニ關係ナキ犯罪ニ係ルトキハ此義務ヲ有スルコトナシ

例ヘハ登記官カ登記事務取扱中其登記所若クハ其近傍ニ於テ殺傷盜奪等ノ犯罪アルコトヲ認知シタル場合ノ如キ之カ告發ヲ强要スルノ理由ナキヲ以テ法律ハ決シテ義務ヲ負ハシムルコトナシ法文ニ「其職務ヲ行フニ因リ」ト記シテ「其職務ヲ行フニ當リ」ト記セサルハ即チ此區別ヲ示シタルモノナリ

第二ノ場合

官吏、公吏告發ノ義務アル場合ニ於テ其義務ヲ盡サヽルトキハ如何ナル制裁ヲ加フ可キ乎法律ハ別ニ之カ規定ヲ爲サスト雖モ事情ニ依リ相當ノ懲戒處分ヲ施ス可シ是レ其惟一ノ制裁ナリ

(二〇五)第二ノ場合モ亦官吏公吏ニ告發ノ義務ヲ負ハシメタルモノニシテ其第一ノ場合ト異ナルハ彼ハ一般ノ官吏、公吏ニ關シ此ハ特定ノ官吏、公吏ニ關スルコト是ナリ而シテ此第二ノ場合ヲ別テ二ト爲ス一ハ第五十八條第二項ニ之ヲ規定シ一ハ第五十九條第二項ニ之ヲ規定ス

第五十八條第二項ニハ「罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ」トアリテ這ハ司法警察官及ヒ巡査憲兵卒カ其職務ヲ行フニ當リ右輕罪違警罪ノ現行犯アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ告發ノ義務アリト爲シタルモノナリ畢竟司法警察官ハ犯罪捜査ノ職分アリ巡査憲兵卒ハ司法警察官ニ非サルモ其手足ト爲リ以テ其捜査ノ職ヲ補助ス可キモノナルカ故ニ現行犯アルニ當リ之ヲ默過ス可キニ非ス是レ告發ノ義務ヲ負ハシタル所以ナラン然レトモ非現行犯ニ付テモ此等ノ官吏、公吏ハ其犯罪ヲ默過セスシテ十分之ヲ捜査探偵シ而シテ其結果ヲ巡査憲兵卒ハ司法警察官ニ報告シ司法警察官ハ檢事ニ報告ス可キヤ勿論ナリ然ラハ現行犯ニ付テハ告發ス可ク非現行犯ニ付テハ報告ス可シト云ヘル

カ如キ區別ハ寧ロ之ヲ廢シ一樣ニ出テシムル方立法上其當ヲ得タルモノナラン殊ニ捜査ノ權アル司法警察官ニ告發ノ義務アリトシタルハ事理穩當ナラサルモノトス

法文ニ依レハ總テノ司法警察官ハ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署即チ警察署ニ告發ス可キモノトス然レモ警察署員タル警視警部ニシテ自ラ即決ノ處分ヲ爲ス可キモノヽ如キ自ラ告發シテ自ラ處分ヲ爲スハ穩當ナラサルノミナラス別ニ告發ヲ爲サシムルノ必要アルヲ見ス故ニ法文ニ司法警察官トアルハ違警罪ノ場合ニ付テハ前掲以外ノ司法警察官即チ即決ノ處分ヲ爲スコトヲ得サル者ノミヲ指シタルモノト解釋スルヲ相當ナリトス

又第五十九條第二項ニハ「其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テハ調書ヲ作ル可シ」トアリテ其第一項ニハ「巡査憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ」トアリ左レハ巡査憲兵卒ハ必ス告發ヲ爲ス可シトノ明文ナキニ右第二項ノ告發ニ付テ調書ヲ作ル可シトアルヨリ之ヲ推セハ巡査憲兵卒ハ司法警察官ニ對シテ告發ヲ爲サヽル可カラサルヤ疑ナシ而シテ此告發ハ書面ヲ以テセスシテ必ス口頭ヲ以テス可キコトモ亦自ラ明ナリ

第三ノ場合

(二〇六第三ノ場合ハ常人ニ對シ告訴又ハ告發ヲ爲ス可キコトヲ命シタルモノニシテ第六十一條ニ之ヲ規定ス即チ常人カ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯ニ付キ其被告人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可キモノナルモ若シ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ之ヲ巡査憲兵卒ニ引渡スコトヲ得而シテ巡査憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲サヽル可カラサルモノトス是レ蓋シ其犯罪ノ現行犯ニ係リ適法ニ逮捕シタルモノナルコトヲ疏明セシ

メンカ爲メ特ニ此義務ヲ負ハシメタルモノナリ今此理由ヨリ推セハ被告人ヲ司法警察官ニ引致シタル場合ニ於テモ必ス其逮捕ノ事由ヲ疏明セサル可カラサルヲ以テ亦自然告訴又ハ告發ヲ爲サヽル可カラサルモノトス

以上三箇ノ場合ノ外告訴告發ヲ義務ト爲シタルモノナシ明治十七年第三十二號布告爆發物取締罰則第八條ニ依レハ該罰則ニ記載シタル重罪アルコトヲ認知シナカラ警察官ニ告知セス又ハ害ヲ被ラントスル者ニ告知セサル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ其警察官ニ告知スルコトヲ命シタルハ純然タル告發ヲ命シタルモノニ非サルモ其性質ハ告發ノ義務ヲ負ハシメタルト異ナル所ナシ但害ヲ被ラントスル者ニ告知シタルトキハ別ニ警察官ニ告知セサルモ該條ノ制裁ヲ受ケサルハ勿論ナリトス

賞ヲ懸ケテ告發ヲ募ルコト

(二〇七)茲ニ告訴告發ノ總論ヲ終ルニ臨ミ一言ス可キコトアリ收稅ニ關スル法律中往々告發者ニハ同法律ニ依リ犯人ニ科シタル罰金ノ一分ヲ給與スル旨ヲ規定シタルモノアリ此規定タルヤ單ニ政畧上ヨリ論スレハ右給與ヲ得ルノ目的ヲ以テ犯則事件ヲ告發スル者多ク生シ爲メニ脫稅者ヲ罰スルコトヲ得ルノミナラス間接ニ一般徵稅ノ取締ト爲リ自ラ脫稅ヲ制止シ國庫ノ受ケ若クハ受ク可キ損害ヲ回復シ若クハ豫防スルノ利アリ而シテ告發者ニ賞金ヲ與フルモ是レ其犯則者ヨリ徵收シタル罰金ノ中ヨリ支給スルモノナレハ國庫ハ毫モ損失スル所ナシ故ニ此規定ハ其當ヲ得タルモノヽ如ク見ユ然レトモ賞金ヲ得ンカ爲メニ告發ヲ爲スハ公益ノ爲メニ之ヲ爲スト日ヲ同シフシテ論ス可カラス其告發者ノ心情ノ卑劣ナル實ニ之ニ過クルモノナク其心中德義ヲ存セサル太甚シト謂フ可シ然ルニ國家之ヲ賞與ス國家モ

亦身劣ノ譏ヲ免カレサル可シ若シ夫レ此ノ如キノ告發猶ホ公益ノ爲メニ之ヲ奬勵スルノ必要アリト言ハンカ何カ故ニ公益ニ大關係アル犯罪ニ付テ之ト同一ノ規定ヲ爲サヽル乎古者大罪ヲ犯ス者アルトキハ賞ヲ懸ケテ之ヲ索メタルノ例アリ今ヤ此例ヲ廢シ而シテ區々タル稅法上ノ犯罪ニ限リ此規定ヲ爲ス余ハ其何ノ故ナル乎ヲ解スルコト能ハス速ニ廢止セラレンコトヲ望ムヤ切ナリ

告訴告發ヲ爲スコトヲ得ル者

(二〇八)告訴告發ハ何人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ乎前ニモ屢〻陳ヘタル如ク告訴ハ被害者之ヲ爲シ告發ハ被害者ニ非サル者之ヲ爲スノ別アルノミニシテ此兩者共ニ其之ヲ爲ス人ノ身分等如何ヲ論セサルナリ即チ未成年者禁治産者等ノ無能力者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又外國人ト雖モ之ヲ爲スノ權ヲ有ス第四十九條第五十三條ニ「何人ニ限ラス」云々ト明記シタルハ此意ヲ示シタルモノナリ畢竟犯罪ノ速ニ發覺スルハ公ケノ利益ナルニ因リ何人ニテモ犯罪ヲ認知シタルトキハ早ク其レヲシテ官ニ申告セシメンカ爲メ其人ニ制限ヲ付セサルナリ

告訴ハ被害者之ヲ爲ス可キモノナルモ其無能力ナル場合ニ於テハ自身ニ其權アルコトヲ覺ラサル等ノ爲メ現ニ犯罪ノ爲メ損害ヲ被リナカラ默々ニ付シ去ルコトナシトセス因テ其法律上ノ代理人當然本人ニ代リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ實ニ第五十四條第二項ノ規定スル所ナリ而シテ此場合ニ於テ本人ノ委任ヲ受クルコトヲ要セサルハ言ヲ俟タス

告發ニ付テハ法律上ノ代理人本人ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得ヘシトノ規定ナシ是レ其本人無能力ニシテ自ラ告發ヲ爲サヽル場合ニ於テ其法律上ノ代理人告發ヲ爲サントスルハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス可

シ故ラニ無能力者ノ名義ニ於テ之ヲ爲スノ必要ナケレハナリ

告訴告發ヲ爲スニハ必スシモ自身當該官署ニ出頭シテ之ヲ爲スヲ要セス疾病其他ノ事故アルト否トニ拘ハラス代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ已ニ委任ト云フ上ハ其委任シタルコトヲ證明ス可キハ勿論ナリ尤モ官吏公吏職務上ノ告發ニ付テハ代人ヲ用ユルコトヲ許サス官職ハ私ニ他人ニ委任ス可キモノニ非サレハナリ(第五十四條第一項)

告訴告發ヲ受クル者

(二〇九)告訴告發ヲ受ク可キ者ハ何人ナル乎告訴ニ付テハ第四十九條第一項ニ於テ

何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

ト規定シ告發ニ付テハ第五十三條ニ於テ

何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

ト規定シ孰レモ檢事又ハ司法警察官ニ於テ之ヲ受ク可キモノト爲シタリ是レ檢事ハ公訴ノ提起ヲ擔任スルモノナレハ該官ニ犯罪事件ヲ申告シ以テ其公訴ノ提起ヲ促スハ當然ナリ又司法警察官ハ犯罪ヲ捜査シ其結果ヲ檢事ニ報告ス可キモノナレハ該官ニ犯罪事件ヲ申告スルハ間接ニ公訴ノ提起ヲ促スコトヽ爲ル可キノミナラス該官ノ配置各地ニ普キク申告者ノ爲メニモ遠ク裁判所々在ノ地ニ到ルノ勞ナク公私ノ爲メニ便利ナルヲ以テ該官ニモ告訴告發ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト爲シタルモノナリ

告訴告發ヲ

(二一〇)檢事及ヒ司法警察官ハ各〻土地ニ付テノ管轄ヲ有ス而シテ其管

為ス可キ場所

轄ニ屬セサル事件ニ付テハ何等ノ處分ヲモ爲スコトヲ得サルモノトス横濱ノ犯罪ヲ東京ノ檢事司法警察官ニ告訴スルモ東京ハ其事件ノ裁判管轄ニ非サル上ハ到底東京ニ於テ公訴ノ提起アル可キ謂ハレナク隨テ東京ニ於テ捜査スルモ其效ナシ故ニ犯罪ノ地タル横濱若クハ被告人他ノ地ニ在ルトキハ其地ニ於テモ告訴ヲ爲スコトヲ得セシメ此以外ノ地ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ許サス前掲第四十九條第一項ニ「犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地云々」トアルハ即チ裁判管轄ノ地ヲ指シタルモノト解釋セサル可カラス今此法意ヲ推シテ之ヲ論スレハ法文ニ單ニ檢事トアルモ這ハ是レ管轄裁判所ノ檢事ヲ指シタルモノニシテ裁判管轄ノ地ニ在ル檢事ナル上ハ其階級ノ如何ヲ問ハス總テ之ニ告訴スルコトヲ得ルモノト爲ス可カラス何トナレハ下級裁判所ノ檢事ハ上級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ法律上特例アル場合

ノ外何等ノ處分ヲモ爲ス可キモノニ非サレハナリ

前述ノ如ク告訴ハ管轄裁判所ノ檢事又ハ裁判管轄ノ地ノ司法警察官ニ爲ス可キモノナルモ告發ニ付テハ前掲第五十三條ニ其所在ノ地トアリテ被告人所在ノ地ト記載シアラス而シテ其ノ字ハ前文何人ニ限ラストアルヲ承ケタルモノナレハ告發ハ告訴ト異ナリテ告發人所在ノ地ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解釋セサル可カラス何カ故ニ告訴告發ノ間此ノ如キノ差異アル乎思フニ被害者所在ノ地ハ即チ犯罪ノ地ナルヲ通例トス左レハ犯罪ノ地ニ於テ告訴ヲ爲スコトヲ得ルト定メタル上ハ別ニ被害者所在ノ地ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト定ムルノ必要ナシ之ニ反シ被害者以外ノ者ハ其身犯罪ノ局面ニ當リタル者ニ非サルヲ以テ常ニ必ス犯罪ノ地ニ在ルナラント推定ス可カラス故ニ犯罪ノ地ニ在スト雖モ其現在スル地ニ於テ告發スル

モ可ナリト爲シタルモノナラン然レトモ被害者必ス犯罪ノ地ニ現在スルヲ期シ難ク犯罪ノ地ヲ去リタル後其犯罪ノ爲メニ害ヲ被リタルコトヲ覺知スルコトアル可ク又犯罪ノ地ニ非ラサルモ其犯罪ノ爲メ害ヲ被ルコトアル可シ故ニ告發ニ付キ本人所在ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ許ス上ハ告訴ニ付テモ同ク被害者現在ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ許スヲ相當ナリトス

官吏公吏ノ職務上ノ告發ニ付テハ私ノ告發ト異ナリテ第五十二條ニ「其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ」ト明言シ以テ官吏公吏ハ司法警察官ニ告發セスシテ直チニ檢事ニ告發ス可ク又其告發ハ犯罪ノ地ニ於テ之ヲ爲スニ及ハス其職務ヲ行フ地即チ自己所在ノ地ニ於テノミ之ヲ爲ス可キモノト定メタリ其司法警察官ノ手ヲ經ルヲ要セスト爲シタルモノハ此職務上ノ告發ハ公文往復ノ式ニ依リ爲ス可キモノニシテ私ノ告發ノ如ク告發人自ラ其告發ヲ受ク可キ官吏公吏ノ面前ニ出ルコトヲ要セサルカ故ニ直チニ檢事ニ宛テヽ告發狀ヲ送致セシムルモ敢テ不便ナカル可キヲ以テナリ尤モ法律ノ意ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ禁止シタルニ在ラサルヲ以テ現行犯ノ如キ急速ノ處分ヲ要スル場合ニ於テハ一面ハ式ニ依テ檢事ニ告發シ一面ハ司法警察官ニ通告シテ其處分ヲ求ムルコトヲ妨ケサルナリ又職務ヲ行フ地ト限リタルハ犯罪ノ地他所ナル場合ニ於テ故ラニ其地ノ檢事ニ告發セシムルノ必要ナク其官吏公吏所在ノ地ノ檢事ヲシテ其告發ヲ受ケ之ヲ犯罪ノ地ノ檢事ニ轉送セシムルモ敢テ不都合ナシト認メタルニ由ル

又現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官及ヒ巡査憲兵卒ノ爲ス可キ告發ニ付テハ前掲第五十八條第二項第五十九條第二項ニ特別ノ規定アルヲ

以テ固ヨリ其規定ニ從ハサル可カラス

之ヲ要スルニ告訴告發ヲ爲ス可キ土地ニ付テハ種々ノ區別アリト雖モ其告訴告發ヲ受ク可キ者ハ檢事又ハ司法警察官ノ外ニ出テス而シテ茲ニ檢事ト稱スルハ專ラ第一審裁判所ノ檢事ヲ指シタルヤ疑ナシト雖モ第一審裁判所ノ檢事ヲ除クノ外餘ノ檢事ハ告訴告發ヲ受クルノ權ナシト誤解ス可カラス裁判所構成法第八十三條ニ「檢事總長、檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス」トアリ告訴告發ヲ受クルハ檢事ノ職務ノ一ナルヲ以テ檢事總長等モ亦此職務ヲ自ラ行ヒ告訴告發ヲ受クルコトヲ得ヘキヤ論ヲ俟タス然レトモ檢事總長等カ告訴告發ヲ受クルハ其職權ニ屬シ決シテ其義務ニ屬セス殊ニ其地位ヨリ觀察スルモ平常ハ寧ロ之ヲ受ケサルヲ可トス但檢事司法警察官カ故ナク告訴告

告訴告發ノ法式

發ヲ受ケス又ハ之ヲ受クルモ起訴ノ手續ヲ爲サヽルニ因リ更ニ檢事總長等ニ向テ告訴告發ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ受ケテ相當ノ處分ヲ爲ス可シ即チ其告訴告發ニ係ル事件起訴ス可キモノト認ムルトキハ當該檢事ニ起訴ス可キコトヲ命令シ之ニ反スル場合ニ於テハ告訴人告發人ニ其旨ヲ通告ス可キモノトス

(二一一)告訴告發ノ法式ハ甚タ簡單ニシテ先ツ私ノ告訴ニ付テハ第五十一條ヲ以テ

告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作リ告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

ト規定シ而シテ此規定ハ第五十三條ヲ以テ私ノ告發ニモ之ヲ適用ス

書面上ノ告訴告發

ルコトヽ爲シタリ今此規定ニ依レハ告訴告發ハ本人ノ署名捺印シタル書面即チ告訴狀告發狀ヲ差出シテ之ヲ爲スヲ本則トス蓋シ告訴人告發人ハ其申告スル所ノ事ニ付テハ總テ其責ニ任シ萬一過誤ノ大ナルモノアレバ被告人ニ對シテ賠償ノ義務ヲ負ヒ又時アリテハ刑事上ノ責ニモ任セサル可カラス然ルニ其人ニシテ判明ナラサルニ於テハ他日裁判上其人ヲ訊問スルノ必要生スルモ之ヲ呼出スニ由ナク又被告人ヨリ賠償ヲ要求セントスルモ之ヲ奈何トモスルコト能ハサル可シ殊ニ被害者ノ告訴ヲ要スル犯罪ニ付テハ其告訴ハ公訴權實行ノ基本ト爲ルモノナレハ第一ニ被害者カ告訴ヲ爲シタルコトヲ證明スルヲ必要トス然ルニ之ヲ證明スルモノナク又其告訴ヲ爲シタル者果シテ被害者ナリヤ否ヤ知ル可カラサルニ於テハ啻ニ公訴ヲ起スモ其效ナキノミナラス或ハ事ヲ好ム者詐テ被害者ナリト稱シテ告訴ヲ爲シ

口述上ノ告訴告發

以テ人ノ名譽ヲ毀損セントスルコトヲ謀ル等ノ事ナシトセス是レ告訴人告發人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ爲ス可シト定メタル所以ナリ

法文ニ依レハ告訴狀告發狀ニハ本人ノ署名捺印アルヲ以テ足ル其住所職業身分ノ如キハ之ヲ記載スルコトヲ要セサルカ如シ然レトモ世上往々同氏名ノ者アリ又同氏名ノ者ナシトスルモ本人ノ住所等不分明ナランカ他日喚問等ノ必要アルニ當リ搜索ノ手數ヲ煩ハス可シ故ニ本人ノ誰タルコトヲ確ム可キ事柄ハ記載セシムルヲ相當トス

告訴告發ニ書面ヲ用ユルハ最モ確實ナル方法ニシテ且ツ官ノ手數ヲ煩ハスコトナキヲ以テ法律ハ此方法ヲ本則ト定メタルモ通常人民ノ中ニハ文字ヲ書スルコト能ハサル者アル可ク又文字ヲ知ルモ書面ヲ作ルノ勞ヲ厭フ者モアル可シ然ルニ必ス書面ヲ用ユ可シトスルトキハ是等ノ者ハ遂ニ告訴告發ヲ爲サスシテ已ム可シ因テ變則トシテ口

述ヲ以テ告訴告發ヲ爲スコトヲ許シタリ而シテ此場合ニ於テハ官吏其聽取シタル所ヲ調書ニ記載シ之ヲ讀聞カセタル上本人相違ナシト申立レハ之ニ署名捺印セシム若シ署名又ハ捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

告訴人告發人ハ書面ヲ以テスル場合ト口述ヲ以テスル場合トニ論ナク成ル可ク其證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立テサル可カラス是レ第五十條第五十三條ノ命スル所ナリ畢竟犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタリ又ハ犯罪アルコトヲ認知思料シタリト申立ツルノミニテハ犯罪ノ捜査ノ便ト爲ルコト大ナラス故ニ此規定アリ但法律ハ「成ル可ク」ト云ヒテ「必ス」ト云ハス是レ此申立ヲ告訴告發ノ要件ト爲ストキハ爲メニ犯罪發覺ノ道ヲ塞クニ至ルノ恐アレハナリ

公ノ告發ニ付テハ第五十二條第二項ヲ以テ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シト規定シ私ノ告發ニ於ケルカ如ク口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許サス是レ此告發ハ其性質上公文ノ式ヲ以テ爲ス可キモノナルノミナラス官吏公吏ニシテ目ニ一丁字ナキ者アル可キ理ナク又書面ヲ作ルノ勞ヲ厭フ可キ謂ハレナケレハナリ又證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物申立ツルニ止マラスシテ之ヲ添フ可シト定メタルハ通常人民ノ如ク此規定アルカ爲メニ告發セスシテ已ムノ恐アルコトナケレハナリ但法律ハ同シク「成ル可ク云々」ト命スルニ止マルヲ以テ或ハ職務上ニ差支アルカ爲メ或ハ其事物ヲ隨意ニ處分スルノ權ナキ等ノ爲メ告發狀ニ添フルコト能ハサル場合ニ於テハ其旨ヲ申立ツルヲ以テ足レリトス

告訴告發ハ必ス受理スヘキ乎

(二一二)前述ノ法式ヲ履ミ告訴告發ヲ爲ストキハ縱令其申告ニ係ル事實犯罪ト爲ラスト思料シ又ハ其事實ノ有無ニ付キ疑アルモ必ス之ヲ受理セサル可カラサル乎此第一ノ場合ニ於テハ其告訴告發ヲ棄却シテ妨ナシ否之ヲ棄却スルヲ相當トス何トナレハ告訴告發ハ元來犯罪ヲ申告スルモノナレハ其申告ニ係ル事實犯罪ヲ構成セサルコト顯然タルニ於テハ名ハ告訴告發ト稱スルモ事實告訴告發ニ非サレハナリ例ヘハ貸金辨濟ヲ怠リ其期限ヲ徒過シタルハ即チ詐欺財取ナリト稱シテ告訴ヲ爲スカ如キモノ是ナリ之ニ反シ實際之アル可カラスト見ユルモ其申告ニ係ル事實十分犯罪ヲ構成スルモノナルトキハ之ヲ棄却スルコトヲ得ス例ヘハ曾參人ヲ殺シタリト申告スルカ如キ曾參タル者決シテ此ノ如キ所爲ヲ行フ者ニ非スト信スルモ兎ニ角殺人ハ一ノ犯罪タルヲ以テ必ス其申告ヲ受ケサル可ラカス殊ニ司法警察官ニ

告訴告發ノ取下及ヒ變更

在リテハ其身告訴告發ヲ取捨スルノ權利ナキヲ以テ必ス之ヲ受ケテ檢事ニ送致セサル可カラス但第四十九條第二項ニ明言スル如ク違警罪ニ付テハ法律ニ從ヒ即決ノ處分ヲ爲シ又此處分ヲ爲スノ權ナキニ於テハ其權ヲ有スル警察署ニ之ヲ送致ス可キモノトス

(二一三)第五十五條ニ依レハ「告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得云々」トアリ故ニ其事件ノ落着セサル限ハ何時ニテモ之ヲ取下ケ又ハ前ニ申立タル所ヲ變更スルハ告訴人告發人ノ隨意ナリトス而シテ此取下及ヒ申立ノ變更ニ付テハ法律ハ何等ノ法式ヲモ規定セスト雖モ告訴告發ヲ爲スニ付テノ法式ヲ準用セシムルノ意ナリト解釋スルヲ允當トス即チ本人自ラ爲スト代人ヲ以テ爲スト又書面ヲ以テ爲スト口述ヲ以テ爲スト孰レモ其選フ所ニ任ス可シ且ツ若シ其事件已ニ公判ニ付セラレタル場合ノ如キハ現ニ其事件ノ繫屬ス

ル裁判所ニ向テ其申立ヲ爲サシムルヲ便宜ナリトスルモ法律ハ之ヲ強フルコトナキヲ以テ最初告發告訴ヲ受ケタル司法警察官又ハ檢事ニ向テ其申立ヲ爲ストキハ該官吏ニ於テ之ヲ受ケ而シテ事件ノ聚屬スル裁判所ニ之ヲ移送ス可シ是レ手續上然ラサルヲ得サル所ナリトス

現行犯

現行犯非現行犯ノ區別アル理由

第二節　現行犯

(三一四)法律上現行犯非現行犯ヲ區別シタルハ一ニ實際處分上ノ爲メニシタルモノナリ今吾人ノ面前ニ於テ罪ヲ犯ス者アリトセハ吾人ハ之ニ付テ如何ナル感ヲ爲ス乎必ス急速ニ其處分ヲ要スルモノト思考セン之ニ反シ既往ノ犯罪ヲ發見シタル場合ニ於テハ必シモ急速ノ處分ヲ要セサルモノト思考スルモノナラン法律ハ此普通ノ感情ニ從ヒ此區別ヲ立テタルニ外ナラス且ツ夫レ現行犯ニ付テハ犯人ノ誰タルコト分明ナル場合多キニ居ル左レハ此場合ニ於テハ直チニ其被告人ヲ逮捕スルコトヲ許スモ爲メニ無辜ヲ苦シムルノ弊ヲ生スルコトナカル可ク却テ即時之ヲ逮捕セサレハ忽チ其踪跡ヲ失シ後日之ヲ搜索スルニ困難ヲ見ル可キヤ必然ナリ又犯罪ノ證據タル可キ事物ノ眼前ニ横ハルニ拘ハス之レヲ集取スルコトヲ爲サス空シク其湮滅ニ委セシカ遂ニ其證據ノ不十分ナル爲メ公訴ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルノ恐アリ又現ニ犯罪アリ人民ノ之ヲ見聞スル者爲メニ畏懼ノ念ヲ懷キ恂々トシテ安ンスル所ナシ然ルニ官ニ於テ急速手ヲ下サハルトキハ公安舊ニ復セス一地方ノ靜謐ニ害ナシトセス加之官ノ處分ナキニ因テ或ハ私ノ報復ヲ圖ル等國家ノ秩序ヲ壞ルノ基ト爲ルコトナキヲ保タス此ノ如ク犯人ノ誰タルコト分明ナルト罪跡現然タルト人民安堵セサルトハ現行犯ノ場合ニ見ル所ニシテ非現行犯ノ場合

ハ之ニ反シ犯人ノ誰タルコト知リ難ク罪證モ諸方ニ散逸シテ判然タラス且ツ人民カ官ノ處分ヲ望ムコト甚タ切ナラス然ルニ尚ホ法式ヲ履マスシテ人ノ身體ヲ拘束シ人ノ家宅ヲ捜索シ人ノ財産ヲ差押フル等ノ處分ヲ爲スコトヲ許サンカ公益ヲ保護セント欲シテ却テ之ヲ害スルニ至ラン是ヲ以テ法律ハ現行犯ノ場合ニ限リ法式ニ依ラスシテ急速ノ處分ヲ爲スコトヲ許シ非現行犯ノ場合ニ付テハ鄭重ナル法式ニ依ルニ非サレハ人ノ權利ニ對スル處分ヲ爲スコトヲ得セシメス要スルニ現行犯ハ法律上特別ノ處分ヲ爲スコトヲ許スニ付テノ制限ナリトス其特別ノ處分トハ左ノ如シ

第一、判事ノ令狀ナク又常人ト雖モ或ル被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

第二、檢事ハ總テノ令狀ヲ司法警察官ハ勾留狀以外ノ令狀ヲ發スルコトヲ得

現行犯ノ制限

第三、檢事及ヒ司法警察官ハ共ニ公力ヲ以テ人ノ家宅ヲ捜索シ財産ヲ差押ヘ其他被告人證人ヲ訊問スル等豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四、檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事直チニ豫審ニ着手スルコトヲ得

(二一五)右ノ如ク現行犯ニ付テハ特別ノ處分法アリ左レハ現行犯ノ區域ハ極メテ之ヲ制限シ容易ニ之ヲ超ユルコトナカラシムルコトヲ要ス是レ第五十六條第五十七條ノ規定アル所以ナリ

第五十六條ニ曰ク

現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

其現ニ行フノ際發覺シタル罪ノ現行犯ナルコトハ何人モ爭ハサル所ニシテ殆ト法律ノ明文ヲ要セス其現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル

モノハ已ニ幾分カ過去ニ屬スルヲ以テ純理上之ヲ現行犯ト稱スルコトヲ得サルモ其處分ノ急速ヲ要スル點ニ至リテハ現ニ行フノ際發覺シタルモノト異ナルコトナシ例ヘハ盜アリ現ニ財物ヲ盜取スルヲ目擊シタルト其已ニ財物ヲ盜取シ其場ヲ立去ラントスルヲ目擊シタルト之カ發見ノ遲速ニ因リ吾人ハ其處分ヲ異ニス可シトノ感想ヲ懷カス反テ共ニ速ニ其犯人ヲ逐捕ス可シト思考ス可シ是レ犯罪決行ノ時ハ幾分カ過去ニ屬スルモ猶ホ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノナル上ハ之ヲ現行犯ト爲シ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得セシムル所以ナリ

現ニ行ヒ終リタル際ノ意義

現ニ行ヒ終リタル際トハ犯罪決行ノ時ヲ隔ルコト幾何時間內ニ在ルヲ意ナル乎法律ハ其區域ヲ明定セス是レ何分何十分若クハ何時間ト豫定スルコト能ハサルニ由ル蓋シ犯罪ノ性質方法等ニ依リ其痕跡ノ早ク消滅スルモノト否ラサルモノトアリテ一概ニ時間ヲ以テ其區域ヲ劃スルコトヲ得ス又犯所ノ如何ニ依リ其犯罪後數時間ヲ經過スルモ仍ホ現行犯トシテ處分スルコトヲ許サヽル可カラサル場合ナシトセス例ヘハ甲者アリ山中ニ於テ乙者ヲ殺シタルニ丙者傍ヲ過キテ之ヲ目擊シ直チニ走リテ警察署ニ告發ス然ルニ警察署ハ遠隔ノ地ニ在ルカ爲メ丙者カ告發シタル時即チ該犯罪ノ警察官ニ發覺シタル時ハ其犯罪決行ノ時ヨリ計算スレハ已ニ七八時間ヲ經過シタリ此場合ノ如キ仍ホ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノト爲サヽル可カラス若シ之ヲ現行犯ニ非ストセハ事態急速ノ處分ヲ要スルニ拘ハラス警察官ハ捜査處分ヲ爲スノ外袖手傍觀シ其犯人ノ未タ其犯所タル山中ヲ立去ラサルコトヲ察知シナカラ之カ逮捕ニ着手スルコト能ハサルニ至ラン是レ豈ニ法律ノ望ム所ナランヤ要スルニ犯罪決行ノ後空シ

ク數日ヲ經過シタル場合ノ如キハ格別未タ多クノ時間ヲモ經ス且ツ罪跡灼然トシテ現存シ實際急速ノ處分ヲ要スル情況アル場合ハ總テ現行犯トシテ處分スルコトヲ妨ケサルモノト思考ス

准現行犯

(二一六)現行犯ノ外重罪輕罪ニ付テハ准現行犯ナルモノアリテ現行犯ニ於ケルト同シク特別ノ處分ヲ爲スコトヲ許ス第五十七條ハ其場合ヲ規定シテ曰ク

重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

第一　犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルヽトキ

第二　兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三　家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

是等ノ場合ハ固ヨリ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ其罪發覺シタルニ非スト雖モ犯罪アリタルコトヲ確認スルニ足ル可キ形跡アルノミナラス多クハ其目前ニ在ル所ノ者カ犯人ナルコトヲ推認スルコトヲ得ヘク從テ急速ノ處分ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ之ヲ現行犯ニ准シタルモノナリ但違警罪ニ付テハ特ニ急速ノ處分ヲ爲スノ必要ヲ見サルヲ以テ此罪ニ付テハ准現行犯ナシトス

准現行犯第一ノ場合

(二一七)准現行犯第一ノ場合ヲ分析スレハ一方ニ逃走スル者アリ一方ニ追跡スル者アリ而シテ其追跡者ニ於テ逃走者ヲ指シテ重罪輕罪ノ犯人ナリト呼ハル事ノ三條件具備スルコトヲ要ス若シ其一ヲ欠ケハ准現行犯ト爲スコトヲ得ス蓋シ此三條件具備センカ故ナク他人ヲ指シテ犯人ナリト呼ハル可キ謂ハレナク又犯人ナリト呼ハルヽ者惡事

ナキニ畏怖逃遁ス可キ謂ハレナキヲ以テ其者ハ多分犯人ナラント推定スルコトヲ得ヘシ然レトモ若シ犯人ナリト呼ハルヽ者ニシテ畏怖逃遁スルコトナク犯人ナリト呼ハルヽ者ニ對シ抗爭スル等ノ事アランカ其者ノ犯人ナルコトヲ推定スルニ足ラス是レ此三條件ノ具備スルコトヲ要スル所以ナリ佛國法ハ衆人ノ喧傳ヲ以テ准現行犯ノ一トシ爲セリ然レトモ所謂ル衆人ノ喧傳ナルモノ其區域明確ナラス從テ世間ノ風聞ニ由テモ亦特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルノ恐アリ故ニ我法律ハ此ノ如キ漠然タル規定ニ依ラスシテ右ノ如ク制限明確ナル規定ヲ爲シタリ

第二ノ場合

(三一八)第二ノ場合ニ於テハ兇器等ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ犯罪ノ痕跡アル等有形ノ事ト其者ノ犯人ト思料ス可キ無形ノ事トノ二條件具備スルコトヲ要ス假令暗夜刀劍ヲ携帶スルモ護身ノ爲メナルヤモ知ル可カラス又身體被服ニ血痕ヲ留ムルモ必シモ人ヲ殺傷シタル爲メナリト推定ス可カラス唯此有形ノ事ノ外其者ノ擧動疑ハシク巡査ヲ見テ逃遁スル等ノ事アリ始メテ其犯人ナルコトヲ思料スルニ足ル是レ此二條件具備スルニ於テ准現行犯ト爲シタル所以ナリ佛國法モ亦兇器等ヲ携帶スル場合ヲ以テ准現行犯ノ一ト爲シタルモ其事ノ犯罪ヲ隔ル些少ノ時間内ニ在ルコトヲ要セリ蓋シ彼ノ立法者ノ意タル犯罪ヲ隔ルコト已ニ遠ク數日若クハ數月ノ後ニ至レハ兇器贓物等復タ犯人ノ手ニ存在セス輾轉シテ良民ノ手ニ移ルコトナシトセス然ルニ之ヲ携帶スルノ故ヲ以テ現行犯ニ准シ處分スルコトヲ許スニ於テハ良民モ亦一時ノ嫌疑ノ爲メ嚴格ナル處分ヲ受クルコトアラシ此不都合ヲ避ケンカ爲メ時間ノ制限ヲ加ヘタルモノナラン然レトモ已ニ犯罪アルコトヲ認知シ其犯人ヲ捜査スルニ當リ兇器贓物等ヲ携帶スル

者ヲ發見スル場合ハ格別其未タ犯罪アルコトヲ認知セスシテ偶然是等ノ物件ヲ携帶スル者ヲ犯見シ因テ其者ノ必然犯人ナランコトヲ推知スル場合ニ於テハ其犯罪ノ日時ヲ確ムルコトヲ得サルハ勿論ナリ若シ此場合ニ於テ先ツ犯罪ノ日時ヲ確メ次ニ其日時ヲ隔ルノ時間ヲ算定シ而シテ後逮捕等ノ處分ニ着手スルト否トヲ定メサル可カラストセハ徒ニ時機ヲ失シ目前ニ在ル犯人ヲシテ容易ニ逃走スルコトヲ得セシムルニ至ラン故ニ佛國法ノ如ク些少ノ時間ヲ隔ルトノ條件ヲ付スルハ實際ニ適スルモノト謂フ可カラス故ニ我法律ハ時間ニ付テ毫モ制限ヲ加ヘサルナリ

第三ノ場合

(三一九第三ノ場合ニ於テハ家宅内ノ犯罪ナル事其犯罪ニ付キ檢證又ハ逮捕ノ請求アル事其請求ニ係ル處分ハ家宅内ニ於テ爲ス可キ事其請求者ハ戸主又ハ戸主ニ代ル可キ者ナル事トノ四條件具備スルコトヲ要ス抑此場合ヲ以テ現行犯ニ准シタルハ前述二箇ノ場合ノ如ク專ラ公安ノ爲メニ急速ノ處分ヲ要ストノ理由ニノミ基クモノニ非ス主トシテ一家内ノ安全ヲ保護シ其居住者ヲシテ安堵スルコトヲ得セシメントノ旨趣ニ出テタルモノナリ故ニ家宅内ノ犯罪ニ付キ家宅内ニ於テ檢證又ハ逮捕ノ處分ヲ爲ス可キ場合ナルコトヲ必要トス若シ夫レ家宅外ノ犯罪ナランニハ毫モ一家ノ安全ニ直接ノ關係ナク又家宅内ノ犯罪ナルニモセヨ家宅外ニ於テ爲ス可キ處分ニ付テハ是レ亦一家ノ安全ニ何等ノ關係ナシ若シ此終ノ場合ヲモ現行犯ニ准センカ家宅内ニ於ケル總テノ犯罪ハ皆准現行犯トシテ處分スルコトヽ爲リ現行犯非現行犯ノ區別ハ殆ト無效ニ歸ス可シ是レ此三條件ノ具備ヲ要シタル所以ナリ其第四ノ條件ヲ要シタルハ家宅ハ人ノ城廓ナレハ其主人若クハ主人ニ代ル可キ者ノ請求ナキ上ハ擅ニ侵入スルコトヲ許

告訴告發現

ス可カラス而シテ是等ノ者ノ請求ナキトキハ一家ノ安全未タ妨害セラレサルモノト看做スヲ相當トス是レ請求アリテ始メテ現行犯ニ准シ處分スルコトヲ許シタル所以ナリ

右四條件ヲ具備スル場合ト雖モ必シモ常ニ現行犯ニ准スルコトヲ得ス例ヘハ數日若クハ數月前家宅内ニ於テ一ノ犯罪アリ戸主以下之ヲ覺知スト雖モ當時官ニ向テ何等ノ處分ヲモ請求セス徒ニ時日ヲ經過シタル後偶〻犯人カ其家ニ來リタルニ方リ始メテ之カ逮捕ヲ請求スル場合ノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ表面上法律規定ノ條件ヲ具備スルカ如キモ一家ノ安全已ニ常ニ復シ毫モ現在ノ妨害ナキヲ以テ之ヲ准現行犯ト爲スコトヲ得ス此法律ノ規定ハ一家内ノ危急切迫ヲ除去シ安全ニ復セシムルヲ目的トスルモノニ外ナラサレハナリ

(二三〇)犯罪ノ發覺ハ前述ノ告訴告發及ヒ現行犯准現行犯ニ因ルモノ

行犯以外ノ犯罪發覺ノ原由

捜査處分

多キニ居ル可キモ亦他ニ之ヲ發見スルノ原因ト爲ル可キモノ種々アル可シ或ハ閭巷ノ風聞或ハ新聞紙ノ報道或ハ犯罪物體ノ發見或ハ犯人ノ自首ノ如キ皆犯罪發覺ノ端緒ト爲ル可シ但是等ノ事項ニ付テハ法律上豫メ特殊ノ手續等ヲ規定スルノ必要ナシトシ立法者ハ別ニ何等ノ規定ヲモ爲サス第四十六條ヲ以テ單ニ告訴告發現行犯其他ノ原由云々ト言ヒ以テ告訴告發現行犯ノ外尚ホ他ニ犯罪發覺ノ原由アルコトヲ示シタルニ止マルノミ

然レトモ犯人ナリト自首シタル場合ノ如キハ其者ノ犯人タルコト殆ト疑フ可カラサルヲ以テ令狀ヲ用ヰスシテ其身體ヲ拘束スルノ一事ハ法律上之ヲ聽許スルヲ相當トス本法此規定ヲ爲サヽルハ一ノ闕典ナリト謂フ可シ

第三節　捜査處分

捜査上爲スコトヲ得ヘキ處分

(三二一)捜査ニ付テハ如何ナル處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ乎法律ハ「犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證憑及ヒ犯人ヲ捜査ス可シ」(第四十六條)ト云ヒ又ハ「犯罪ヲ捜査スルニ付キ云々、犯罪ヲ捜査ス可シ」(第四十七條)ト云フニ止マリ其處分手續ニ付テハ何等ノ規定ヲモ爲サス是レ犯罪ノ證憑ト爲ル可キ事物ハ如何又其事物ハ何處ニ存在スル乎犯人ト認ム可キ者ハ何人ニシテ何處ニ現在スル乎等ヲ探知スルハ檢事及ヒ司法警察官ノ識能ト勉勵トニ一任ス可キモノニシテ豫メ法律ヲ以テ其方法手段ヲ示定スルコト能ハサルニ由ル且ツ前ニモ曾テ陳述シタル如ク捜査ハ豫審ト同シク下調ノ處分ニ屬スルモ豫審ニ於ケルカ如ク公力ヲ用ヰテ強テ處分ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ從テ此捜査ノ處分ニ付テハ弊害ヲ防制スルニ必要ナル法式制限ヲ設ク可キノ間ハレナシ是レ法律カ何等ノ規定ヲモ爲サヽル所以

身體ニ對スル處分

ナリ

公力ヲ用ヰサル上ハ何等ノ處分モ總テ捜査上之ヲ爲スコトヲ得ヘキ乎此點ニ付テハ區別ヲ爲サヽル可カラス

第一、人ノ身體ニ對スル處分ニシテ強制ニ渉ルモノハ決シテ之ヲ爲スコトヲ得サルハ言ヲ俟タス假令強制ニ渉ラス本人ノ承諾アルモ事實監禁ト認ム可キモノハ亦決シテ之ヲ許スコトヲ得ス若シ逃捕監禁ヲ爲サシカ刑法上ノ責罰ヲ受クルコトヲ免カレサル可シ

然レトモ人ノ身體ヲ拘束スルニ非サル上ハ其人ノ檢事局又ハ警察署等ニ隨意出頭センコトヲ求ムルハ妨ナシ而シテ其人出頭セハ犯罪事件ニ付キ其知ル所ヲ尋問スルモ亦之ヲ不法ノ處置ト謂フ可カラス是レ其人ノ所在ニ就キ尋問スルト異ナラサレハナリ然レトモ捜査上參考ノ爲メ其人ノ陳述ヲ聽取スルノミニ止マラス其陳述ヲ他日ノ證憑

ト爲サンカ爲メ其陳述ヲ錄取シ其人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルカ如キハ證憑ノ捜査ニ非スシテ證憑ノ集取タリ乃チ宜ニ豫審判事ノ職權ヲ侵スノミナラス其人ヲ被告人又ハ證人鑑定人トシテ審問スルモノナレハ之ヲ違法ノ太甚シキモノト謂ハサル可カラス大審院カ檢事又ハ司法警察官ニ於テ非現行犯ナルニ拘ハラス被告人又ハ證人等ヲ訊問シ因テ作リタル所ノ調書又不法ニ成立シタル無効ノ調書ニシテ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得スト判決シタルハ其當ヲ得タルモノナリト確信ス

家宅ニ對スル處分

第二、人ノ家宅ニ對スル處分即チ侵入捜索ニ付テハ其主人若クハ主人ニ代ル可キ者ノ許諾アルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ其許諾ナキトキハ晝間ト雖モ又何人ノ立會アリト雖モ決シテ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス是レ其家宅ニ侵入捜索セラレサルノ權利ヲ侵害スレハナリ

所有物ニ對スル處分

第三、人ノ所有物ニ對シテハ其人ノ承諾アレハ捜査上ノ便宜ノ爲メ一時之ヲ借入ルヽモ妨ナシ然レトモ强制的ノ處分即チ差押ハ決シテ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス是レ亦其所有權ノ施行ヲ侵害スルニ至レハナリ

犯罪ノ場所ニ遺留シアル物品ニシテ其所有主ノ知レサレモノ又ハ逃亡犯人ノ所有物ナラント思料セラル可キモノニシテ之カ還付ヲ請求スル者ナキトキハ一時之ヲ官ニ領置スルモ亦可ナリ殊ニ犯罪ノ證憑ト爲ル可キモノハ之ヲ保存スルヲ必要トス

死屍ノ解剖墳墓ノ發掘

第四、人ノ死屍ヲ解剖シ墳墓ヲ發掘スル等ハ其性質上如何ナル場合ニ於テモ捜査處分トシテ之ヲ行フコトヲ得ス此他犯罪ニ關係アル物件ノ分析ノ如キモ其物質ヲ變更シ復タ原狀ヲ存セサルニ至ルヲ以テ必

捜査後ノ手續

要已ムコトヲ得サル場合又ハ其物件ノ腐敗シ到底正式豫審ノ始マルヲ待ツニ遑アラサル場合ノ外ハ之ヲ行ハサルヲ適當ナリトス

之ヲ要スルニ人ノ權利ニ關スル處分ハ之ヲ行フコトヲ得サルヲ本則トシ唯其人自ラ權利ヲ抛棄シ得ヘキ場合ニシテ眞ニ其人ノ承諾ヲ得且ツ裁判官ノ職權ヲ侵犯スルニ非サル上ハ變則トシテ處分ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス

現行犯ノ場合ニ於ケル特別ノ處分

司法警察官一應捜査ノ處分ヲ爲シ終ハリタルトキハ其結果ヲ管轄檢事ニ報告ス可ク區裁判所檢事捜査ノ上其事件地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ同裁判所ノ檢事ニ其事件ヲ送致ス可シ管轄檢事ハ捜査ノ結果如何ニ依リ公訴ヲ提起スルト否トヲ決ス可キナリ

(二二二)以上說示シタル所ハ通常ノ場合ニ於ケル捜査處分ニ關スルモノニシテ非常ノ場合即チ現行犯(准現行犯同シ)ノ場合ニ付テハ被告人逮捕ノ一事ニ付キ法律ハ特別ノ規定ヲ爲シタリ第五十八條ニ曰ク

司法警察官及ヒ巡査憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名(所)住分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

此被告人ノ逮捕ハ豫審處分ニ非ス又純然タル捜査ノ處分ニ非スト雖モ其性質ハ寧ロ彼ニ屬セスシテ此ニ屬スルモノト謂フヲ得ヘシ是レ本章ニ於テ之カ規定ヲ爲シタル所以ナル可シ

偖右ノ法文ニ依レハ被告人ノ逮捕ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪ニ限リ

逃亡ノ恐アル者ハ何故之ヲ引致スル乎

罰金以下ノ刑ニ該ル可キモノニ付テハ決シテ之ヲ許スコトナシ蓋シ輕微ナル事件ニ付テハ其被告人ノ自由ヲ拘束スルノ必要ナキヲ以テ法律ハ之カ未決勾留ヲ爲スコトヲ許サス縱令其犯罪現行ニ係ルト雖モ亦此一事ヲ以テ自由拘束ノ必要アリト謂フ可カラス是レ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ單ニ告發ヲ命シタルニ過キサル所以ナリ但其被告人ノ誰タルコトハ即時ニ之ヲ確メ置クノ必要アルヲ以テ氏名住所ヲ問ヒ置ク可ク若シ其分明ナラサルトキハ之ヲ確ムル爲メ一時檢事等ニ引致スルコトヲ許シタリ

(二二三)法文ニハ逃亡ノ恐アル者ハ云々トアリ故ニ氏名住所分明ナルモ逃亡シテ其身ヲ匿サントスルノ嫌疑アル者ハ之ヲ引致スルコトヲ得ルヤ勿論ナル可シ然レトモ一旦之ヲ引致シタリトテ檢事及ヒ警察官ハ引續キ其被告人ヲ留置スルコトヲ得ス左レハ其引致ハ何等ノ效用モナク引致シテ直チニ放免スルコトヽ爲リ畢竟無益ノ手續ヲ爲スニ了ランノミ故ニ余ハ此法文ヲ解シテ逃亡ノ恐アル者トハ急速ニ訊問ヲ爲スコトヲ要スル者ノ意ナリトス是レ聊カ牽强附會ノ嫌ナキニ非スト雖モ亦此解釋ノ基ク所ナクンハアラス第百四十四條第百四十六條ニ依レハ罰金ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テモ急速ヲ要スルトキハ檢事ニ於テ豫審處分ヲ爲スコトヲ得即チ被告人ヲ勾留スルコトヲ得サルモ之ヲ訊問スルハ妨ナシ左レハ急速ニ訊問ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ其訊問ノ爲メ被告人ヲ一旦檢事ニ引致セシムルモ決シテ不當ノ處置ニ非サル可シ又違警罪ニ付テ即決ヲ爲サントスルニハ通常被告人ヲ訊問スル等ノ事ナシト雖モ現行犯ノ場合ニ於テハ引致ノ上一應之ヲ尋問シ而シテ即決ノ言渡ヲ爲スヲ必要トスルコトアランヿ是レ余カ此解釋ヲ取ル所以ナリ

當人ニ逮捕ノ權アリ

(二二四)第六十條ニ依レハ何人ト雖モ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ノ現行犯ニ付テハ直チニ其被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ヘシ此逮捕ハ固ヨリ捜査ノ處分ニ屬セサルモ「現行犯ニ付テハ常人モ司法警察官ト爲ル」トノ法諺ニシテ信ナランニハ是レ亦一種ノ捜査處分ナリト謂フヘシ然リ而シテ常人カ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ之ヲ司法警察官ニ引致シ又ハ巡査憲兵卒ニ引渡ス等ノ手續ハ第六十一條ニ明定シアリテ此點ニ付テハ別ニ説明ヲ要スルモノナキヲ以テ之ヲ畧ス

起訴

起訴ノ手續

第二章　起訴

(二二五)犯罪アリト思料シテ捜査ノ處分ヲ遂ケタルモ終ニ犯罪タル可キ事蹟ヲ發見セス又ハ或ル事蹟ヲ發見シタルモ法律上犯罪ト爲ラス若クハ犯罪ト爲ルモ公訴權已ニ消滅シタル等ノ原由ニ依リ公訴成立ス可カラサルモノナルトキハ檢事ニ於テ起訴ス可カラサルハ勿論ナリトス之ニ反シ犯罪タル可キ事實存在シ且ツ其犯人タル可シト思料スル者現在スルニ於テハ起訴ノ手續ヲ爲サヽル可カラス但公益上却テ起訴スルヲ不利ナリト認ムルトキハ檢事ハ自己ノ責任ヲ以テ起訴セサルコトヲ得ヘシ

起訴ノ手續ハ別テ二ト爲ス豫審ヲ求ムルト公判ニ付スルトト是ナリ第六十二條ニ依レハ重罪ト思料シタル事件ニ付テハ必ス豫審ヲ求メサル可カラス是レ其事體重大ナルカ故ニ審理ノ鄭重ヲ要スルニ由ル輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ公判ニ付スルコトヲ得而シテ此二者其一ヲ擇フハ檢事ノ意見ニ在リテ他ヨリ之ニ容喙スルコトヲ得ス即チ輕微ニシテ事情簡易ナルモ檢事ニシテ豫審ヲ求メタル上ハ豫審判事其豫審ヲ拒ムコトヲ得ス重大ニシテ事情繁雜ナルモ檢事ニシテ公判ニ付シタル上ハ公判判

事ハ其公判ヲ爲サヽル可カラス畢竟輕罪中ニハ重罪ノ輕キモノト相似タルモノアリテ鄭重ナル審理ヲ必要トスル場合アリ又輕易ニシテ違警罪ト相擇フ所ナク隨テ簡便ナ手續ニ止ム可キモノアリ而シテ其孰レノ方法ニ從フ可キヤ換言スレハ其事件ノ輕重難易如何ハ審理ヲ盡シタル上ニ非サレハ之ヲ確知スルコト能ハサルモ概シテ捜査ノ末之ヲ豫知スルコト難カラス是レ豫審ヲ求ムルト否トヲ檢事ノ意見ニ一任シタル所以ナリ

輕罪ノ中其刑極メテ輕キヲ以テ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノアリ此種ノ輕罪ハ裁判管轄上違警罪ト異ナラス左レハ其治罪手續ニ於テルモ之ヲ違警罪ト異ニス可キノ理由ナク又必要モナシ故ニ法律ハ此種ノ輕罪及ヒ違警罪ニ付テハ豫審ヲ求ムルコトナク直チニ公判ニ付ス可キモノト爲セリ即チ區裁判所檢事是等ノ事件ヲ捜査シ終リタルトキハ直チニ其裁判所ニ起訴ス可ク若シ地方裁判所檢事ニ於テ之カ捜査ヲ爲シタルトキハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致シ起訴ノ手續ヲ爲サシム可キモノトス

豫審ヲ求ムル手續

(二二六)地方裁判所檢事豫審ヲ求ムルニ付テハ第六十六條ニ「證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且ツ臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ」トアルモ臨檢ス可キ場所又訊問ス可キ證人ナキトキハ之ヲ指示スルニ由ナシ左リトテ其指示不能ノ故ヲ以テ豫審ヲ求ムルコトヲ許サヽルノ理ナシ要スルニ法律ハ檢事ノ知リ得タル一切ノ事柄ヲ申立ツ可キコトヲ命スルニ止マリ必スシモ是等ノ事柄ヲ以テ豫審請求ノ要件ト爲シタルモノニ非サルナリ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事直チニ事件ヲ公判ニ付スルニ付テハ法律上其手續ヲ特定シタルモノナシ然レトモ第二百十二條第二百

公判ニ付スル手續

三十五條ニ區裁判所及ヒ地方裁判所カ檢事ノ起訴ニ因リ公訴ヲ受理スル旨ノ規定アリテ而シテ第二百十三條ニ「檢事ハ……被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ」トアリ此呼出狀ヲ發スルノ請求ハ即チ公判ニ付スルノ手續ナリトス

地方裁判所檢事タルト區裁判所檢事タルトヲ問ハス其捜査シタル事件ニシテ其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ其裁判所ニ起訴ス可キモノニ非サルヤ勿論ナルヲ以テ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

處分ヲ被害者ニ通知スルコト

(二二七)檢事ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲シタルトキハ勿論起訴セサルコトニ決シタルトキ及ヒ他ノ檢事ニ事件ヲ送致シタルトキト雖モ其事件ニ付キ告訴人アルトキハ檢事ヨリ其如何ナル處分ヲ爲シタル乎ヲ告訴人ニ通知セサル可カラス是レ告訴人ハ檢事カ起訴セシナランニハ

其公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲シ若シ起訴ナキニ於テハ別ニ民事裁判所ニ出訴セントノ意思ヲ有シ居ルヤモ知ル可カラサルナリ要スルニ此通知ハ一ニ告訴人カ私訴ヲ爲スニ付テノ便利ヲ計リタルモノナリ

豫審

豫審ノ目的

豫審ノ秘密

第三章　豫審

(二二八)豫審ハ事實發見ノ爲メ換言スレハ諸般ノ證憑ヲ集取スル爲メ豫審判事カ行フ所ノ下調處分ナリ而シテ豫審判事ト雖モ亦一ノ裁判官ナレハ原告ノ請求ナキニ自ラ起テ事件ヲ取リ之カ處分ヲ爲ス可キモノニ非ス故ニ現行ノ重罪輕罪ニ關シ特別ノ規定アル場合ノ外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス若シ請求ナクシテ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ハ無効ニ屬スルモノトス

豫審ハ前述ノ如ク事實發見ヲ目的トスルモノナレハ成ル可ク其處分ヲ秘密ニシ世人ヲシテ之ヲ知ラシメサルハ勿論訴訟關係人タル被告

人ニモ之ヲ知ラシメサルヲ必要トス若シ公判ニ於ケル如ク其取調ヲ公行センカ啻ニ事實發見ニ妨アルノミナラス被告人ニ對シテモ不利益ヲ被ラシムルニ至ル可シ何ヲ以テ之ヲ言フ被告人果シテ犯罪人ナランニハ常ニ取調ノ進行ニ注意シ判事カ處分ヲ爲スニ先チ或ハ證憑ヲ湮滅シ或ハ虛僞ノ證憑ヲ揑造シ以テ事實ノ眞相ヲ覆ハンコトヲ計ル可ク縱令被告人自ラ是等ノ奸計ヲ企テサルモ其親族故舊等苟クモ被告人ノ免罪ヲ望ム者ニ於テ詐術ヲ試ムルコトアラン若シ然ラハ事實發見ニ大妨害ヲ與ヘ少クトモ其發見ヲ遲延セシムルヤ必然ナリ又被告人ニシテ全ク無辜寃枉ノ者ナランニハ其豫審處分ヲ公行セラレ隨テ其被告人ト爲リタルコト世上ニ傳播セラルヽニ因リ少クトモ其免訴ノ言渡ヲ受クルマテノ間名譽ヲ毀損セラルヽヲ免カレス故ニ公益ノ爲メ又私益ノ爲メニモ豫審處分ハ之ヲ密行スルヲ必要トスルナ

例外

辯論ヲ用ヒス

リ

然レトモ豫審處分ヲ密行スルニモ自ラ其程度アリテ嚴重ニ過クルトキハ反テ事實發見ノ妨害ト爲ルコトアラン例ヘハ被告人數名アル場合ノ如キ之ヲ勾留シタルトキハ固ヨリ其監房ヲ別ニシ又其訊問モ同時同所ニ於テ之ヲ爲サス以テ其相通謀スルヲ防ク可シト雖モ其孰レカ正犯ナル乎從犯ナル乎其他共犯ノ事情ヲ確カメシムル爲メニハ兩々相對質セシムルヲ必要トスルコトナシトセス又被告人ノ人違ナキコトヲ確カメシムル爲メニハ證人其他ノ者ト對質セシムルノ必要ヲ見ルコトアリ故ニ是等ノ場合ニ於テハ幾分カ密行ノ制限ヲ緩フセサル可カラス尙ホ密行ノ程度ニ付テハ各處分ヲ說クニ當リ之ヲ詳悉ス可シ

豫審ハ啻ニ密行スルノミナラス原被相對シテ辯論ヲ爲スコトヲ許サ

記錄ノ檢閲ハ檢事ニ許シテ被告人ニ許サス

ス故ニ公判ニ於ケル如ク被告人ニ於テ辯護人ヲ用ユルコトヲ得ス又被告人ノ法律上代理人之ニ干與スルコトヲ得ス其口頭辯論ヲ爲スコトヲ許サヽルモノハ畢竟豫審ニ於テ直チニ本案ニ付キ終局ノ判決ヲ與フルコトナク單ニ事實ノ下調ヲ爲スニ過キサルヲ以テナリ

第六十八條ニ依レハ檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記錄ヲ檢閲スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シトアリテ被告人ノ訊問調書證人ノ訊問調書鑑定人ノ鑑定書等檢事ニ檢閲スルコトヲ得セシムルモ被告人ニハ此檢閲ノ權ヲ與ヘス原告ニ厚クシテ被告ニ薄ク頗ル不公平ニ失スルカ如シ然レトモ檢事ハ其職務トシテ訴訟ニ關係スルモノニシテ自家一身上利害ノ關係ナシ故ニ訴訟記錄ノ檢閲ヲ許スモ爲メニ豫審ノ前途ニ妨害ヲ試ムル等ノ恐レナシ反テ同條第二項ニ規定スル如ク豫審ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ臨

身體ノ自由

時請求スルコトヲ得セシムル爲メ此檢閲ヲ許サヽル可カラス之ニ反シ被告人ハ犯罪人ナリトノ嫌疑ヲ受ケ居ルモノナレハ訴訟記錄ノ檢閲ヲ許スハ太甚タ危險ナリトス是レ檢事ニ許シテ被告人ニ許サヽルル所以ナリ但第九十七條ニ規定スル如ク被告人其供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ妨ケス

豫審ハ事實發見ノ爲メニ行フモノナレハ豫審判事ハ被告人ニ不利益ナル證憑ニ限ラス其利益ト爲ル可キ證憑ヲモ集取セサル可カラス是レ豫審判事ノ最モ注意ス可キ所ナリトス

第一節　令狀

(二二九)夫レ人ハ身體ノ自由ヲ有ス又實ニ此自由ヲ有セサル可カラス然レトモ此自由タル無限ノモノナル可カラス若シ各人無限ノ自由ヲ有センカ彼我互ニ牴觸シ遂ニ自由ヲ有セサルト一般相擇フナキニ至

ラン帝國憲法第二十三條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁……ヲ受クルコトナシ」ト是レ自由カ法律ニ依テ制限セラル可キコトヲ明示シタルモノナリ

逮捕監禁ハ法律ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス即チ法律ノ之ヲ聽許シ若クハ命令シタル場合ニシテ且ツ法律ニ規定シタル方式ヲ履行シ而シテ後始メテ此處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ其場合ト方式トハ本節實ニ之カ規定ヲ爲セリ

思フニ被告人ハ必シモ犯罪人ニ非ス唯犯罪人ナラントノ嫌疑ヲ受ケタルモノニ過キサルナリ故ニ有罪ノ判決確定スルニ至ルマテハ無罪ヲ以テ之ヲ待タサル可カラス然ルニ其罪ノ有無未タ分明ナラサルニ拘ハラス之ヲ逮捕シ之ヲ監禁ス是レ其有罪ナルコトヲ豫斷スルモノニ非スト謂フ可カラス且ツ其逮捕監禁ハ啻ニ其人ノ身體ヲ苦シムル

逮捕監禁ノ必要ノ一

ノミナラス其名譽ヲ害シ其健康ヲ損シ又其業務ヲ妨ケ隨テ累ヲ其家族ニ及ホスニ至ル立法者此惡結果ノ生スルコトヲ慮ハカラサルニ非ス然ルニ猶ホ敢テ此處分ヲ爲スコトヲ許シ若クハ命シタルモノハ公益上已ムヲ得サルノ必要アリテ然ルナリ

何ヲカ已ムヲ得サルノ必要ト云フ余カ見ル所ヲ以テスレハ其必要三アリ左ノ如シ

(三三〇)第一公安保護上ノ必要　凡ソ人ノ罪ヲ犯スヤ必ス其因ル所ナクンハアラス或ハ怨恨或ハ憤怒或ハ嫉惡或ハ利慾或ハ痴情或ハ功名是等皆犯罪ノ原因ヲ爲ス已ニ是等ノ原因アリテ罪ヲ犯ス幸ニシテ其目的ヲ達シタルカ爲メ原因全ク消散スルニ至レハ則チ可ナリト雖モ多クハ一罪ニ滿足セスシテ反テ益〻其罪ヲ重ネ甚シキハ犯罪ヲ以テ其生業ト爲スモノアルニ至ル利慾心ニ出ル犯罪ニ付テハ殊ニ然リトス

其必要ノ二

左レハ被告人トシテ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタル上ハ其罪ノ有無未タ明ナラサルモ依然之ヲシテ身體ノ自由ヲ得セシムルハ大ニ公安ニ害アリトス何トナレハ渠レ果シテ犯罪人ナランニハ或ハ數罪俱發一ノ重キニ從フノ律アル倖トシ否ラサルモ自暴自棄益兇暴邪慾ヲ逞シフスルノ虞ナキヲ保セス若シ犯罪人ニ非ストスルモ世人ハ已ニ嫌疑ヲ渠レニ懷クカ故ニ恰モ猛虎ト相伍スルノ思アリテ瞬時モ其心ヲ安ンスルコト能ハサル可ケレハナリ故ニ一面ハ國家公益ノ爲メニ一面ハ良民保護ノ爲メニ一時被告人ノ自由ヲ停止スルモ亦實ニ已ム可カラサル所ナリトス

(二三一)第二事實發見上ノ必要　事實ノ判定ハ一ニ裁判官ノ心證ニ任セタリト雖モ所謂ル心證ナルモノハ臆測妄斷ト同シカラス必ス諸般ノ證據徵憑ニ依據セサル可カラス故ニ心證ヲ資ラントセハ被告人ヲ

其必要ノ三

訊問シ犯所ニ臨檢シ證人鑑定人ノ供述ヲ聽ク等細大トナク證憑ト爲ル可キ事物ヲ集取スルヲ必要トス然ルニ被告人ノ自由ヲ停止セス其爲ス所ニ一任セハ啻ニ隨時渠レヲ訊問スルコト能ハサルノミナラス渠レ或ハ證據物件ヲ毀棄シ或ハ證人等ノ口ヲ滅シ其他證憑ノ集取ヲ妨ケ遂ニ裁判官ヲシテ事實ヲ發見スルコト能ハサラシムルニ至ルモ亦知ル可カラス是レ事實發見ノ必要上往々被告人ノ逮捕勾留ヲ爲サヽルヲ得サル所以ナリ

(二三二)第三裁判執行上ノ必要　被告人罪アリトシテ刑ノ言渡ヲ爲スモ其裁判ヲ實地ニ執行セサレハ刑罰ノ名アリテ刑罰ノ實ナク殆ト無益ノ業ニ屬ス故ニ裁判ヲシテ効用アラシメントスルニハ豫メ其執行ヲ確保スルノ手段ヲ爲シ置クヲ必要トス蓋シ犯罪人タル者其罪ノ免カル可カラサルコトヲ知ルモ自ラ好ンテ刑罰ニ就クコトヲ爲サス遁

逮捕監禁ヲ爲ス可キ場合ト爲ス可カラサル場合

逃跡ヲ晦マシ倖ニ期滿免除ノ到着スルヲ待ツハ百中九十九皆然ラサルハ莫シ左レハ裁判執行ヲ確保スル爲メ被告人ノ自由ヲ停止スルモ亦已ムヲ得サル所ナリトス

(二三三)然レトモ一被告人ニ對シ公訴ノ起リタル上ハ其罪ノ輕重大小如何ニ拘ハラス每ニ必ス上陳ノ三必要若クハ其中ノ一ヲ存スルモノト認ム可カラス罪ノ極メテ輕キモノハ公安ヲ害スルコト亦至小ナルヲ以テ縱令其犯罪人ヲ自由ニ放置スルモ決シテ之カ爲メニ更ニ公安ヲ害スルニ至ラス犯罪人モ亦百方苦計ヲ運ラシ刑罰ヲ免カレンコトヲ規圖スルニ付キ大利益ヲ有セサルヲ以テ其自由ヲ停止セサルモ事實ノ發見裁判ノ執行ニ妨害ヲ試ムルコトナカル可シ又罪ノ稍重キ場合ニ於テモ其罪質又ハ被告人ノ身分等ニ依リ公安攪亂等ノ害ヲ生スルノ虞ナキコトアリ故ニ裁判官ニ於テ善ク是等ノ事ニ注意シ實際上

勾留ニ關スル制限

必要已ムヲ得スト確認シタルトキニ非サレハ逮捕監禁ヲ命ス可カラス

(二三四)逮捕監禁ノ必要不必要ハ畢竟事實上ノ問題タルニ過キサルモ法律ハ監禁ヲ爲スニ付キ或ル制限ヲ設ケ殊ニ犯罪ノ輕微ナルモノニ付テハ全ク此處分ヲ爲スコトヲ許サヽルナリ第七十五條ニ曰ク

勾留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得

故ニ監禁即チ勾留ハ重輕禁錮又ハ重罪ノ刑ニ該ル可キ事件ニ限リ之ヲ行フコトヲ許容シタルモ罰金又ハ違警罪ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ決シテ之ヲ行フコトヲ許容セス是レ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ立法者自ラ上陳ノ三必要ナシト認メタレハナリ禁錮以上

勾引ニハ制限ナキ乎

ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ必要ノ有無豫メ斷定スルコト能ハサルヲ以テ之ヲ行フト否トヲ裁判官ノ見ル所ニ任シタルノミ

(二三五)逮捕即チ勾引ニ付テハ法律ハ一般ニ之ヲ行フコトヲ許容シタルカ如シ第七十一條ニハ

豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

ト規定シ又第七十二條ニハ

豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第一　被告人定リタル住所アラサルトキ

第二　被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ

第三　被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

ト規定シタルニ止マリ其勾引狀ヲ發スルハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニ限ルトノ規定ナシ故ニ罰金又ハ違警罪ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テモ右兩條ノ規定ニ從フ上ハ勾引狀ヲ以テ逮捕セシムルコトヲ得ヘキニ似タリ

然レトモ第二二二號ニ於テ說明シタル如ク現行犯ノ場合ニ於テモ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ被告人ノ氏名住所ヲ確ムル爲メ一時引致スルコトヲ得ルニ止マルモノトスル上ハ非現行犯ノ場合ニ於テ反テ逮捕勾引シ四十八時內留置スルコトヲ得ヘシトノ道理ナシ且ツ違警罪事件ニ付テハ元來豫審ヲ行ハサルモノナレハ豫審判事ニ於テ其公訴ヲ受ケ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルカ如キ場合ノ生ス可キ謂ハレナク故ニ姑ク之ヲ論外ニ舍キ專ハラ罰金ニ該ル可キ事件ニ

無制限ノ説及ヒ之ニ對スル駁論

付キ之ヲ考フルニ其本刑スラ猶ホ財産ノ上ニ及フニ過キス然ルニ其事件ノ審理中ニ在リテハ被告人ノ自由ヲ停止スルコトヲ得ヘシトスルハ實ニ條理ニ反スルノ太甚シキモノト謂ハサルヲ得ス立法者如何ニ不注意ナルモ此ノ如キ冠履顚倒ノ規定ヲ爲サヽル可シ

(二三六)論者或ハ曰ハン第七十五條ニハ故ラニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ云々ト記シ而シテ第七十一條第七十二條ニハ此制限ヲ設ケス故ニ勾引狀ニ罰金ニ該ル可キ事件ニ付テモ之ヲ發スルコトヲ許スノ意タルコト見ルニ足ル可シト此言一應其理アルカ如シ然レトモ此ノ如キ反對解釋ノ法ハ常ニ必シモ其當ヲ得ルモノニ非ス寧ロ法律ノ全體ニ就テ立法者ノ意思ヲ討究スルノ優レルニ若カス公判通則ノ第百七十八條ヲ見ヨ「裁判所ニ於テハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得」トアルニ非スヤ公判ニ於テハ罰金ニ該ル可キ事件ニ付キ勾引狀ヲ發スルコトヲ許サヽルニ豫審ニ於テハ同事件ニ付キ此令狀ヲ發スルコトヲ許サヽル可カラサルノ道理何クニカ在ル或ハ公判ニ於テハ被告人代人ヲ差出スコトヲ得ルモ豫審ニ於テハ否ラス故ニ此區別アリト辯スル者アラン然レトモ公判ニ於テ被告人出頭セス又代人ヲ差出サヽル場合ハ如何此場合ニ於テモ勾引狀ヲ發スルコトヲ許サヽルニ非スヤ然ラハ豫審ニ於テモ被告人出頭セサルトキハ其儘ニテ豫審ヲ終結ス可シ輕微ノ事件ナルニ拘ハラス被告人ヲシテ必ス出頭セシメ之ヲ訊問シタル上ニ非サレハ終結ヲ告ク可カラストノ必要ナカル可シ

又勾引狀ノ効力ハ僅ニ四十八時内ニ止マルモノナレハ罰金ニ該ル可キ被告人ニ對シ此令狀ヲ發スルモ左マテ其自由ヲ停止スルコトナシト論スル者アリ然レトモ人身ノ自由ハ瞬時間ト雖モ故ナク之ヲ停止

ス可キモノニ非サルノミナラス勾引狀ノ効力ハ四十八時ヲ超過セストノ規定ハ被告人ヲ判事ノ面前ニ引致シタル以後ノ事ヲ規定シタルニ過キス故ニ其令狀ノ執行ニ着手シタルヨリ判事ノ面前ニ引致スルマテノ時間ハ之ヲ控除スルヲ以テ實際被告人ノ自由ヲ停止スルハ四十八時ニ止マラス遠方ヨリ引致スル場合ニ於テハ數十日ニ渉ルコト絶テ之ナシト云フ可カラス故ニ此論ノ如キハ固ヨリ採ルニ足ラサルモノトス

要スルニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ公安保護上ノ必要、事實發見上ノ必要、裁判執行上ノ必要アルヲ以テ勾留狀ヲ發スルコトヲ許スモ事實果シテ必要アルヤ否ヤハ被告人訊問ノ上ニ定マル可キモノニシテ未タ其人物ノ如何ヲ詳ニセス之ヲ自由ニ放置スルノ危險如何ヲ究メスシテ直チニ此令狀ヲ發シ永ク其自由ヲ停止スルコトヲ得セシムルハ不都合ナリ故ニ訊問後ニ於テス可シトノ條件ヲ付シタリ已ニ此條件ヲ付シタル上ハ豫審判事ヲシテ必ス被告人ヲ訊問スルコトヲ得セシメサル可カラス因テ召喚狀ヲ以テ呼出スニ被告人出頭セサルカ又ハ召喚狀ヲ送達スルニ由ナク若クハ此令狀ヲ用ユルノ反テ危險ナル場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發シ公力ヲ以テ被告人ヲ引致スルコトヲ許シタルモノナリ然ルニ罰金ニ該ル可キ事件ニ付テハ立法者ハ公安保護上等ノ必要一モ之ナシト認メ勾留スルコトヲ禁シナカラ引續キ勾留スルコト能ハサル被告人ヲ一時勾引スルコトニ限リ許容セサル可カラストノ道理ナシ豫審判事ヲシテ必ス被告人ヲ訊問セシメサル可カラス又豫審判事ニ其訊問ヲ實行シ得ルノ便ヲ與ヘサル可カラストノ謂ハレナケレハナリ故ニ余ハ勾引狀ハ勾留狀ト同シク禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得サルモ

帝國議會ノ議員ハ會期中逮捕勾留スルコトヲ得ス

ノト確信スルナリ

(二三七)禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニシテ公安保護上等ノ必要アリト認メタルトキハ勾引狀ハ勿論勾留狀ヲモ發スルコトヲ得ヘク法律ハ羅馬「ジュスチニアン」ノ法律ノ如ク除外例(婦女ハ常ニ勾留セス等ノ法)ヲ設ケサルナリ然レトモ帝國憲法第五十三條ニ「兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ」トアルヲ以テ帝國議會ノ議員ニシテ現行犯ノ被告人又ハ內亂外患ニ關ル罪ノ被告人タル場合ハ格別其他ノ犯罪ニ付テ被告人タルトキハ直チニ之ニ對シ勾引狀勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス其之ヲ勾引シ勾留スルノ必要アルトキハ豫メ其議員ノ屬スル議院ノ許諾ヲ得サル可カラス此許諾ヲ得ルノ手續ニ付テハ法律別ニ之カ規定ヲ爲サスト雖モ豫審判事又ハ裁判所ヨリ直チニ議院ト往復ス可キ

逮捕監禁ニ關スル方式

モノニ非サルヲ以テ他ノ司法行政上ノ事項ニ於ケルト同シク豫審判事ヨリ裁判所長ニ具申シ裁判所長ハ司法大臣ニ具申シ而シテ司法大臣ヨリ議院ニ向テ其許諾ヲ請フ可シ若シ議院ニ於テ決議ノ上許諾ヲ與ヘサルトキハ復タ奈何トモスルコトヲ得サルカ故ニ已ムヲ得ス其議院ノ閉會ニ至ルヲ待タサル可カラス尤モ憲法カ議員ヲ保護スルハ其開會中ニ限ルヲ以テ縱令召集令ヲ發セラレタル後タリトモ未タ開會ニ至ラサル前ニ於テハ其被告人タル議員ヲ勾引シ又勾留スルコトヲ得ヘキハ論ヲ俟タス而カモ一旦適法ニ勾引シ勾留シタル上ハ爾後議院開會スルニ至ルモ之カ爲メニ前ノ勾引勾留ヲ無效ナラシムルコトナシ憲法ハ單ニ開會中ニ在リテ始メテ議員ヲ逮捕スルコトナキ旨ヲ擔保シタルニ過キサレハナリ

(二三八)逮捕監禁ハ人身ノ自由ヲ侵害スルモノナレハ此非常ノ處分ハ

之ヲ行政官ニ委ス可カラス又此處分ヲ行フニ付テハ相當ノ方式ヲ履踐セシムルヲ必要トス若シ否ラサルニ於テハ其結果タル必ス專横壓制ト爲リ良民其苦ニ堪ヘサルニ至ラン故ニ法律ハ逮捕監禁必ス裁判官ノ令狀ニ依ル可キノ原則ヲ定メ(現行犯ノ場合ハ例外トス)又各令狀ニ付キ其方式効力ヲ定メ敢テ之ニ背反スルコトヲ許サヽルナリ其方式規則ニ從ハサル逮捕監禁ハ即チ不法ノ逮捕監禁ニシテ刑法第二百七十八條ノ制裁ヲ免カルヽコトヲ得ス

法律ハ令狀ヲ三種ニ別テリ曰ク召喚狀曰ク勾引狀曰ク勾留狀此三種ノ令狀ハ裁判官ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得サルヲ原則トス以下是等ノ令狀ニ付テ其効力幷ニ方式等ヲ詳說ス可シ

(二三九)第六十九條ニ曰ク

豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ

召喚狀

被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

故ニ被告人訊問ノ爲メ之ヲ呼出スニハ先ツ此令狀ヲ用ユルヲ本則トス而シテ此令狀ハ他ノ二令狀ト異ナリ公力ヲ以テ執行セス唯被告人ノ隨意出頭ヲ命令スルニ過キス即チ證人ニ對スル呼出狀及ヒ公判ニ於ケル被告人ノ呼出狀ト其性質毫モ異ナル所ナク單ニ其名ヲ同シフセサルノ差アルノミ

此令狀ハ即時ノ出頭ヲ命令スルモノニ非スシテ其送達ト出頭トノ間二十四時以上ノ猶豫ヲ與ヘサル可カラス故ニ其有效ニ送達アル可キ時刻ヲ豫算シ此時刻ヨリ起算シテ二十四時以上ト爲ル可キ時刻ヲ期

シテ召喚ス可シ例ヘハ本日正午ニ送達アル可シト認ムルトキハ明日ノ正午以後ニ於テ適宜ニ其時刻ヲ定メ午後一時若クハ二時ニ出頭ス可シト命令スルノ類ナリ(後ノ呼出狀等皆之ニ倣ヘ)此猶豫ハ被告人ヲシテ其間ニ他ノ用務ヲ辨スル等ノ餘裕アラシムル爲メニ與フルモノニシテ辯護ノ準備ノ爲メニシタルモノニ非ス第二百十五條ニ規定シタル所ト其猶豫期間ニ長短アルヲ以テ其然ルコトヲ知ル可シ

被告人此令狀ニ因リ出頭シタルトキハ直チニ其訊問ニ取掛ル可キモ若シ豫審判事ニ差支アルトキハ暫時其被告人ヲ待タシムルコトヲ得ルハ勿論訊問ス可キ事項夥多ナルトキハ其訊問ノ終ルマテ多少ノ時間之ヲ豫審廷ニ留メ置クコトヲ得ヘシ但法律ハ翌日ニ及フコトヲ許サヽルヲ以テ遲クトモ午後十二時ニ至レハ其訊問ヲ止メサル可カラス而シテ尚ホ訊問ヲ要スルニ於テハ更ニ又之ヲ召喚ス可キモノトス

勾引狀

召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルモ別ニ其制裁ナシ但更ニ召喚狀ヲ發セス第七十一條ニ從ヒ勾引狀ヲ發スルコトアリ其制裁トシテ見ル可キモノ僅ニ此一事アルノミ

(二四〇勾引狀ハ被告人召喚狀ニ應セサル場合ニ於テ發スルヲ通例トシ第七十二條ニ記載シタル場合ニ限リ召喚狀ヲ發セスシテ直チニ之ヲ發スルコトヲ得セシム今此第七十二條ノ規定ニ付キ之ヲ按スルニ其第一被告人定リタル住所ナキ場合ニ於テハ召喚狀ヲ發スルモ之ヲ送達スルコト難ク徒ニ無益ノ手續ヲ爲スニ過キサルヲ以テ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ許シタルナリ其第二ノ場合ハ證據湮滅被告人逃亡ノ恐アルモノナレハ召喚狀ヲ發スルハ偶〻以テ其害ノ生スルヲ促スニ至ル其第三ノ場合モ前ニ遂ケサリシ犯罪ヲ遂ケ又ハ脅迫シタル所ノ事ヲ實行セントスル恐アルモノナレハ成ル可ク速ニ之ヲ防制スルコ

勾引狀ノ効力

トヲ必要トス是レ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ許シタル所以ナリ

勾引狀ハ公力ヲ以テ被告人ヲ豫審判事ノ面前ニ引致スルモノニシテ其効力ハ引致ニ因リテ消滅スルコトナク仍ホ其引致ヨリ四十八時内被告人ノ自由ヲ停止スルノ効力アリ若シ四十八時ヲ過クルトキハ更ニ勾留狀ヲ發スルニ非サルヨリハ當然其自由ヲ復シ釋放ノ手續ヲ爲サヽル可カラス

勾留狀

(二四一)勾留狀ハ召喚狀ニ因リ召喚シ又ハ勾留狀ニ因リ引致シタル所ノ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得サルヲ本則トスルモ被告人已ニ逃亡シタル場合ニ於テハ之ヲ訊問スルニ由ナキヲ以テ此場合ニ限リ直チニ此令狀ヲ發スルコトヲ得ルモノトス

勾留狀ノ効力

此令狀ノ効力ハ至大ニシテ永ク被告人ノ自由ヲ停止ス即チ一旦此令狀ヲ受ケタル者ハ豫審中ハ勿論豫審終結ニ於テ釋放ノ言渡ヲ受ケサ

令狀ノ方式

ルトキハ公判ニ於テ仍ホ其効力ヲ持續ス加之公判ノ第一審第二審ニ於テモ釋放ノ言渡ナキ上ハ其判決ノ確定スルマテ否其判決ノ執行始マルマテ此令狀ニ依リ被告人ヲ未決監ニ留置スルモノトス

(二四二)令狀ノ方式ニ付テハ第七十六條第一項第二項ニ之カ規定ヲ爲シテ曰ク

總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

其被告事件ヲ記載スルハ被告人ヲシテ其如何ナル嫌疑ノ爲メニ令狀ヲ受クルニ至リタルカヲ知ラシメンカ爲メナリ其被告人ノ氏名等ヲ

記載スルハ人違ナキコトヲ示シ且ツ執行上過誤ナカラシメンカ爲メナリ其氏名ノ分明ナラサル者ハ綽號ヲ用ヰ又ハ容貌體格年齢等ヲ明示シテ之ニ代フ可シ召喚狀ハ同條第三項ニ規定スル如ク執達吏ヲシテ送達セシムルモノナレハ其送達ヲ受ク可キ被告人ノ氏名ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ送達スルコト能ハサル可シ故ニ此令狀ニハ必ス氏名ヲ記載ス可キモノトス

召喚狀ハ前述ノ如ク執達吏之ヲ送達スルモ勾引狀勾留狀ハ公力ヲ用ヰサルヲ得サルモノナレハ巡査又ハ憲兵卒ニ之ヲ交付シテ執行セシム但勾留狀ヲ受ク可キ被告人已ニ監獄ニ在ルトキハ公力ヲ用ユルノ必要ナキヲ以テ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシム又召喚狀ハ常ニ一通ニ限ルモ勾引狀勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作リ巡査憲兵卒數人ニ分付スルコトヲ得是レ被告人ヲ逮捕スルニ付キ急速ヲ要スル場合ニ

令狀執行ノ方法

於テ令狀一通ニシテ其執行者一人ナルトキハ被告人ノ在ル可シト思料スル數箇ノ場所ニ同時ニ派出スルコト能ハス爲メニ時機ヲ失シ遂ニ逃捕スルコト能ハサルノ不都合ナカラシタンカ爲メナリ

(二四三)召喚狀ハ一般ノ送達方法ニ依テ送達ス又勾引狀勾留狀ニ付テハ第七十七條第二項ニ「正本ヲ示シ其謄本ヲ下附ス可シ此場合ニ於テハ其正本、謄本ニ執行ノ場所、日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ」トアリテ其執行方法ハ亦一般送達ノ方法ト大差ナシ此手續ヲ盡シタル後勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引致シ勾留狀ニ付テハ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ被告人ヲ引致ス若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルモ妨ナシ但何レノ場合ニ於テモ被告人ヲ受取ル可キ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ之ヲ受取

軍人軍屬ニ對スル令狀執行ノ方法

リ其證書ヲ渡ス可ク然ル上ハ被告人ノ身上ニ付テハ監獄署長其責任ヲ負ハサル可カラス

勾引狀勾留狀ノ執行ヲ終リタル上ハ其旨ヲ令狀ノ正本ニ記載シ關係書類ト共ニ檢事ニ差出ス可シ其執行不能ノ場合ニ付テモ亦同シ

第八十一條ハ軍人軍屬ニ對スル令狀ノ執行方法ヲ特ニ規定シテ曰ク

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

法文ニハ右ノ如ク「豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル」トアルカ故ニ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ニ付テハ此手續ヲ要セス通常ノ手續ニ從ヒ令狀ヲ執行スルコトヲ得ルハ勿論ナリ然レトモ法律カ此特別ノ規定ヲ爲シタルハ畢竟現ニ軍旗ノ下ニ立ツ者ヲ軍旗ノ下ヨリ離レシメ爲メニ隊伍編成上ニ變更ヲ生スルコトナカラシメンカ爲メニシタルモノナレハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト雖モ召集中ニ係ルトキハ現ニ軍旗ノ下ニ立ツ現役ノ軍人軍屬ト異ナル所ナキヲ以テ之ニ對スル令狀ノ執行方法ハ亦本條ノ例ニ依ル可キヲ當然ナリトス

被告人他管ニ在ル場合

又「下士以下ノ軍人軍屬」トアルカ故ニ士官以上ノ軍人軍屬ニ付テハ此規定ニ依ルコトヲ要セサルカ如シ然レトモ當直士官ノ如キ營中ニ在ル者又ハ行軍中ノ者ニ對シ直チニ令狀ヲ執行シ之ヲ勾引勾留スルコトヲ得ルトセハ爲メニ軍紀ノ整肅ヲ害スルノミナラス軍隊ノ離散ヲ惹起スニ至ルモ知ル可カラス故ニ是等ノ者ニ對シテハ亦本條ノ例ニ依ラサル可カラス

(二四四)令狀ヲ受ク可キ被告人其裁判所ノ管轄内ニ在ラサルトキハ其

令狀ヲ送達シ及ヒ執行スルニハ如何ナル手續ニ依ル可キ乎第七十條ニハ

豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

トアルモ法律ハ必ス囑託ス可シト命セサルカ故ニ豫審判事ハ此囑託ヲ爲サスシテ遠隔ノ地ニ在ル被告人ヲ召喚スルコトヲ得ルハ言ヲ俟タス即チ此場合ニ於テハ裁判所書記ヨリ其召喚狀ヲ被告人所在ノ地ヲ管轄スル區裁判所書記ニ送致シ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任ス可キコトヲ囑託ス可シ是レ通常ノ送達方法(民事訴訟法第百三十六條第二項)ニシテ此點ハ別ニ說明ヲ要スルモノナシ

勾引狀勾留狀ニ付テハ第七十九條ニ

豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルコトヲ知リ又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡査憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡査憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

トアリテ急速ニ被告人ヲ逮捕セサレハ遂ニ其踪跡ヲ失フニ至ルカ又ハ證據ノ湮滅ヲ來タスノ恐アルトキニ限リ巡査憲兵卒ヲシテ其被告人ヲ追跡セシムルコトヲ得ルモ這ハ是レ特例ニシテ本則ニ非ス本則ハ其被告人所在ノ地ノ巡査憲兵卒ニ令狀ヲ交付シ執行セシムルニ在リ然ラハ其交付ニ至ルマテノ手續ハ如何ニス可キ乎法律上何等ノ規定ナシト雖モ總テ裁判ノ執行ハ檢事之カ指揮ヲ爲ス可キモノナレハ令狀ヲ發シタル豫審判事ノ屬スル裁判所ノ檢事ヨリ其令狀ヲ被告人

被告人ノ所在不分明ナル場合

所在ノ地ノ裁判所ノ檢事ニ送致シ該檢事ヨリ之ヲ其地ノ巡査憲兵卒ニ交付シ執行ヲ爲サシメサル可カラサルモノト信ス

(二四五)勾引狀勾留狀ヲ受ク可キ被告人ノ所在全ク知レサル場合ニ於テハ令狀ヲ發スルモ徒ニ手數ヲ費スノミニシテ何等ノ實益ナシ即チ法律ハ第八十條ヲ以テ此場合ニ關スル規定ヲ爲シテ曰ク

豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地內ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ効ヲ有ス

法律ニハ各檢事長ニ云々トアルモ必シモ全國ノ各檢事長ニ本條ノ請求ヲ爲スヲ要セス例ヘハ被告人九州內ノ何レノ地ニ在ルヤヲ知ルコト能ハサルモ必ス九州外ニ出ルコトナカル可シト思料シタルトキハ長崎控訴院檢事長ニノミ此請求ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ

令狀執行ノ爲メ家宅ヲ搜索スルコト

檢事長ヨリ搜索逮捕ノ命令アリタルトキハ檢事ハ逮捕狀ヲ發シ普ク其管轄地內ヲ搜索セシム可シ左レハ此場合ニ於テハ其逮捕狀ハ勢ヒ數十百通ヲ作リ成ル可ク巡査憲兵卒全員ニ分付スルヲ要ス又人相書モ複寫シテ之ヲ巡査憲兵卒ニ分付シ以テ其搜索ノ便ニ供スルヲ相當ナリトス此場合ハ古史ニ大ニ天下ニ索ムトアル場合ニ當ルモノナリ

(二四六)巡査憲兵卒カ令狀又ハ逮捕狀ヲ執行セントスルニハ人ノ家宅ニ侵入スルヲ必要トスル場合アル可シ此場合ニ於テハ直チニ侵入搜索ヲ爲スモ妨ナキ乎抑〻家宅ナルモノハ其大小廣狹ノ別ナク人ノ日夜棲息スル處ニシテ其居住者ニ取リテハ一ノ金城湯池タリ容易ニ他人

ノ侵入ヲ許ス可キモノニ非ス乃チ帝國憲法ハ其第二十五條ヲ以テ「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及捜索セラルヽコトナシ」ト明言シ家宅ノ容易ニ侵ス可カラサルコトヲ規定シタリ但公益上已ムコトヲ得サルノ理由アリテ法律カ特ニ定メタル場合ニ限リ例外トシテ居住者ノ許諾ナキニ拘ハラス侵入捜索ヲ爲スコトヲ許シタル本問令狀執行ノ場合ハ即チ公益上ノ必要アリテ復タ人ノ私權利ヲ顧ミルニ遑アラサル場合ナリ因テ此法律ハ帝國憲法ノ意ヲ承ケテ一ノ除外例ヲ立テタリ第七十八條ニ曰ク

令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査、憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ捜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス捜索調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

立會人ヲ要スルコト

家宅捜索ハ日中ニ限ル

家宅捜索ハ日出前日沒後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ捜索ヲ爲スコトヲ得

即チ必要已ムコトヲ得サルニ依リ被告人ノ家宅ハ勿論良民ノ家宅ニ侵入シ之ヲ捜索スルコトヲ許シタルモ巡査憲兵卒一人ニテ此處分ヲ爲スコトヲ許サス又戸主其他家人ノ立會ヲ以テ足レリトセス必ス市町村長若クハ隣佑二名以上ノ立會ナカル可カラスト爲セリ此ノ如ク他人ノ立會ヲ要シタルハ巡査憲兵卒カ權ヲ弄シ横暴不法ノ所爲ニ渉ルコトアランコトヲ慮リ之ヲ防止センカ爲メニシタルモノナリ

(二四七)又家宅捜索ハ必ス日中ニ限リ日出前日沒後ニ之ヲ行フコトヲ許サス是レ夜間ハ人ノ休息シ安眠ス可キ時間ナレハ如何ニ公益上ノ

右ノ例外

必要アレハトテ其休息ヲ害シ其安眠ヲ妨ク可キニ非ス且ツ夜間ハ暗黑ナレハ此時間ニ於テ捜索ヲ許ストキハ爲メニ不都合ヲ生スルコトナキヲ保ス可カラス或ハ姦猾兇暴ノ徒巡査憲兵卒ト詐稱シ名ヲ令狀ノ執行ニ藉リ以テ輙スク人ノ家宅ニ侵入シ而シテ後掠奪等ノ所爲ヲ逞シフスルニ至ルモ知ル可カラス是レ立會人幾名アルモ夜間ニ於テ捜索ヲ爲スコトヲ許サヽル所以ナリ

然レトモ旅店割烹店ハ勿論劇場、人寄席、貸座敷等ハ夜間ト雖モ仍ホ其場所ヲ公開シ衆人ノ出入スルコトヲ得ル處ナレハ之ヲ人ノ住居スル家宅ト同視ス可カラス因テ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ侵入捜索スルコトヲ許シタリ其公開時間内ニ限リタルハ已ニ營業ヲ止メ來客ヲ辭シタル後ハ通常ノ家宅ト爲リ之ニ侵入シ捜索スルハ人ノ休息安眠ヲ害スルニ至レハナリ、

捜索ス可キ場所ノ制限

旅店割烹店等ト雖モ其中ニハ來客ノ爲メニ設ケタル室ト家人ノ爲メニ設ケタル室トアル可シ其家人ノ爲メニノミ設ケタル室ハ即チ公開ノ場所ニ非スシテ眞ノ住居ナルヲ以テ夜間ニ於テハ此室ニ侵入シ捜索ヲ爲ス可カラス又來客ノ爲メニ設ケタル室ト雖モ多少永久ノ期間滯留シ若クハ下宿スル者ニ貸與シタルモノヽ如キハ即チ其滯留人下宿人ノ住居ナルヲ以テ是レ亦夜間ノ侵入捜索ヲ許ス可カラス

(二四八)第七十八條ノ家宅捜索ハ潛匿シタリト思料スル被告人ニ對シ令狀ヲ執行センカ爲メニスルモノナレハ苟クモ被告人カ潛匿シ得ヘシト認ムル部分ハ總テ捜索ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナルモ道理上決シテ潛匿シ得ヘカラサル部分ハ決シテ捜索ヲ爲スコトヲ得ス例ヘハ机ノ抽斗ノ如キ人ノ身體ヲ容ルヽニ足ラサルコトヲ明瞭ナルモノナレハ之ヲ開披スル等ノコトアル可カラス

抗拒者アルトキノ處分

人ノ家宅ヲ捜索セントスルニ當リ其家人腕力ヲ以テ之ヲ拒ムトキハ巡査憲兵卒ハ公力ヲ以テ之ヲ制服スルコトヲ得ルハ勿論其抗拒カ刑法第百三十九條ノ罪ヲ成ストキハ即チ現行犯ナルヲ以テ其抗拒者ヲモ逮捕ス可シ又門戸ヲ閉鎖シ以テ之ヲ拒ムトキノ如キハ他ニ適當ノ方法ナキニ於テハ已ムヲ得ス其門戸ヲ踰越シ又ハ損壞スルモ敢テ不可ナシトス但損壞ノ如キハ非常ノ手段ニ屬スルヲ以テ萬已ムヲ得サルニ因リ之ヲ行フモ、成ル可ク其損害ノ少ナキコトニ注意スルヲ要ス

捜索調書ヲ作ルコト

(二四九)巡査憲兵卒家宅捜索ヲ爲シタルトキハ其捜索ノ手續及ヒ被告人ヲ發見シ又ハ發見セサルコト等總テ捜索ニ關スル事項ヲ捜索調書ニ記載シ之ヲ立會人ニ讀聞カセ其ニ署名捺印ス可シ是レ其處分ノ適法ナルコトヲ證センカ爲メニスルモノナリ若シ立會人ニ於テ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

令狀ヲ受ケタル被告人ノ待遇

(二五〇)被告人勾引狀又ハ勾留狀ニ依リ其身體ノ自由ヲ停止セラルヽト雖モ未タ其罪ノ有無判明ナラサルモノナレハ固ヨリ犯罪人即チ已決ノ囚徒トシテ之ヲ待遇ス可カラス左レハ第八十五條ヲ以テ

密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬、故舊又ハ辯護士ニ接見スルコトヲ得

書翰、書籍其他ノ書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人トノ之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事又ハ檢事ハ其書類ヲ留置クコトヲ得

ト規定シ監獄外ノ者ト接見シ又ハ書類ノ往復ヲ爲スコトヲ得セシムト雖モ其接見ノ際罪證湮滅等ノ協議ヲ爲スモ知ル可カラサルヲ以テ監獄ノ吏員必ス之ニ立會フ可キモノトシ又通常ノ場合ニ於テ法律ハ信書ノ秘密ヲ保護スルモ其外人ト書類ヲ往復スルニ付テハ亦同上

辯護士ト辯護上ノ協議ヲ爲スコト得ル乎

ノ危險アルヲ以テ判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ヘキモノトシタリ若シ接見ノ際言語又ハ擧動ニ異シム可キ廉アルトキハ立會吏員ニ於テ其接見ヲ止ム可ク書類檢閲ノ上其往復ヲ許ス可キモノニ非スト認ムルトキハ判事又ハ檢事ニ於テ其往復ヲ禁ス可ク加之犯罪ノ證憑又ハ事實參考ト爲ル可キモノナリト思料シタルトキハ其書類ヲ留置クコトヲ得ルモノトス

茲ニ一疑問アリ法文ニ「辯護士ニ接見スルコトヲ得」トアルニ依リ被告人ハ豫審終結後ニ於ケルト同シク辯護士ト辯護上ノ協議ヲ爲スコトヲ得ル乎否ト云フモノ是ナリ人或ハ曰ク豫審ハ密行ヲ主旨トシ又被告人ノ辯護ヲ許サス故ニ辯護上ノ協議等ヲ爲スコトハ一切之ヲ禁セサル可カラス唯將來辯護ヲ委託シ又之ヲ承諾スト云ヘルカ如キ言語ヲ接スルニ止メシム可シト此言ノ如クナランニハ法律カ故ラニ辯護

密室監禁

密室監禁ヲ

士ニ接見スルコトヲ許シタルハ何等ノ意味モナク全ク空文ニ屬スルニ至ラン故ニ余ハ之ニ同スルコト能ハス然レトモ豫審終結後ニ於ケルト同シク自由ニ言語ヲ接スルコトヲ得セシムルハ危險アルノミナラス豫審密行ノ主旨ニ反スルヲ以テ幾分カ之ヲ制限セサル可カラス即チ余ハ被告人ニ於テハ犯罪ノ事實又ハ其嫌疑ヲ受クルニ至リタル顚末ヲ語リ辯護士ニ於テハ被告人ノ利益ト爲ル可キ證憑アラハ其集取ヲ判事ニ請求スルコトヲ得ヘキ旨其他法律上ノ事項ニ付キ注意ヲ與フルハ差支ナク唯事ノ豫審處分ニ渉ルモノ例ヘハ判事ニ於テ云々ノ問ヲ發シタルトキハ如何ニ辯解ス可キ乎其辯解ハ云々ス可シト云ヘルカ如キ言語ヲ接スルコトヲ禁スルニ止ム可シト思考ス

第二節　密室監禁

(二五一)勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ之ヲ未決監ニ收置スルモ一人ノ爲

言渡スコトヲ得ヘキ場合

メニ一房ヲ與フコト能ハサルヲ以テ通例一房ニ數名ヲ收置ス然ルニ斯ク數名ヲ一房ニ混居セシムルカ故ニ其被告人等共犯ニ非サルモ(共犯ハ必ス其房ヲ別ニス)互ニ通謀シテ事實發見ノ妨害ヲ爲スコトナシトセス將ニ放免セラレントスル者ニ囑シテ其放免後ニ罪證ヲ湮滅セシメンコトヲ企テ又ハ再犯以上ノ者初犯ノ被告人ニ對シテ陳辯ノ方法ヲ指示スルカ如キ是ナリ因テ是等ノ恐アルトキハ或ハ檢事ノ請求ニ因リ或ハ判事ノ職權ヲ以テ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲スコトヲ得

效果

密室監禁ノ效果ハ第八十八條ニ之ヲ規定ス曰ク

判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サス

即チ第一被告人一名ヲ一房ニ置キ他ノ被告人ト混居セシメス第二接見授受ニ付キ必ス豫審判事ノ允許ヲ受ケサル可カラス是レ通常監禁ノ場合ト異ナル所ニシテ要ハ他人トノ交通ヲ遮斷シ若クハ容易ニ爲サシメサルニ在リ

期限

然ルニ人ハ元ト社交的ノ動物ナレハ永ク之ヲ一房ニ獨居セシメ特ニ其身體ノ自由ヲ得セシメサルニ於テハ鬱憂ノ極精神病等ヲ發スルコトナシトセス因テ法律ハ密室監禁ノ期限ヲ十日以內トシ之ヲ超過スルコトヲ許サス但十日ヲ過クルモ尙ホ此處分ヲ必要ナリトスルトキハ再三言渡ヲ更改スルコトヲ許ス故ニ言渡ヲ更改スル上ハ數十百日間引續キ密室ニ監禁スルコトヽ爲リ或ハ判事カ此處分ヲ以テ白狀ヲ促スノ具ト爲スノ弊ヲ生スルモ知ル可カラス因テ言渡ヲ更改スルトキハ其之ヲ更改セサルヲ得サルノ事由ヲ裁判所長ニ報告セシメ裁判所長ハ其監督ノ責ニ任ス可キモノトス

何レノ場合ニ於テモ密室監禁ヲ言渡シタル儘ニテ被告人ヲ一房ニ閉込メ置ク可キモノニ非ス故ニ十日間ニ少クトモ二度其被告人ヲ訊問シ申立ツ可キコトアレハ十分之ヲ申立テシムルヲ要ス

一旦期限ヲ定メテ密室監禁ヲ言渡シタルモ爾後其必要ナキコトヲ認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ取消シ通常ノ監禁ニ復スルコトヲ得ヘシ是レ法律ニハ明文ナキモ事理ニ於テ然ラサルヲ得サル所ナリ

第三節　保釋

保釋

單純ノ釋放

(二五二)禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ必要已ムヲ得サルノ處分トシテ被告人ヲ監禁スルコトヲ許シタルモ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ如何ナル場合ニ於テモ未決勾留ヲ爲スコトヲ許サス左レハ最初禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト信シ勾留狀ヲ發シタルモ豫審中其事件ノ罰金以下ノ刑ニ該ルニ過キサルコトヲ確知シタルトキハ豫審終結ヲ待タス直チニ其令狀ヲ取消シ單純ニ被告人ヲ釋放セサル可カラス是レ第八十六條ノ規定スル所ニシテ固ヨリ當然ノ事ナリトス

又被告事件ハ最初認定ノ如ク禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノナルモ未決勾留ヲ繼續スルノ必要ナキニ至リタルトキハ亦其令狀ヲ取消シ常態ニ復スルヲ相當トス然レトモ未決勾留ノ必要ナキモ左リトテ單純ニ釋放スルヲ危險ナリトスルコトアル可シ此場合ニ於テハ保釋ノ處分ヲ爲ス可シ

保釋ノ條件

保釋トハ被告人ヨリ何時ニテモ出呼ニ應シ出頭ス可キノ證書ヲ差出シ且ツ其出頭ヲ保證スル爲メ金錢若クハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住シ十分ナル資力ヲ有スル者ヨリノ保證書ヲ差出サシメテ被告人ヲ釋放スルヲ謂フ此處分ハ被告人ニ利益ナルモノナルモ被告人

ヲシテ必ス保證ヲ立テシムルモノナレハ豫審判事ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトナク被告人ノ請求アル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ許否ス可キモノトス

保釋ノ請求ハ被告人自身ニ限ラス其無能力者ナルトキハ法律上代理人ヨリ代リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

保證ノ金額ハ事件ノ輕重被告人ノ資力等ニ依リ異ナル可キモノニシテ法律上豫メ之ヲ一定スルコト能ハス故ニ豫審判事ノ斟酌指定スルニ任セタリ而シテ其金額ハ保釋ヲ許ス言渡書ニ記載スルモノトス

保釋中被告人ヲ訊問ス可キ必要生シタルトキハ何時ニテモ之ヲ呼出スヿヲ得ヘク被告人ハ前約ヲ履ミ其呼出ニ應シ出頭セサル可カラス然レトモ其呼出ト出頭トノ間猶豫ヲ與ヘサルニ於テハ保釋ヲ許シタルノ效殆ト之ナク被告人ハ何時呼出サルヽモ計リ難キヲ以テ暫時モ

保釋中ノ呼出

其住居外ニ出ルコト能ハサルニ至ラン因テ其呼出ト出頭トノ間二十四時ノ猶豫ヲ與フ

被告人呼出ニ應セサルトキノ處分

(二五三)被告人呼出ヲ受ケテ出頭セサルトキハ即チ前約ニ違フモノナレハ疾病其他正當ノ事由ニ因リタル旨ヲ疏明シタル場合ヲ除ク外制裁トシテ保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收シ且ツ一タヒ約ニ違フモノハ之ヲ再ヒスルモ知ル可カラサルヲ以テ保釋ヲ取消シ以テ前令狀ノ效カヲ復ス可シ其保證金ノ沒收常ニ必ス全部ニ及ハサルハ不參ノ事由正當ナラサルモ幾分カ宥恕ス可キ情狀ノ存スルモノアル可キヲ以テ判事ノ見ル所ニ從ヒ適宜ノ處分ヲ爲サシメンカ爲メナリ

保證金ノ沒收ハ刑罰ニ非サルモ一ノ制裁タリ且ツ此沒收ノ結果トシテ保釋ヲ取消スニ至ルモノナレハ其言渡ヲ爲スニハ豫メ檢事ノ意見ヲ聽カサル可カラス

保釋取消等ノ場合ニ於テハ保證金ヲ還付ス

沒收ノ言渡ハ一ノ決定ナルモ法律ハ之ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ許サス故ニ此言渡ハ即時ニ確定シ檢事ハ其執行ヲ指揮ヲ爲ス可シ即チ金錢ヲ以テ保證ト爲シタルトキハ之ヲ國庫ノ收入ニ移シ有價證券ナレハ之ヲ以テ沒收ニ係ル相當ノ金錢ニ換ヘ又他人ノ保證ニ係ルトキハ民事ノ規定ニ從ヒ其金錢ヲ徵收ス可シ

(二五四)被告人約ニ違フコトナシト雖モ或ハ罪證ヲ湮滅シ或ハ逃走スル等ノ危險更ニ生シタリト認メタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ其保釋ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ保證金等ハ固ヨリ其差出人ニ還付セサル可カラス

又豫審終結ニ至リ免訴ノ言渡又ハ違警罪若クハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルトキハ當然被告人ヲ釋放ス可キモノニシテ其釋放ニ付キ保證ヲ立テシム可キニ非サルヲ以テ保證金

責付

等ヲ還付ス可キハ勿論ナリトス縱令被告人一旦約ニ違ヒタルカ爲メ保證金沒收ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ同上ノ言渡ヲ以テ豫審ヲ終結スルニ至リタルトキハ當初未決勾留ヲ爲ス可カラサルモノヲ誤テ勾留シタルコト明ナレハ特例トシテ前ニ沒收シタル金額ヲ還付ス是レ法律ノ恩典ナリ但前ニ其沒收ヲ爲スニ付キ檢事ノ意見ヲ聽キタルヲ以テ此還付ヲ爲スニ付テモ亦其意見ヲ聽カサル可カラス

(二五五)保釋ノ外ニ責付ト稱スルモノアリ責付トハ別ニ保證ヲ立テシメス單ニ被告人ノ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キノ證書ヲ差出サシメ即チ責任ヲ負ハシメテ被告人ヲ之ニ交付スルヲ謂フ舊時ノ親類預ケ町村預ケト稱スルモノト其性質異ナルコトナシ蓋シ金錢沒收ノ制裁ナキモ親屬故舊ニ累ヲ及ホサンコトヲ恐レ逃走等ヲ爲サヽル可シト認メラルヽ被告人ニ對シテ此處

分ヲ行フモノトス

此處分ハ保證ヲ立テシメサルニ因リ豫審判事ノ職權ヲ以テ之ヲ行フ

但令狀ノ効力ヲ停止スルハ保釋ト異ナラサルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

責付中被告人ヲ呼出スニ付テ二十四時ノ猶豫ヲ與フルコト及ヒ呼出ニ應シ出頭セサルトキ其責付ヲ取消スコトハ保釋ノ場合ニ於ケルト同一ナレハ復タコヽニ贅セス

帝國議會ノ議員ニ關ス

余ハ前ニ親屬故舊ニ責任ヲ負ハシムル旨ヲ說キタルモ其責任タル單ニ德義上ニ止マリ法律上ノ責任ニ非ス故ニ被告人呼出ニ應シ出頭セサルコトアルモ親屬故舊ハ別ニ制裁ヲ受クルコトナシ唯德義上裁判所ニ對シ不都合ナリトシテ指斥セラルヽヲ免カレサルノミ

(二五六)玆ニ保釋責付ヲ取消スコトニ關シ一大疑問アリ帝國議會ノ議員議會閉會中被告人ト爲リ勾留狀ヲ受ケタルモ後保釋責付セラレタリ然ルニ議會開會ノ後訊問ノ必要アリテ之ヲ呼出スニ渠レ之ニ應セサルトキハ其保釋責付ヲ取消シ更ニ勾留スルコトヲ得ヘキ乎ト云フモノ是ナリ

ル疑問

甲說

甲說ニ曰ク保釋責付ヲ取消セハ其必然ノ效果トシテ前令狀ノ效力ヲ復シ更ニ被告人ヲ勾留スルニ至ルモ這ハ是レ新ニ令狀ヲ發シテ勾留スルモノト同シカラス而シテ帝國憲法第五十三條ニ「會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ」トアルハ單ニ新ニ令狀ヲ發シテ逮捕セサルコトヲ保證シタルニ過キス故ニ開會前已ニ令狀ノ下ニ在ル者ハ開會ニ至ルモ仍ホ引續キ勾留ヲ免カルコト能ハス本問ノ場合ニ於テモ被告人ハ開會前ヨリ令狀ノ下ニ在ル者ニシテ唯一時其令狀ノ執行ヲ停止セラレタルニ過キス然ルニ保釋責付ヲ取消サルヽヤ當